

## 私の志

異色の経歴を持つクリエイター

行動力と創造力で企業と消費者の心を結ぶ

有田みかんの魅力を世界へ発信

地域農業と共に歩みながら家業をダイナミックに展開中

伊藤 彰浩さん

10

村本ちひろさん

6

## 目次

〈表紙〉 緑あふれる御所に対峙する赤レンガの女子中高  
鎌田伸一

(同志社中学校・高等学校事務長)

辻 英俊

(株式会社上原フォートスタジオ)

〈表紙裏〉

新島 襄の言葉

工藤 尚子

(香里中学校・高等学校聖書科)

〈口絵〉

■法人

「同志社創立者新島襄海外渡航の地」碑前祭

■大学

立教大学と相互協力・連携に関する協定を締結

■女子大学

『国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学と包括協定を締結』／

同志社女子大学創立150周年記念口

ゴマークが決定しました

■中学校・高等学校

「中学校2年生夏期研修旅行」

■香里中学校・高等学校

中学・高校 体育祭

■女子中学校・高等学校

「花の日礼拝・福祉の日の行事」

■国際中学校・高等学校

オープンスクール／高校生 球技大会

■国際学院

初等部：『京都府私立小学校連合会

合同音楽会』

国際部：『DISK Graduation』

■小学校

「なかよし遠足」

■幼稚園

遠足／花の日礼拝

「私の志」インタビューの2人

## 特集

STEAM教育座談会

草創期より文理双方の視点を備えていた同志社だからこそ  
STEAM教育をリードしたい……………大久保雅史／川崎公美子／沼田和也／阪田真己子

14

## レクチャー

合唱の同志社 ―創立150周年記念事業全同志社合唱祭に寄せて……………同志社社史資料センター

24

## 同志社の逸品

徳富蘇峰の箱……………同志社社史資料センター

33

## コラム・エッセイ

妻の出産と夫の働き方の柔軟性……………大学社会学部産業関係学科教授 梶谷 真也

35

栄養学を通じて未来を創る……………女子大学生活科学部食物栄養科学科准教授 鈴木 拓史

36

同志社と出会うということ……………女子中学校・高等学校体育科教諭 那須 文恵

37

## 特別寄稿

ジェローム・D・デイヴィス先生の曾孫エレノア・ラネイ氏ご来校……………法人事務部

38

## 私の研究・私の授業

ソーシャルマーケティングでよりよい社会をつくる……………大学商学部教授 瓜生原葉子

42

双方が歩み寄る社会の実現を目指して……………大学文化情報学部助教 山縣 芽生

45

スポーツの近代化とキリスト教……………女子大学現代社会学部現代こども学科 梅垣 明美

48

京田辺を歩く……………国際中学校・高等学校社会科教諭 佐藤 友亮

51

生徒がつくるプロジェクト／政治家の話を聞いて模擬投票を行おう……………中学校・高等学校社会科教諭 井出 教子

54

主体的に環境に関わり、遊びを展開する子どもを育てるために／遊びたくなる魅力的な環境構成を目指して……………幼稚園教諭 竹中 琴恵

58



## 新刊紹介

スチューアート・バートン・ニコルズ伝アーモスト大学と同志社の交流―アーモスト大学学生代表同志社大学派遣百周年記念―／スチューアート・バートン・ニコルズ伝編集委員会編  
ブルックリン化する世界 ジェントリフィケーションを問う  
なおす／森千香子著  
核不拡散と核軍縮の国際法／浅田正彦著  
ケアの倫理―フェミニズムの政治思想／岡野八代著  
民主司法の救済形式―「憲法価値」の手続実現／川嶋四郎著  
真のキリスト教神学のための弁証／中野泰治著  
フランス教育システムの歴史／越水雄二訳

クビライと南の海域世界／向 正樹著  
関和知の出世 政論記者からメディア議員へ／河崎吉紀著  
ジョアン・トロント著『ケアリング・デモクラシー』市場・平等・正義』を監訳・解説して／岡野八代著  
教室の中の認知行動療法／石川信一著  
教理問答と信仰告白／中野泰治著  
イギリス湖水地方ビクターラビットの野の花めぐり／白井雅美著  
西尾実国語教育論の生成と展開／松崎正治著

## 同志社クローズ・アップ

安中市・学校法人同志社連携協定事業 安中・同志社新島講演会 ..... 法人事務部 68  
18年ぶりとなるアーモスト大学学長の表敬訪問 ..... 大学国際課 71  
「女性アクティベーションセンター」の取組について ..... 女子大学センター長／看護学部看護学科教授 光木 幸子 73  
Interview to Foreign Tourists! 〜2023年度中2「英語B」授業実践〜 ..... 中学校・高等学校英語科教諭 皆川 祥吾 76  
寝屋川市駅から本校までの直行便バスの運行―バスロータリーの新設― ..... 香里中学校・高等学校 徳元 篤志 79  
英語オンラインスピーキングの取組 ..... 女子中学校・高等学校英語科教諭 伊藤 芽衣 81  
歌は喜び―熱い想いを唇にのせて― ..... 国際中学校・高等学校音楽科教諭 コーラス部／キリエコース顧問 阿部 望 83  
IB・PYPプログラムと連動した宿泊学習 ..... 国際学院初等部教頭 風間 寛 86  
同志社小学校におけるハーモニーウィークの取組 ..... 小学校副校長 石川 博三 88  
年長組の校祖墓参 ..... 幼稚園園長 北川 雅章 90  
同志社一貫教育探求センター所長 大久保雅史 93

## 同志社の一貫教育 hitohito-Li

同志社一貫教育探求センター所長 大久保雅史

●本誌では学校法人同志社の各学校名から「同志社」を省略して、左記のとおり表記しています。

大学＝同志社大学、女子大学＝同志社女子大学、中学校・高等学校＝同志社中学校・高等学校、香里中学校・高等学校＝同志社香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校＝同志社女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校＝同志社国際中学校・高等学校、小学校＝同志社小学校、国際学院初等部、国際学院国際部＝同志社国際学院初等部、同志社国際学院国際部、幼稚園＝同志社幼稚園

●執筆者等の役職・職位は2024年10月31日現在、大学広報課が把握している範囲で表示しています。

「嗚呼天我を棄てさるか、我業の成否此一挙にあり」  
（〔函館紀行〕、『新島裏全集 5』p.9）

1864年3月7日、読んでいた航海書の質問をするため中浜万次郎のもとを訪ねようとしていた新島は、偶然出会った加納格太郎から、快風丸が数日中に箱館に向けて出帆するが君は行くかと尋ねられる。躍り上がった新島は驚くべき速さで備中松山藩主、安中藩主、家族らへ許可を取り付けるべく奔走。9日には藩主からの内諾を受け、思わず大声を出して標記のごとく叫んだという。

ここで「業」とされるのはもちろん学業、学問のことである。だが、この学問への燃える思いが叶ったことで祖父や母は「悲哀の顔色」を浮かべたと記されているから、これは新島の「業（ごう）」であったと言えなくもない。

藩邸の執務を抜け出してまで蘭学塾に通う新島を、上司は殴り、祖父や両親は咎め、友人たちは嘲笑したという。「勉強して怒られるなんて」と今の生徒たちは驚くが、学問は常にその価値が理解されているわけではない。何の意味があるのか他人には、時には当人にさえ分からないこともある。けれども「業」に突き動かされるようにして学んだ末に得た真理が、思いも及ばなかった豊かな世界を拓いていくのである。

この時の新島の約2倍の年齢になった私ではあるが、躍り上がって学びに邁進する心を失わず、その喜びを生徒と分かち合っていく者であり続けたい。

## 「同志社創立者新島襄海外渡航の地」碑前祭

2024年6月14日(金)11時から、函館市大町において、「同志社創立者新島襄海外渡航の地 碑前祭」が執り行われました。

柳井望学校法人同志社法人事務部長による司会のもと、一同で讃美歌を斉唱しました。続いて、八田英二総長・理事長による式辞が述べられ、次いで高井暁函館市観光部次長による挨拶がありました。その後、一同でDoshisha College Songを斉唱、最後に、八田英二総長・理事長並びに高井暁観光部次長による献花が行われました。

そよ風吹く心地よい晴天の中、約50名の校友や函館市民の方々が集い、校祖新島襄の熱い思いに心寄せる貴重な機会となりました。

日頃から碑のお世話をいただいている函館市並びに同志社校友会函館クラブの皆様に、心から御礼を申し上げます。

2025年には同志社創立150周年を迎えます。記念事業の一環として、函館市(6月14日)、札幌市(6月15日)で記念講演会を予定しております。詳細は下記「創立150周年記念ホームページ」をご参照ください。2025年4月頃、掲載予定です。



<https://150th.doshisha.ed.jp>

## 立教大学と相互協力・連携に関する協定を締結

2024年5月7日、立教大学池袋キャンパスにおいて、同志社大学と立教大学との相互協力・連携に関する協定書の調印式が行われました。

両大学はキリスト教主義、またキリスト教に基づく教育を掲げ、これまでも教育研究における価値観を共有する関係を構築し、双方の学生、教職員による交流が行われてきました。このたび、両大学が紡いできた関係をより強固なものとし、双方の発展に寄与すること、また学生、教職員による交流にとどまらない広範な連携を目的として相互協力・連携に関する協定を締結しました。

協定書調印式の後には、協定締結を記念した小原学長と西原総長との対談も行われ、今後の連携やキリスト教主義教育について意見交換がなされました。





## 『国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学と 包括協定を締結』

2024年6月27日

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学と本学は、両大学の強み・特色を活かし、相互に連携協力するため包括協定を締結しました。

本協定は、グローバル社会に貢献できる人材の育成に向け、学生及び教職員の交流の推進、教育及び研究に関する協力等、広く連携を図り、両大学の更なる充実・発展に資することを目的としています。

両大学の連携の推進により、幅広い教養と科学技術分野の専門知識を土台とした多様な分野で活躍できる次世代女性リーダーの育成をはじめ、研究、人材育成、地域社会への貢献など、さまざまな分野での相乗効果が期待されます。



## 同志社女子大学創立150周年記念ロゴマークが決定しました

同志社女子大学は、2026年10月24日に創立150周年を迎えます。

この節目にあたり本学では、在学生が授業内で記念ロゴマークの制作に取り組み、上川有紗さん(学芸学部メディア創造学科4年次生)が制作したデザインに決定しました。この記念ロゴマークは、今後開催される周年関連イベントや各種印刷物、ホームページ、大学グッズなどに広く活用してまいります。



同志社女子大学  
1876 - 2026  
創立150周年

## 「中学校2年生夏期研修旅行」

コロナの影響により宿泊研修行事が中止となっていましたが、昨年度より形を替えて、中学2年生の研修旅行が復活しています。従来の唐松岳登山だけでなく、広島、南信州、和歌山の各研修旅行より、各自が行き先を選択する形となりました。



唐松登山



広島研修



南信州研修



# 同志社香里中学校・高等学校

DOSHISHA KORI JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL

## 中学・高校 体育祭

5月9日(木)に高校体育祭を、5月10日(金)に中学体育祭を、北河内の街を見晴らす広々とした第1グラウンドでそれぞれ開催しました。

両日とも5月にしては珍しくやや肌寒い中でのスタートとなりましたが、日中には気温も上がり、体育祭日和となりました。徒競走や借り人競争、騎馬戦や綱取りなどの学年種目のほか、チアダンスや応援合戦、クラブ対抗リレーなどで会場は盛り上がり、フィナーレを飾るクラス対抗リレーでは、多数ご来場くださった保護者の皆さんからも温かく大きな声援が送られる中、選手が全力で駆け抜けていました。

中学では生徒会が、高校では自治会が中心となり体育祭の準備に取り組みました。各クラブ部員の尽力などもあり、両日とも成功裡に終えることができました。





## 「花の日礼拝・福祉の日の行事」

6月14日(金)午前中、生徒が持ち寄った花を栄光館の壇上に並べ、講師の先生を招いて花の日礼拝を守りました。午後には、高校1年生はその花を花束にして、老人ホームや養護施設など24か所に分かれて訪問しました。高校3年生は体育館で車椅子バスケットの体験と交流、中学全学年と高校2年生は栄光館で助産師による講演会『大切にしていんだよ、自分のからだところ』を聞きました。





## オープンスクール

2024年6月15日

オープンスクール来場者へ、歓迎の思いを込めてパフォーマンスを演じるアメリカンフットボール部チアリーダーと吹奏楽部の生徒たち。学生らしい活気あふれるパフォーマンスに会場は盛りあがりました。また、ボランティア生徒による校内の案内を行いました。来場者も生徒たちも、充実した雰囲気の中、オープンスクールの幕を閉じることができました。



## 高校生 球技大会

2024年6月13日

各学年クラス男女別総当たりでの形式で、ドッジボールを行いました。過ごしやすい天候の中、熱い戦いが繰り広げられました。新しいクラスになり間もない中、それぞれのチームで作戦を立て、クラスの仲はより一層深まりました。優勝したチームには表彰状が送られました。





同志社国際学院  
Doshisha International Academy

## 初等部:『京都府私立小学校連合会合同音楽会』

2024年6月1日

毎年6月に開催されている合同音楽会に、DIAでは初等部4年生とDIAアンサンブル(初等部・国際部有志による室内楽団)が出演しました。音楽を通して、京都で学ぶ様々な学校の子どもたちと交流する良い機会となりました。初等部4年生は《Music Is...》(Andy Beck 作詞/作曲)、DIAアンサンブルは《ハンガリー舞曲第5番》(ブラームス 作曲/藤盛祐輔 編曲)を演奏しました。



## 国際部:『DISK Graduation』

The graduation ceremony(commencement) was held on June 26th (Wednesday).

We all celebrated departure day from the bottom of our heart.

Have a great life, graduates! Also, please come visit DISK anytime!

Go, go, go in peace. Be strong! Mysterious Hand guide you!





# 同志社小学校

Doshisha Elementary School

## 「なかよし遠足」

5月2日になかよし遠足を実施し、1年生、6年生が京都・若王子山にある校祖新島襄先生の墓参を行いました。当日は晴天に恵まれ、児童たちの笑顔にあふれた遠足となりました。新1年生が同志社小学校での歩みをスタートしたばかりの時期に、6年生が1年生に同志社の歩みを語り伝えるとともに、児童同士がお互いを知り深くつながるきっかけとなりました。





## 遠足

2024年5月17日

快晴の青空の下、年中・年長組は宝ヶ池公園へ、年少組は親子で子どもの楽園へ遠足に行きました。年少組にとっては入園して初めての行事であり、親子一緒に遊具で遊び、芝生でかけっこやふれ合い、ゲームなどを楽しみました。年中・年長組は各1名ずつペアになって行動しました。宝ヶ池では、サギやコイ、アメンボなどいろいろな生き物を見つけましたが、中でもたくさんの亀が甲羅干しをしている様子に子ども達は大喜びでした。電車に乗ったり、公園内で散策したり、少し長い距離でしたが、年長組が声を掛け優しく手を引きながら関わる姿が見られ、お互いに親しみを深める機会となりました。



## 花の日礼拝

2024年6月4日

各家庭から子ども達が持ち寄った花束や鉢を前に、花の日礼拝を行ないました。いつも私たちを守ってくださり、豊かな自然やすべてのものに命を与えてくださる神様へ感謝のお祈りを捧げました。礼拝後には、学内や近隣のお世話になっている方々に感謝の言葉とともに花束をお届けに行きました。皆さんに喜んで受け取っていただき子ども達も嬉しく思うと共に、周りのいろいろな方々に大切にされ助けていただいていることを改めて感じる一日となりました。





## インタビューの2人

イラストレーター

むらもと

村本 ちひろさん



卒業後システムエンジニアを経て、好きだったイラストを描こうと上京。現在、書籍の装画や広告を中心に幅広く制作活動を行っています。創造力の源は好奇心。きれいだな、面白いなと感じたものは根気よく調べます。そんなリサーチ力や私の存在を知ってもらうための発信力は、情報メディア学科で身についたのかなと思います。

1982年大阪府生まれ。2001年、同志社女子大学学芸学部日本語日本文学科（当時）入学、2年次修了後に学芸学部情報メディア学科（現・メディア創造学科）に転科、2006年同学科を卒業。卒業後は大阪府内でシステムエンジニアとして勤務後、2009年、東京へ移住。Pallet Club School、山田博之イラストレーション講座卒業。透明水彩を中心としたアナログイラスト、デジタルイラストなどを制作し、大手企業の広告・パッケージ、書籍の装画など、幅広い分野で活躍中。著書に『おとなのステキなぬりえ BOOK Time for healing ～癒しの時間～』（啓文社）など。



Interview

# インタビューの2人

私の  
志

柑橘専門農園社長

いとう あきひろ  
伊藤 彰浩さん



有田みかんの産地で柑橘の生産・加工・販売を行う会社の4代目です。早い段階で農業の6次産業化に取り組み、地域と共に成長できる喜びを感じています。うちの100%ピュアジュースは果皮を使わないので苦味がなく、すっきりと飲みやすいですよ。



1980年和歌山県生まれ。2004年、同志社大学経済学部卒業と同時に酒類専門商社に就職。2006年に帰郷し、3代目の父が経営するみかん生産・卸売の伊藤農園に入社。以降は経営の安定を目指してブランディングや6次産業化に取り組み、地元産の柑橘類を加工した多様な商品を国内外へ発信。2023年、代表取締役社長に就任。同年、経済誌「Forbes JAPAN」の企画「スモール・ジャイアンツ・アワード」でローカルヒーロー賞に選出。

# Interview



## 150周年を迎えるにあたって

同志社総長・理事長 八田 英二

### 同志社英学校、女子塾から大学へ

同志社は42,000名を超える園児・児童・生徒・学生、約1,800名の教職員（有期含）を擁する私立総合学園です。その起源は1875年創立の同志社英学校、1876年創立の女子塾に遡ることができます。校祖は新島襄ですが、D. W. ラーネッド博士によると揺籃期の同志社には3つの源流がありました。新島、アメリカン・ボード、そして熊本バンドです。すべてキリスト教に深く繋がっています。英学校創立には海外のキリスト教団体和善意の方々的心強い支援を受けました。しかし創立目的はキリスト教の伝道師養成学校やミッションスクールではありません。広く人間教育に重点をおいた高等教育機関を目指すものであり、新島の理想としたキリスト教主義大学設立のための布石でした。

新島の宿志とした大学は1912年に専門学校令、続いて1920年に大学令により、漸く日の目を見ることにな

りました。一方、女子塾を源とする同志社女学校ですが、1912年に専門学校令により同志社女学校専門学部となりました。時は移り、戦後の教育改革のもと1948年には新制同志社大学、1949年には同志社女子大学が発足しています。

今年は英学校創立から数えると149年、いよいよ来年は記念すべき150周年を迎えます。長い道程の中、教育事業に尽力されてきた関係者一同に深く敬意を表します。

### 一貫教育体制の充実と大学教育の強化

かねてより良心教育による人物育成を目指して「キリスト教主義」「国際主義」「自由主義（リベラル・アーツ）」を高く掲げ、同志社は教育体制の拡充に果敢に取り組んでまいりました。時代の要請に応えるべく、教職員が中長期的な展望を共有していたからに他なりません。同志社はその名の如く、「志を同じくする者が創る結社」です。

いつの時代にも法人内諸学校が教育内容の改革に努めたことは勿論ですが、同志社国際中学校・高等学校や同志社小学校並びに同志社国際学院初等部・国際部の開設、同志社中学校の岩倉への移転と同志社高等学校との統合等は一貫教育体制の充実を追い求めた結果でしょう。専門職大学院や独立研究科の開設も高度な教育・研究活動の展開を待望する声が背景にありました。

18歳人口の増加や大学進学率の上昇は高等教育機関に規模の拡大を強く求めました。教育施設・設備の拡充を図るべく、同志社大学は京田辺校地を開設し、1986年の1、2年次教育の全面移転、1994年の工学部教育の統合移転へと大きく舵を切りました。背景には都市部の一部区域での大学等の教室の新設・増設を規制する「工業（場）等制限法」の存在がありました。1991年の大学設置基準の大綱化、続く2002年の「工業（場）等制限法」の廃止、学部・学科新設に関する規制緩和等により、同志社大学では政策学部を始めとした8学部の新設、1、2年次文系学部教育の今出川校地回帰も実現しました。

同志社女子大学でも1986年の京田辺校地への一部移転と短期大学の開設、現代社会学部を始めとした新学部の開設など、新たな構想が次々と具体化されました。その後、短期大学部は廃止されましたが、現在では6学部・5研究科・1専攻科を擁する総合女子大学として高度な教育・研究活動を展開しています。

## 200年の大計に向けて

少子化の進行により、わが国は人口減少という深刻な事態に直面しています。言うまでもありませんが、学校教育市場も縮小する一方です。入学定員未充足の大学の割合は昨年度には53・3%にまで上昇したと私学事業団は公表し

ています。学生募集を停止した学校、統廃合・再編のニュースが巷には流れています。定員未充足に加えて、これらの教育機関にはグローバル化、DX化、脱炭素への対応、多様性の寛容・受容といった新たな課題にも不断に挑戦しなければなりません。対応を誤れば、他に後れをとり、致命的な結果となりかねません。

2025年に同志社は記念すべき150周年を迎えます。いくつもの記念事業や行事は既に実施されました。オリジナル賛美歌、記念トークショー、Doshisha New Day 2023は好評を博しました。記念事業委員会のもと、引き続き多くの事業が予定されています。節目の150周年ですが、単なる通過点ではありません。過去を振り返り、現在を見つめ直し、未来への展望を定める好機ととらえるべきでしょう。

知・徳・体の三位一体の均整の取れた人物育成を目指し、キリスト教主義を徳育の基礎とする同志社は、これからも良心教育による人物育成を追求してまいります。かつて経験したことがないほどの教育環境が激変する現在、創立200周年に向けて教育システムをどのように再編成・再構築していくのか、大きな決断が迫られています。150周年を機に、教職員や校友・同窓を始め、関係者全員が情報共有し、夢を語り合い、未来の同志社の姿を見定め、環境を整備し、協働して歩み続けることが必要でしょう。





## 私の志

# 異色の経歴を持つクリエイター 行動力と創造力で 企業と消費者の心を結ぶ



むらもと  
村本 ちひろさん (イラストレーター)

漫画制作に取り組んだ学生時代。社会に出てもその情熱を抱き続け、ときを経て商業イラストレーションの世界で才能を開花させた卒業生がいます。消費者の心に届く表現を生み出す苦労などに触れながら、クリエイターの志を伺いました。

### 情報メディア学科での学びと

漫研で描き続けた日々が土台に

——女子大学で一度、転科をされていますね。

村本 読書が好きで国語や英語が得意だったので日本語日本文学科に入学しましたが、私の関心と合致したゼミがないように感じました。そのとき情報メディア学科（現・メディア創造学科）が新設されました。アドビのソフトやマスコミュニケーションなど、新しい事を自由に学べるらしいと知って、今までと180度違うことをやってみたくなったんです。漫画が好きで同志社大学の漫画研究会に所属し、ときにはフォトショップも使いながら作品を描いて

いましたから。情報メディア学科は周りが創作意欲の盛んな人たちがばかりで、とても刺激になりました。

——卒業後、大阪でシステムエンジニアを3年間された後、東京へ行かれました。

村本 当時の仕事で、私にはあまり向いていないように感じたんですね。私生活でもいろいろ我慢して体裁を整えて生きてみると、自分自身に辻褄が合わなくなってきました。まだ20代だし、一度自分のやりたい事だけをする時期を設けようと思ったんです。東京には出版社も多いし、情報発信のチャンスも多いですから。といっても当時は趣味で描いていただけだったので、向こう見ずな決断だったと思います。最初の5年ほどはアルバイトをしながら描き続け、さまざまな展示に参加するなどしていました。

——何か転機があったのですか。

村本 山田塾で学べたことです。NHK大河ドラマ「どうする家康」の劇中イラストを全部描かれた、山田博之さんが主宰しておられるイラスト塾です。自分があるがままで描いていかないといつかは破綻するから、既に持っている個性を活かす方法を教えてくださるところに共感しました。具体的な営業手法なども教えていただいたおかげで、2019年頃からようやくイラストで独り立ちできるようになりました。

——大変失礼な質問ですが、美術系の大学や専門学校で学んでおられないことは不利にならなかったのでしょうか。

村本 逆に、それが原動力にもなりました。人一倍頑張らないと仕事は来ないなど。だからデザイナーさんのトークショーに出てみたり、積極的に人脈を築いたりして、私を見つけてもらう努力を重ねたつもりです。

個性を大切にしながら  
消費者の気持ちに届く絵を模索

——ご自身らしい表現や個性は、どのように育てていかれたのでしょうか。

村本 漫研時代はストーリー物や女の子の絵を描いていたのですが、人物画があまり得意ではなかった。そこで、動植物を描き始めた。評価してもらえなくなったんですね。一方で、一つの絵の中に物語性を込めた「一枚絵」がいいなと思うようになっていきました。ただ、デジタルで描くといつまでもアンドゥができて終わりが無いように感じ、



雑誌・書籍などの装画。食品関係の絵は手に取りたくなるシズル感を意識しているそう。

アナログの透明水彩に惹かれていきました。昔はグリム童話の『おどる12人のおひめさま』（ほるぶ出版）のような、ヨーロッパの絵本がすごく好きだったので、そういう世界を表現したいという願望もあったと思います。

——現在のお仕事ぶりを教えてください。

**村本** 書籍の装画と企業広告が半々ぐらいです。書籍の仕事は比較的時間をいただけますが、広告の仕事は忙しいですね。例えば商品パッケージのイラストだと、デザイナーさんの頭の中に完成図があるので、私はいわばそれを描き出すツールになります。缶ビールのパッケージを担当したときは、水彩絵の具1色だけを使ってリアルな絵を描いてほしいという要望がありました。そこで毎日ホップを1個描いてはデータ化してデザイナーに見せるやり取りを4日ほど続け、OKをいただいで全体を描き上げ、バイク便に原画を渡して終わるまでが1週間でした。

——コミュニケーション力も重要になりますね。

**村本** より良い制作を行うには、クライアントやデザイナーの意図を正しく汲み、私からも発信しながら、円滑なやり取りを進めることが不可欠です。イラストレーターには引っ込み思案な人も多いのですが、コミュニケーション力という点では情報メディア学科で培うことができたのかもしれないですね。思いついたアイデアやこなれていない絵を提案し、意見を聞きながら詰めていく作業は、水中で必死に

水をかき続ける白鳥みたいなものかもしれません。毎回苦しみますが、それで喜んでもらえたら嬉しいです。

——今も苦しむことはありますか。

**村本** あまり苦しむと、自分がなぜ絵を描きたかったのかが分からなくなつて、しんどくなることがあります。だから最近では、クライアントさんに寄せ過ぎないようにしようとは思っています。自分のテリトリーを一定程度保ちつつ、そこからちよつと出るのはいいけれど、全然違うところを冒険すると、自分の絵がグダグダになってしまいますから。

——苦しくても描き続ける原動力は何でしょうか。

**村本** 好奇心です。好奇心に従つて物事を深く調べ、表現方法を考える。今思うと情報メディア学科は、自分から「これをやりたい」という強い意志を示せば、手厚くサポートしてくださる場所でした。その環境で過ごし、自分から行動を起こした結果の成功体験の積み重ねが、今の私の背中を押してくれているように思います。失敗もあるけれど、続けていけば何となく形になるということは多いです。

### 絵本でひらいた新境地

——絵本も手がけられたそうですね。

**村本** 今年7月、東京書籍から出版されたばかりの『THE SEA TURTLE ウミガメ』という、小学生向けの英語の

絵本に描かせていただきました。小学校の英語教科書でアカウミガメの物語の絵を担当したら良い評価をいただき、そこから派生したお話です。まだ英語の文章をあまり読めないお子さんが読むかもしれないので、絵だけでも楽しそうと思ってもらえたらと考えて、海の色をページごとに変えたり、魚を水族館で研究したりして描きました。このよ

うに、種子をもらって膨らませるのは好きですね。広告の仕事だとデザイナーさんが構図まできっちり決めますが、今回の絵本では大まかなラフしかなく、ほとんどおまかせみたいな感じでした。そういうやり方は初めてだったので、どこまで求められているのが却って分からず、非常に悩みました。でも、期待していただけるのは嬉しいです。

——イラストレーターとしての志をお聞かせください。

**村本** 動植物を描いているときは、世の中にはまだ知らないものやきれいなものがいっぱいあるんだよ、というような面白さを伝えられたらいいですね。今回の絵本なら、絵をきっかけに子どもたちが魚について調べ、習性を知って



英語教科書の表紙と原画

くれたら楽しいなど。志になるかどうかは分かりませんが、イラストレーターというのは、消費者とクライアントさんとの橋渡しをする存在だと思っています。どれだけ立派な商品でも、良さや価値が消費者に伝わらないと買ってもらえません。そのために文章や写真、イラストがクツシヨ的な存在としてあるのだと思うと、責任重大な気がします。

——読者へメッセージをお願いします。

**村本** 叶えたい事があるのなら、途中に休みが入ったとしても、続けていれば必ず形になると思います。私の仕事について言えば、私の生き方が作品にも表れると思うので、自分が楽しく生きないと周りを楽しくできないと思っています。これからも好奇心を大切にして、楽しく生きていきたいですね。

(2024年7月29日、東京にて)





## 私の志

# 有田みかんの魅力を世界へ発信 地域農業と共に歩みながら 家業をダイナミックに展開中



伊藤 彰浩さん  
(伊藤農園4代目社長)

父が作り出した100%ジュースを原点に、明治中期創業のみかん問屋を20億円企業に育てた卒業生を紹介します。挫折を乗り越えた成長の背景には、「志」の大切さに気づいた転換期がありました。

### 父の信念を肝に銘じ Uターンして会社再生へ

——ご実家の伊藤農園の沿革を教えてくださいませんか。

伊藤 1897年にみかん問屋として創業し、農家さんからみかんを買って東京や大阪の市場に売る、流通の役割を担っていました。その後農協が誕生し発展していく中でみかん問屋の役割が薄れていき、生き残りが厳しくなってきました。どの地域も少子高齢化の影響で元気を失っていく中で、私が小学生の頃、父がみかんジュースを作り始めたんです。みかん栽培では、どうしても2、3割は規格外

品が出ます。当時でキロ約200円の売値が、ちょっと見た目が悪いだけでキロ2円ぐらいになる。しかも買い取ってもらいに農協に運ぶだけで、人件費やガソリン代を考えれば赤字です。それが農業経営を圧迫し、みかんの適正価値を無駄にしているのではという疑問から、規格外品を買い取って始めたジュース作りでした。規格外品に目をつけてという発想ではなく、もっと高い値段で取り引きをして付加価値がつけられる形を考えたのが出発点でした。自分たちが生き残るための事業転換ではありましたが、地域と共に成長しなければ自分たちの成長は絶対にならないという信念が、父にはずっとあったと思います。

――卒業後は酒類専門商社に就職されました。

伊藤 食に関心があったのと、父のジュース作りも関係したと思います。飲食店に対する総合サポートを行う会社だったので、営業の実践的なノウハウと、どんなお店がちゃんと収益を上げてお客さんに認められるのかを学びました。当時の経験は今でも大いに生きています。

――有田に戻られた経緯をお聞かせください。

伊藤 僕は大学在学中も就職後も、百貨店の催事などでジュースの販売を時々手伝っていました。そこでお客さんがうちの商品をすごく美味しいと言ってくださる。父の作る

商品が認められ、必要とされている実感を得ました。けれど、全然売れていない。どうすればもっと売れるかなと考えていました。そんな中で父が体調を崩して「帰ってこないか」と声をかけてきた。当時は自分が本当にやりたいものも見つかっていなかったので、僕にできる事がありそうだなと思い、2006年に帰郷しました。

突進しすぎて離れた人心  
真の再生は全社挙げての「志」づくりから

――伊藤農園に戻られてから、会社の再生にはどのように取り組まれたのでしょうか。

伊藤 当時はパート従業員が10人ほどで、売上は1億円程度。最初は食に非常に関心の高い層をメインターゲットにして、漠然と売上10億円という目標を立てて突き進みました。ただし安売りや、商品価値を損なうような売り方はせず、父が大切にしていた芯となる部分は守りました。

――順調に進みましたか。

伊藤 10億を超えたあたりから、皆がついてきていないことを痛感しました。志がなければ誰もつい



てこないことに気づいたんです。2011年からは新卒採用も始めましたが、働き方よりも売上優先で突っ走ったためか、採用した社員の約半数はいなくなりました。そこで会社の存在意義や自分たちが働く目的をしっかりと皆で考えて経営理念を固め、行動指針「クレド」を設定しました。さらに規模を拡大して父が大切にしてきた地域貢献を継続するためにも、経営理念に共感し、志を持って働く人たちの集まりにしていきたいといけない。そのための取り組みにずっと力を入れています。毎日の朝礼で行うクレドトークもその一つです。行動指針に自分の仕事を関連づけ、自分が行っている取り組みを1分ほど話してもらい、次の当番の人はそのフィードバックや感想を述べる。ずっと続けていると行動指針が社員に浸透し、会社全体の思考と行動のスピード、循環も非常に速くなりました。

——その中でも大切にしておられる事は何ですか。

伊藤 美味しさです。みかんのすべてを有効に利用し、素材の味を最大限に生かすことです。合理性や効率という発想ではなく、とにかく美味しさにフォーカスして作る。父は職人気質なので、美味しいものを作ることがゴールです。僕は、その価値をもっといろんな人に知ってもらいたい。そんな2人の信念を両輪で徹底させて、ここまで成長できました。現在は100種近い商品を展開する一方で海外進

出にも力を入れ、フランスのミシュランの星付きレストランから評価を得たことを契機に、ヨーロッパでの取引も拡大しています。お陰様で2023年には売上20億円を達成し、現在は地域から加工用柑橘を約2000トン仕入れられるようになりました。

次は農業複合施設を作って有田を活気づけたい

——地域と共に成長したいというお父様の思いは、見事に受け継がれているんですね。

伊藤 地域農業の根幹部分に、何かしら力添えができたかなと思います。ただ規格外品の課題が改善されても、それが農業の継続には直結しません。廃業を選択された農家さんも非常に多く、耕作放棄地が年々増えています。みかん畑はちよつと放置すると、すぐ森みたいになり、獣の住処になって他の畑まで荒らされることになる。廃業してみかんを作らないという選択はできても、畑を放置すれば他にもっと悪い影響が出る。そこで伊藤農園の安定的な原料確保と地域のみかん畑の維持・存続という両方の目的で、耕作放棄地を毎年積極的に買ってきました。

——今後の展望をお聞かせください。

伊藤 今まではみかんの価値を国内外に発信してきました

が、次は逆に有田に人を呼び込み、みかんというコンテンツを活かして皆さんにここで楽しんでもらうことで、さらに地域貢献ができればという思いがあります。

——具体的な計画はおありですか。

伊藤 夢は、みかんをテーマ

にした農業複合施設「伊藤農園ビレッジ」の建設です。畑で農業体験をして、自分で育てたみかんを自社工場でジュースやマーマレードに加工するワークショップをしたり、レストランでみかんをテーマにしたスイーツやランチが楽しめます。この辺はタチウオなど、海産物も非常に美味しいんです。そういう地元の食材を楽しめるホテルレストランで一泊して、お土産も買って帰ってもらえる施設を作りたいですね。すべて伊藤農園であるのか、地域の人たちと協業するのは今後の話ですが、これらの実現を通して、もっと地域に貢献して成長していきたいです。その第一弾として今年4月にレストランをオープンしました。結局目指すところは、里山の豊かさを提供できる会社なんです。誰かが歩いて足跡がつき、畦道のようなものができていく。



一帯に広がる石垣階段型のみかん畑

そこには人の温かみが乗っかっている。作られてはいるけれど自然を感じられる豊かさを提供したいという思いの中で、ビレッジ構想が育ちました。とにかく和歌山を、この有田をみかんでもっと活気あふれる地域にして、皆で幸せになっていきたいです。

——読者へメッセージをお願いします。

伊藤 僕にとってはやはり、10億円の分岐点が非常に大きかったです。ひたすら数字と規模を追っていた時期と、従業員の幸せや地域の発展を本当に念頭に置いてやっている今とでは、自分自身の考え方も組織自体もガラッと変わりました。同じ志を持つメンバーの集まりになっていくことで組織はもちろん強くなりますが、僕自身もそれによって一個の芯を持てるようになり、強さを身につけられたと思います。

(2024年7月31日、和歌山県有田市にて)



柑橘をバラエティ豊かに楽しめる直営レストラン



# 草創期より文理双方の視点を備えていた 同志社だからこそ STEAM教育をリードしたい

近年STEAM教育が注目されており、文部科学省でも、STEMに加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進している。

本座談会では、異なる教育課程の教員が、それぞれの教育段階における、STEAM教育への取り組みや考え方について意見交換を行い、互いの取り組みを学びつつ、今後の同志社のSTEAM教育について展望を語り合った。



同志社大学 理工学部 教授

大久保 雅史

同志社小学校 理科 教諭

川崎 公美子

同志社中学校・高等学校 教頭  
技術科 教諭

沼田 和也

同志社大学 文化情報学部 教授

阪田 真己子



阪田 真己子 氏

同志社大学 文化情報学部 教授

**阪田** ●近年、STEAM教育はグローバルなテーマとして多くの教育機関が取り組み、急速に認知されてきています。もとはSTEMといい、アメリカで始まった理系の人材を増やすための政策でした。そこへリベラルアーツや芸術分野を含めてAを入れ、STEAMと呼ばれるようになっていきます。本日はSTEAM教育の現場のお話を伺いながら、法人内の取り組みを共有し、同志社ならではのSTEAM教育の夢について語っていただく機会したいと思います。

**川崎** ●同志社小学校で理科の専科を担当しており、自然科学

学に関すること全般に携わっています。STEAMとの出会いは2017年です。本日おられる沼田先生がSTEAMキャンプを同志社中学校で実施されたとき、偶然通りかかって興味を持ちました。そ

れ以降、沼田先生のお手伝いをしながら、小学校でもできるだけSTEAMの要素を取り入れています。なお私は6年生の理科の教科書（啓林館）でも、STEAM教育について執筆しています。

**大久保** ●同志社大学理工学部情報システムデザイン学科に所属しています。全学の学部生対象の正課科目であるプロジェクト科目の検討部会に関わり、日本伝統織物研究所の龍村周氏と共に京都の伝統織物を支援する科目を十数年間担当しています。法人同志社では、現在同志社一貫教育探索センターの所長です。また京田辺キャンパスで2003年秋から続けている同志社ローム記念館プロジェクトにも関わり、現在、同志社創立150周年事業で、同志社のキャンパスをバーチャル空間に再現するプロジェクト「Diverse」を学生と取り組んでいます。

**沼田** ●同志社中学校で技術を教えています。技術科といえば、ものづくりですね。私の大きな取り組みの一つは「アジアSTEAMキャンプ」です。日本のものづくりが販路を求めてアジアに広がったことになり、同志社中学とアジア諸国の子どもたちが交流して国際感覚を養いながら、科学技術を学ぶ授業プロジェクトです。二つ目は「学びプロジェクト」で、年間400近く企画を作っています。子どもの学びは学校の授業のただけで閉じず、一般社会や地

域社会にコミットするものでないといけないという思いから、地域の方にもご協力を呼びかけています。

**阪田** ●ありがとうございます。国禁を犯してアメリカに行った新島先生は、日本人として最初に大学を卒業した人になりました。与えられた学位は理学士 (Bachelor of Science)、つまり自然科学です。新島先生は、アメリカで学んだリベラルアーツと科学、そしてキリスト教を調和させて日本に導入することを決意し、1875年に人文科学、自然科学、キリスト教に関わる科目を組み合わせた総合的なカリキュラムを設計して同志社英学校をスタートさせます。いわば、新島先生自身が、今という文理融合、まさにSTEM教育のパイオニアと言えるでしょう。また彼がハリス理化学館を作ったのは1890年ですが、日本で科学教育・研究の機関名あるいは建造物の名称に理化学という言葉を使ったのも、このハリス理化学館が最初だと言われています。このような草創期の経緯を踏まえれば、同志社という総合学園が日本のSTEM教育の一つの拠点として、この教育を先導する立場にあると言っても過言ではないと思います。それでは改めて、先生方の実践例をお聞かせください。

### 学部・学科の枠を越えた 実践型・参加型のプロジェクト科目

**大久保** ●プロジェクト科目を正課科目として始めたのは2006年でした。PBL (Project Based Learning) は世界的に見ると、アメリカのスタンフォード大学が最初に取り組んだもので、学部科目ではなく、機械工学の大学院で開講された科目でした。機械工学の学生と経済学部など他学部の学生が集まり、一つのテーマに対して回答を見つけていくものです。例えば空き缶を潰す機械を作る。機械工学の学生だけだと金に糸目をつけずに面白いものを作ろうとしますが、そこに経済の思考が入ることによって、コストという別の視点が加わります。これがプロジェクト科目の一番良い点です。また、プロジェクト科目とは別で、同志社ローム記念館プロジェクトは、同志社大学と同志社女子大学や法人内中高の学生や生徒たちが、ITを活用して、広く社会に文化の創造・発信を行う活動です。これはプロジェクト科目より早く活動を開始しました。これらのプロジェクトは学部・学科を問いません。多様な立場、背景を持つ学生が集まり一つの目標にたどり着くプロセスを経験することは、社会から求められている人間力を養うことに



大久保 雅史 氏

同志社大学 理工学部 教授

他者に伝えるためのスキルや素養を身につけることが、プロジェクト科目や同志社ルーム記念館プロジェクトの意義だと考えています。

## 同志社中学ではアジアSTEAMキャンプや 宇宙探求プロジェクトなど多方面で実施中

**阪田** ●人類学者ジョセフ・ヘンリックが言うには、人類が他の動物よりも、もし優れているところの一つあるとすれば、それは文化を持っていることであると。文化とは互いに学び合うことによって、何世代にもわたって積み重ねられてきた人類の叡智であると説明しています。大久保先生

なると思います。自分達の活動を他者にどう説明したら伝わるのか、自分がそのコミュニティの中で求められているスキルは何なのか。自分に与えられた役割、立ち位置を明確にして、そこから発言し、

がおっしゃったように、まさに多様な価値観を持つ人同士が出会い、話し合いをしてイノベーションが生まれるからこそ、人類の叡智としての文化が生まれていきます。STEAMという言葉ができるずっと前から同志社は、実践型・参加型を重視したPBL (Project Based Learning) や探究型の学習を行うなど、総合知の育成と言ってもいい理念が前提にあったのかなと思います。次は沼田先生、まずアジアSTEAMキャンプについて教えてください。

**沼田** ●教育方法について海外の実践例に関心を持ってきた中で、10年ほど前、教育学者の韓国視察旅行に同行しました。そこで現地の先生方との交流が始まり、授業の交換を始めたのがスタートです。そこから刺激をいただき、さらに台湾やインドとも授業交流をするようになりました。今まで例えばロボット製作、理想のアジアンハウスの模型作り、巨大飛行機プロジェクトなどを実施しました。問題は資金面でしたが、大阪府のアーテックという教材会社にご賛同いただき、スタッフの派遣や教材提供などのご協力をいただきながら、次世代の子どものためにという思いで一緒に動いています。

**阪田** ●学びプロジェクトではどんな事に取り組んでおられますか。

**沼田** ●今取り組んでいるのは宇宙探求プロジェクトです。



同志社の4つの中高で宇宙に興味を持つ先生たちと協力して、オンライン合同授業やソニーとの合同授業を行っています。今年1月、生命医科学部の渡辺公貴教授たちが開発された小型ロボットが、月面探査に成功しましたね。あのロボットには、ソニーセミコンダクタソリューションズの作ったSPRESENSE<sup>TM</sup>という基板が使われています。これと、ソニーが作った子ども向けのプログラミング学習キット(KOOV<sup>®</sup>)を使い、技術の授業でプログラミングをやっています。最近の教育玩具や教材は、線を繋ぐだけで動くような物が多いですね。でもSPRESENSEを使って部品1個を光らせるだけで、大変な手順を必要とします。これが逆に本物感があり、生徒たちは手ごたえを感じています。私が1996年、アメリカの国際技術・工学教育者協会(ITEEA)に行ったとき、あのNASAがブースを作り、子どもたちに宇宙を学ばせる教育サービスをアピールしていました。日本でも、もっと宇宙について子どもたちに興味を持ってほしい。半導体の研究でもいいし、新しい宇宙ビジネスの創出という視点でもいい。どんな角度からでもいいので、宇宙に繋がる事に子どもたちの目を向けたい。同志社ローム記念館プロジェクトでも、こういう事を研究している学生が中高生を教えると、たぶん自己肯定感が上がると思います。

※SPRESENSEは、ソニーグループ(株)またはその関連会社の登録商標または商標です。

**大久保** ●数年前、同志社国際学院初等部に非常に理系に特化した6年生の生徒がいて、大学で何かできないかと一貫教育探求センターに相談がありました。そこでローム記念館で行っていた、模擬人工衛星を製作するDERC CanSat<sup>デルクキャンサット</sup>プロジェクトに協力してもらいました。その生徒は国際中学に進み、今も同志社ローム記念館プロジェクトに関わっています。そういう繋がりがもっと増えるといいですね。

小学校では身体的感覚を通じた体験を重視して  
自然科学への扉を開けさせたい

**阪田** ●川崎先生、小学校ではいかがですか。

**川崎** ●小学校でSTEAM教育の素養の土台をどのように築こうかと考えたとき、そもそもSTEAMのAとは何だろうと考えました。もちろん理数系教育の基礎は重要ですが、授業の中で友だちと一緒に五感を味わうことが、何よりもSTEAMのAに繋がるのではと考えています。今の子どもたちは、指一本触れるだけで何でも展開される世界で生きています。そこであえて理科の授業では、ひもを結ぶ、コイルを巻く、回路を手作業でつないで豆電球が光る

かどうか確かめるなど、手を動かす活動を積極的に取り入れています。いろいろな匂いを嗅いでみることもすごく大事ですし、自分の体験に基づく言葉を使って対話する場を、小学校では大事にしたいです。

**阪田** ● 実践例をいくつか教えてください。

**川崎** ● 最近のSTEAMの実践例としては、5年生を対象に「F1カー大研究」を行なっています。理工学部の大窪教授と小武内教授、そして機械研究会の学生の方に来ていただき、自動車のデザインと走行性の関係や、ものづくりの面白さを学ぶ授業です。同じく5年生は「岩倉川生き物多様性プロジェクト」にも取り組んでいます。岩倉川での生き物調査の結果をデジタル化して、地域や世界へ発信しようという試みです。また、6年生では同志社大学京田辺キャンパスを訪れ、理工学部の研究室見学やロケット製作と打ち上げ実験に挑戦するサイエンスキャンプを実施しているほか、金沢のカエルデザイン合同会社と連携し、ごみからアクセサリーをつくる技術を体験しながら海洋プラスチックについて考える授業や、つくるまなぶ京都町家科学館と連携して、岩倉川の流水を利用した水力発電装置を作って実験し、動画を作成する授業などを行っています。川に行く意味はもう一つあります。川底にはいろんな石があり、流れも不規則ですね。最初は自分でバランスを取りな

がら一歩ずつ進み、徐々にコツをつかんできたら、子どもたちは流れに体を任せる感覚や心地よさなど、人間本来の様々な感覚を瞬時に取り戻します。そうしてやっと捕えた生き物には、興味や愛着が一層湧きおこります。そのように身体的な感覚を呼び覚まして自然科学の扉を開けるのが、小学校の任務かと思っています。

**阪田** ● 大学、企業、科学館などとの連携もしておられるのですね。お隣にある中学校とはいかがですか。

**川崎** ● 中学のSTEAMキャンプにも児童が参加します。さらに今後は、多様な学部の先生方に教えにきていただけたら、大学の知識や智慧、いろんな最先端の学術を、小学生が自分の事として取り込んでいけるかなと思います。以



川崎 公美子 氏

同志社小学校 理科 教諭

上から、STEAM教育の小学校での意義とは、小学生自身が未来像を狭めず、何者にでもなれて、自分で新しい学問を作るぐらいの自由さや可能性をいっぱい感じてもらうところにあると考えていま

す。

**大久保** ●STEAM教育がなぜ必要かという点、今後AIが教育の分野に深く関わっていくことは間違いないと思っております。その中で、将来AIが関われないことは何かと考えたとき、例えば身体を通じた体験・経験、感情を引き起こすことであるとか、倫理・良心の体現、創造、他人やグループでのコミュニケーションを身につけることなどがそうだと思います。今、川崎先生がおっしゃってくださった教育はまさにこれから最も重要にすべきことだと思います。

**阪田** ●私が文化情報学部で学部理念として大事にしている言葉に「冷暖自知」があります。水が熱いのか冷たいのかは、自ら手を入れないと分かりません。自らの五感を駆使して試行錯誤を重ね、うまくいかなかったり、思い描いていた結果と違う結果が出たときこそ、その中に宝が潜んでいることに気づくことが、STEAM教育の醍醐味ではないかと思います。先生方は、義務教育の中で様々なチャレンジをされていると思うのですが、学習指導要領とはどのようなバランスを取っておられるのでしょうか。

**川崎** ●学習指導要領に則り、その延長線上で実践しています。小学校では一般的に、担任が全教科を教えますので、教科書は教科横断型を意識して工夫されています。ですから

ら小学校の学習指導要領とSTEAMは、実は相性が良いのです。例えば3年生の音楽の授業は「春の小川」で始まりますが、国語の教科書にも「春」の読み物が載り、理科では「春の生き物」の観察を行います。音楽の授業で「春を感じる」活動として、岩倉川へ散策に出かけていますが、時間があれば理科の教員も同行します。そこで見つけた生き物を虫かごに入れ、音楽と理科という複数の視点から、同じ児童に同じ場所で教えるのが非常に効果的だと思います。夏休みの理科の自由研究も非常に大事にしています。

### 「理想の家」の自由研究を 海外のソーシャルムーブメントの種子にまで 発展させた例も

**沼田** ●学習指導要領の話題が出ましたが、実は私たちがいま行っている教育に、文科省の方が近づいてきているのだと思います。文科省と各都道府県教育委員会の代表者との会議に私学代表として参加した際、まさに僕たちが考えている内容に近い話を話しておられました。

**阪田** ●私学ならではの、あるいは同志社ならではの発想が社会にも認知され、浸透しつつあると思うといいのかもありませんね。

**沼田** ●STEAM教育の進め方としては3つあると思います

す。川崎先生が話されたように各教科間を少し調整することによって全体が機能するやり方以外に、教科の中身をさらに深く掘り下げるやり方もあります。やればやるほど内側が太り、内容が形式を壊して大きくなっていく。あるいは逆に無理やり大きい殻を与えて、そこまで成長を促すやり方もあります。そこで紹介したいのが2つ目のやり方を用いた「ブリッジ・コンテスト」です。限られた条件の中で知恵と工夫を総動員して強い橋の模型を作り、自分たちで破壊試験を行い、強度を評価し合うコンテストです。さらに自分に引き付けるため、本物の骨材やレンガを使って、小さいですが人が乗れる橋まで作ります。次にモルタルの試験ピースを作って、また破壊試験を行います。1本は鉄骨代わりの針金を入れ、1本は針金なし、もう1本は針金なしで塩を入れてみる。やる前から結果は分かっています。塩を入れた物は意外と見た目に差が出にくい。ここに手抜き工事の生まれる余地があるのかもしれないという経験をしていくと、そのようなニュースに対して疑問、関心を抱けるようになるのではないだろうか。吊り橋模型も作りました。明石海峡大橋に連れて行ってエンジニアの方たちから話を聞いたり、国交省から専門家に来ていただいて社会インフラの建設や維持にかかるコスト面の苦労、そ

れを克服するためのテクノロジーなども話していただいたりしました。

**大久保** ●ストーリー展開が大きいですね。すごい。単に技術の学習や発展だけでなく、その先に経済、文化、社会が見えるのがいい。

**川崎** ●沼田先生のプロジェクトは、今の子どもたちが成長したときの社会を、アジア全体、地球全体から考えておられるのを強く感じます。50年後のアジアや地球で多様な国から多様な人が集まったとき、同志社大学を出た人たちが上手に束ねられる側になれるといいですね。

**沼田** ●同志社小学校では「道草教育」をしておられますね。中学校の自由研究でも似た事をしてるんです。

**川崎** ●道草教育は、子どもが自ら発見したいろいろな不思議や課題に教師が伴走しながら、一人ひとりの学びを育てるものです。

**沼田** ●それについて、同志社小学校の卒業生でもある佐伯育子さんという生徒の事例を紹介させていただきます。佐伯さんは中1のときにコロナ感染拡大で学校が休みになったため、こんなにずっと家にいないといけないのならば、「居住空間における人々の幸せについて」という自由研究を書き、理想の家の模型を作りました。そのとき、オンラインの学びプロジェクトで建築家の「旅と建築」という話に興



味を持ち、自身も建築家が作るような模型を作りたいと思って、中2になると白川郷へ行きます。世界遺産ですから維持が大変なのかと思って地元の方にインタビューすると、それよりも内部構造のすごさなどを誇らしげに語ってくださった。そこで彼女は、合掌造りの内側構造が分かる模型を作りました。そうして提出した自由研究のタイトルは「旅で出会いたい建築」でした。さらに中3になると、オーストラリアのバラットという街へ行きます。そこで見かけたレストランに特別なものを感じて調べると、バラットがゴールドラッシュに湧いた時代の駅舎だったそうです。でも地元の方たちは歴史的价值を知らない。彼女は帰国後この模型を作り、語学留学でバラットに行った際、そのレストランのオーナーに会ってプレゼンを行い、新聞社の取材まで受けました。地域に住む人々がこの建築物の歴史的价值を知り、その存在に誇りを持って暮らすことが人々の幸せに繋がると考えたからです。いわば郷土愛を育てるためのソーシャルムーブメントの一つです。佐伯さんは今年で高2になり、今は「宗教と建築」というテーマで教会建築を研究しています。



沼田 和也 氏

同志社中学校・高等学校 教頭 技術科 教諭

小中高大の連携をさらに活発化させて  
子どもたちの中に科学への情熱を育てよう

阪田 ●まさにSTEAM教育の象徴とも言っているエピソードで、素晴らしいですね。川崎先生、小学校の道草教育についてもSTEAMとの関わりを伺えますか。

川崎 ●先ほど申し上げた以外に、もう一つの側面があります。子ども同士が徹底的に学び合いをする点です。交流しながら対話をし、未熟さを互いに絡め合いながら、共に道草をするのです。そして私はSTEAMも道草も同じ教育法だと考えています。どちらの教育においても、子どもの

発想を否定せず共に面白がって学ぶ教師の存在が大事だと考えています。そうすることで子ども自身の気づきをどんどん広げたり深めたりしていくことが道草教育でもあり、STEAM教育と親和性の

高い点です。ただ最近、タブレットやゲーム、生成AIの弊害が、この道草にも及んでいます。本来は自分にしか分からない不思議を追求してほしいのですが、外からたくさんさんの面白い事がやってくる。道草で何をしようかということさえ検索してしまう。それをなんとか防ぎたいです。

**阪田** ● 現在、どの学校でも抱えている問題ですね。これは法人全体で取り組めればと思います。最後は皆さんに、同志社のSTEAM教育について夢を語っていただきましょう。

**大久保** ● 一貫教育探求センターの所長としては、いわゆる受験対応ではない、法人同志社の共通理念に基づいた教育が、同志社の一貫教育の一つの強みだと思っています。法人内の生徒を対象とし、科学技術への理解や論理的思考、コミュニケーション能力を養うプログラムがあれば、一貫教育の一つの柱になるのではないかと考えています。先生方にもぜひご協力いただければと思います。

**川崎** ● 小学校で身の回りの自然現象の不思議さ、面白さを徹底的に体験してもらい、大学卒業後も自然科学を楽しむながら学び続ける人になるには、様々な教科の基礎学力も必要になるでしょう。苦手な科目であっても、それら自身につけたいと思うぐらい、科学に対する情熱を子どもたちの中に育てたいです。加えて中学校・高校や大学の先生

方に、世の中にはこんなに面白い研究や分からない事があるんだよと、子どもたちに教える機会をいただければと思います。

**沼田** ● 今、国境などさまざまなボーダーや学校の枠を越えてアイデアをシェアし、一緒に動き出すことが大事だと、誰もがうすうす分かっています。土壌は整っていると感じます。だから中学校でも、大学生に来てもらう機会がもつとあればと考えています。

**阪田** ● それが同志社の一貫教育の強みですね。子どもは未来そのもの。その未来を大事に育ててくださっている先生方のバトンを大学の我々は繋ぎ、子どもたちを社会に送り出す責務を果たしていきたいと思っています。これからぜひお力をお貸しください。本日はありがとうございました。

(2024年7月22日、今出川校地にて)

# 合唱の同志社

## ―創立150周年記念事業全同志社合唱祭に寄せて

同志社社史資料センター

### 全同志社合唱祭

2024年11月9日、同志社創立150周年記念事業の一環で、京都コンサートホールにて全同志社合唱祭が開催されます。この合唱祭は、生徒・学生、OB・OG、そして保護者らによって組織

された20以上の団体が、日ごろの活動の成果を披露し、全ての団体が1つとなって美しいハーモニーを奏でる機会となります。24年前の2000年にも、創立125周年を記念した合唱祭が実施されたことを記憶されてい



同志社創立125周年全同志社合唱祭 2000年  
個人蔵

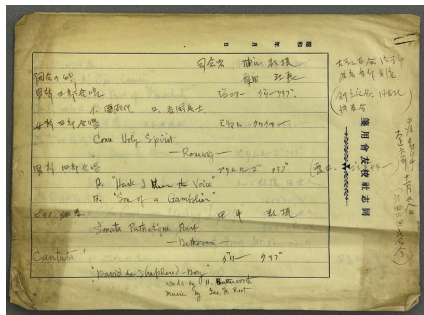
る方もいらっしゃるかと思います。

合唱と創立記念行事にはどのような関係があるのか。資料をたどると、この関係を考えるヒントとなる情報がいくつも登場します。本稿では、『Doshisha Times』の前身である『同志社時報』、『同志社校友同窓会報』、『同志社新報』（以下、『時報』、『会報』、『新報』と略す）などをたよりにして戦前の資料を中心に紹介していきます。

### 創立記念音楽会の嚆矢

1908年に Doshisha College Song が誕生し、翌年に校歌となったことは比較的知られた事実です。その7年後、『時報』に、初めて創立記念の音楽会の情報が具体的に掲載されました（『時報』第138号、1917年1月1日発行）。記事によると、創立記念の一連の行事が開催

楽会であると読み取ることができます。また、約700人の参加には、あとで引用する記事の書き手のことを考慮すると、卒業生や関係者も含まれていたと考えられます。当時の同志社内諸学校の在校生は約1700人程度（1917年3月大学、中学、女学校の総学生数1723人「大正七年同志社各学校学生表」『同志社大正七年度報告』）でした。音楽会には在校生の3／4割程度が参加したと言えます。



メモ「創立42周年記念音楽会プログラム」1917年

される前日の1916年11月28日の夜、「公会堂に於て音楽会が開かれ、本校教授学生の出演あり、来会者七百を算して盛なる同志社デイ、イーヴを祝したり」と記録されています。同志社関係者を集めて創立記念日の前夜を祝うための手段が音

## 音楽会のスタンダード

『時報』には続けて、音楽会に参加した人物による参加記「同志社音楽会を聴いて」が掲載されています。この冒頭には、4年前の1912年に開催された音楽会に参加したことが記されていますが詳細がわかりません。ただ、文章の結語に、「同志社創立を記念するためにはふさわしい催したるを失わない、此の様な音楽会をして我校の年中行事の一つとしてこの記念日を盛んならしめたいと思ふ」と書いていることから、この時点で創立記念の音楽会が定番とされていたことが窺われます。

また、この参加記には当時の情報や音楽会の内容が執筆者の感想と共にしたためられています。その内容のうち、音楽会に参加した同志社内諸学校の団体が、大学部のグリークラブ（約40人）、プリムローズクラブ（約30人）、中学部のダビデクワイヤ（6人）、ジュニアグリークラブ（約15人）、女学校のミリアムクワイヤ（約15人）で100人を超える一つの勢力となっていると記しています。ただ、この音楽会は合唱だけではなく、ピアノ、マンドリン、ヴァイオリン、オルガンの演奏が含まれ、その奏者は生徒・学生だけではなくありませんでした。大学のE. S. カープ教



授がオルガンを奏で、E. F. シャイベリー教授が独唱し、O. ケーリ教授が朗読し、女子部教員の田中（寅之助か）がピアノを弾くという、音楽会は同志社の生徒・学生教職員全体が参加する会でした。このスタイルが、創立記念に開催される音楽会のスタンダードになります。

### 学園の拡大と音楽会会場の移動

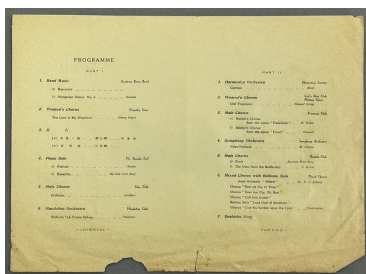
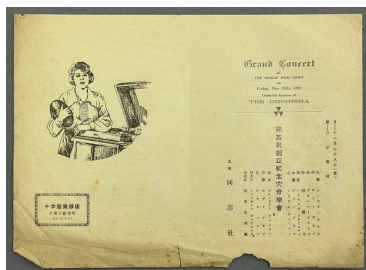
かくして1916年に開催された音楽会は、翌年には大同学友会語学部と音楽部が主催する、音楽会となりました。1917年の音楽会では1000人が参加したと報じられています（『時報』第149号、1918年1月1日発行）。参加人数の増加は、前年の音楽会の高評価もその要因の1つと考えられますが、漸次増加する在籍者数の影響もあつたと考えられます。

専門学校令に依る同志社大学が開校した1912年当時の年度末の同志社諸学校の在籍者数は860人、音楽会が開催された1916年は1254人、1917年は1370人と漸次増加傾向にありました（数字は卒業生を差し引いた数『同志社大正元年度報告』21頁、『同志社大正五年度報告』28頁、『同志社大正六年度報告』31頁）。大学令に

依る同志社大学が開校した翌年の1921年には2113人（『同志社大正十年度報告』31―32頁）となり、高等教育機関の充実も相まっておよそ10年間で在籍者数は2.5倍となりました。そのためか、この年から音楽会の会場が京都市公会堂に移ります。『時報』では「一寸遅れたら最後家族同伴で招待券持参の先生でも帰らねばならぬ程盛大な洛北の年中行事たる同志社イーブは今年は遂に洛東岡崎公園の市公会堂迄溢れ出たのである」と報じられています（『時報』第182号、1921年1月1日発行）。この言葉からは、当時の音楽会が同志社EVEと同義と受け取る人もいたことが窺われます。実際には陸上運動会など他の催しも開催されていたので、当然音楽会が同志社EVEと同義ではありませんが、かつて『時報』で報じられたような「年中行事」という認識が広まってきていたことを感じさせます。

### 音楽会の隆盛

1921年以降、ほぼ毎年音楽会が実施されていたことが『時報』や『会報』からわかります。各回の音楽会の参加人数は不明ですが、増加傾向にあったようです。従来、



プログラム「同志社創立記念大音楽会」  
1930年

音楽会は基本的に1日1公演で実施されてきましたが、1925年11月28日の音楽会は昼夜2公演、同じ内容で実施されることになりました。「同志社の盛大さはその学生校友を、同時に公会堂に収容しきれなくなってしまったのである！」(『時報』第237号、1926年1月1日発行)と報じられています。この記事の結語には「昼夜二回の出演者の疲労はどんなであつたろう」とあります。演者が1日2公演をこなすというハードスケジュールでした。当時の在学生数は3270人(『同志社昭和貳年度報告』26頁)、同志社内諸学校の卒業生数の累計は7132人(『選科修了生を含む『同志社昭和貳年度報告』26―27頁)で、これらに関係者を加えた1万人以上の方々が参加対象となるイベ

ントが当時の同志社EVEでした。

その後も参加者は増加の一步を辿ったようで、5年後の1930年に実施された音楽会は2日に分けられました。1日目(11月27日)は、校友会主催で在校生のみを対象とした音楽会が京都市公会堂にて昼夜2部制で実施され、2日目(11月28日)は同志社主催で卒業生のみを対象とした音楽会が19時より日出会館で行われました(『会報』第48号、1930年12月15日発行)。このように、昭和期の初めごろには、音楽会そのもののへの興味が増加しただけでなく、音楽会が同志社EVEの象徴であり、在学生と卒業生をつなぐツールとなりえていたこと、そして、現代のホームカミングデーの役割の一部を担う性格があったように窺われます。

その後、1932年2月11日に女子部栄光館が完成すると、音楽会の会場は栄光館へと移りました。同年11月28日は生徒・学生を対象に、29日は校友同窓を対象に、2日に分けて音楽会が開催されました(『会報』第70号、1932年11月15日発行)。一度は収容人数の限界から学外へと会場を求めましたが、栄光館の完成により、学内において同志社EVEを祝す体制が整います。現在も礼拝や卒業式などが行われる栄光館は、その完成当初より同志社の節目

を象徴するセレモニーやイベントの場として重要な役割を果たしてきたことが窺えます。

## 日本語校歌の誕生

音楽会の盛り上がりが他にも影響を与えたように見受けられる事例があります。楽曲作成です。管見の限り、Doshisha College Songの誕生以降、昭和期の初めまで、同志社を象徴する楽曲が作曲された形跡はありません。新しい楽曲の誕生は、同志社創立60周年記念の時でした。『会報』には「邦語校歌及学生歌<sup>いよよ</sup>々制定」と銘打たれた次のような記事が掲載されています（『会報』号外、1935年9月15日発行）。



レコード「同志社大学学歌」年不詳

邦語校歌の必要は既に二十年来提唱され来つたが此度愈々校歌は新体詩人として明治詩壇に先駆した校友湯浅半月翁に作詞を

依頼し既に去る九月一日歌稿成り最近の教育部に諮問され定例理事会の決議によって正式採用の筈。

曲は校友中専門家として作曲界に立つ大中寅二氏に依頼した

大中氏は現代吾国作曲界に於て此の種の歌曲作家としては屈指の人である。

学生歌は大学学友会が多大の犠牲を払つて北原白秋氏に作詞を依頼し山田耕筰氏が作曲した。これは既に出来上つて目下練習中、来る十月二日山田氏入洛、発表音楽会を行う筈。

白秋氏はこの為め校友会編纂の同志社五十年史を読破、同志社校庭を散策、彰栄の鐘を聴き詩興尽くるところを知らず、帰東後書き上げた。校歌、学生歌共に一枚のレコードに吹き込まれる筈。歌詞は次号、第百号特輯を以て発表の筈。

記事の内容は全て推定として書かれていますが、この記事で紹介された人物が実際に作詞作曲を行い、記事中の次号にあたる『同志社創立六十周年記念誌 我等の同志社』（『会報』第百号、1935年10月発行）に「生まれるわたらの歌」と題して同志社校歌と同志社大学学歌（60―61頁）

が掲載されました。これらの楽曲は現代でもしばしば歌われる機会がありますので、聞いたことがあります。歌ったことがある方もいらっしゃるかと思います。100年以上愛唱される日本語の校歌は、音楽会の盛り上りを背景に作成されたと言えるかもしれません。

## 戦時下の音楽会

1935年以降も音楽会は同志社EVEの重要行事として開催されてきたことが『会報』（第64号、1941年12月20日）やプログラム

### 大學 修練團便り

創立六十七周年記念音楽會  
同志社創立記念日祝賀の爲めと兼ねてから音楽に依る情操陶冶と集團訓練を行ふ爲め大學修練團主催で社内各學校音楽團體の協賛出演で十一月廿七日（金）十三時から十六時迄榮光館で開催した。國民儀禮、訓示の後演奏に移り最後に愛國行進曲を齊唱、萬歳奉唱の上閉會した。聴衆一千五百名。集團訓練としても大に効果を挙げた。

『同志社新報』第75号より抜粋

（同志社創立六十四周年記念大音楽会プログラム）から窥えます。当時は既に戦時下ではありましたが、少なくとも1930年代後半は同志社の男子生徒・学生たちには徴兵猶予の特典があり、現役将校の軍事教練を受ける

身ではありながらも、戦争が差し迫った状況ではなかったと考えられます。

しかし、1940年以降、大学を取り巻く状況は変わってきました。1941年2月には同志社大学修練団が組織されます。修練団とは「国体ノ本義ニ透徹シ立学ノ精神ニ副ヒ国家ニ献身スル有為ナル学徒ノ鍊成ヲ期シ集團的修練ヲ行フヲ以テ」を目的とし（同志社大学修練団々則「年不詳」、学友会に変わって学生の課外活動を統括する団体でした。よって、少なくとも1942年の音楽会では学友会に変わって修練団が主催となっています（『新報』第75号、1942年12月20日、『ホザナコース70年の歩み』（1982年）にこの時の音楽会の写真が掲載されている（60―61頁の間）。修練団の登場は同志社に及んだ戦時下の影響の一事例ですが、年中行事としての音楽会は継続されていたことが分かります。

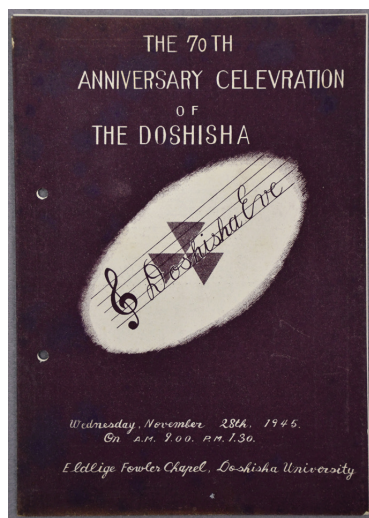
しかしながら、1940年代前半はこれまで実施されてきた音楽のスタンダードを維持することが難しい時代となりました。1941年10月に勅令「大学学部等ノ在学年限又ハ修業年限ノ臨時短縮ニ関スル件」が公布されると、文部省は相次いで省令を通過して、大学本科1941年度入学生は3ヶ月、1942年度入学生は半年と、修業年限短



縮措置を実施しました。3月卒業が9月卒業に変わること  
を意味しています。また、同年3月頃には同志社に奉職し  
ていた宣教師がごく一部を除いてアメリカに引き上げまし  
た（『同志社年表（未定稿）』1979年、168頁）。さ  
らに、1943年10月には勅令「在学徴集延期臨時特例」  
が施行され、20歳以上の学生らに認められていた徴兵猶予  
が失効し、学生らが徴集に応じる、所謂学徒出陣となりま  
した。出陣する学徒の壮行式が1943年11月15日に実施  
され、以降20歳を迎えた学生は漸次徴収に応じることにな  
ります。20歳未満の生徒・学生らも1938年の文部次官  
通牒「集団的勤労作業運動実施二関スル件」が通達されて  
以降、勤労奉仕が学生生活の一部となり、1940年代前  
半にかけてその割合と比重が大きくなり、1943年以降  
勤労動員が実施されます。このように1940年代前半は  
学校での生活環境が戦時下の影響を受けました。音楽会が  
1942年の実施以降、終戦までの間に実施されたか否か  
は資料で確認できていません。

## 終戦後の音楽会の概略

終戦後の音楽会開催はその直後で、1945年11月28日、



パンフレット『THE 70<sup>TH</sup> ANNIVERSARY  
CELEBRATION OF THE DOSHISHA』  
1945年

同志社創立70周年記念音楽会が栄光館で2部制（9時～  
13時30分）で行われました（パンフレット『THE 70<sup>TH</sup>  
ANNIVERSARY CELEBRATION OF THE DOSHISHA』）。  
以降、音楽会は同志社EVE期間中に恒例行事として、同  
志社内諸学校の音楽関係団体が参加して実施されるイベン  
トとして、少なくとも1967年までは継続したことが資  
料よりわかります（パンフレット『DOSHISHA EVE  
1967: 92TH』1967年、44頁）が、その後、音楽会  
が毎年の恒例行事として実施されたかは不明です。少なく  
とも1970年以降の開催は確認できていません（パンフ  
レット『同志社EVE 1970年』1970年）。その  
理由は不明ですが、高度経済成長期の入学者激増（196

7年当時の同志社諸学校全在籍者数2万8989人（『事業報告1968年度』学校法人同志社、1969年、19頁）や部活動やサークルの多様化・細分化など、学生生活・活動の多様化が関係しているかもしれません。

ただし、節目となる年には、周年事業の一環として音楽会が実施されたり、楽曲が作成されたりしました。創立80周年時には「同志社讃歌」（作詞：岡本清一、作曲：鎌尾武男）、90周年時には「集え若人」（作詞：野村芳雄、作曲：湯浅卓雄）、そして、100周年時には同志社創立百周年「祝歌」（作詞：野村芳雄、作曲：大中恩）が作成されました（楽譜「創立八十周年記念同志社讃歌」、「同志社時報」第18号、1965年、25頁、「創立百周年記念事業報告書」1980年、12―13頁、「同志社歌集」第12刷、2017年、ここでいう『同志社時報』は本誌のバックナンバーであり、『時報』とは別の資料）。「集え若人」は、90周年の同志社EVEの音楽会で初披露されたことが記録に残っています（『同志社時報』第18号、81頁）。しかし、100周年を迎えて以降、本稿で意味するところの音楽会の開催はなかったように見受けられます。そして、創立125周年を迎えて、音楽会の中でも歌唱に特化した音楽会が開催されました。これが創立125周年記念同志社合唱祭です（『同志社

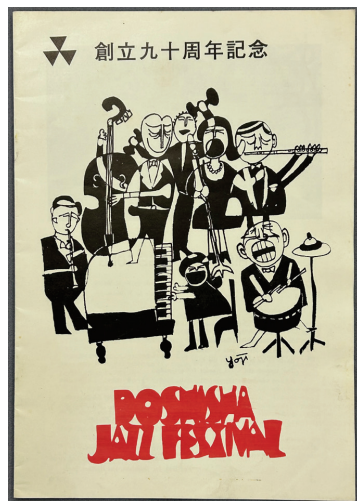
時報』第111号、2001年、53―54頁）。

## おわりに

創立125周年の合唱祭には、中学校・高等学校、女子中学校・高等学校、女子大学、大学の部・クラブに所属する生徒・学生に加え、そのOB・OG、そして教職員らが参加しました。その構成から窺えるように、合唱祭はかつての音楽会の伝統を受け継いでいます。そして、本年24年ぶりに創立150年を祝う全同志社合唱祭が開催されます。今回の合唱祭には、新設された学内校からの参加もあり、同志社の歴史上、最も多様な団体が参加する合唱祭となります。かつての音楽会の伝統を引き継ぐ合唱祭を是非体験してみてください。

なお、この合唱祭の開催に合わせて、今出川キャンパスでは参加団体ゆかりの品々を一堂に集めた企画展「合唱の同志社―One Purpose DOSHISHA 過去・現在・未来―」が9月24日より開催中です。この企画展では、各団体が未来に残したいと希望した資料約250点を展示しています。合唱祭参加前に是非ご覧ください。

最後に、同志社社史資料センターでは同志社に関わる資



2024年新収資料 パンフレット  
『創立九十周年記念  
DOSHISHA JAZZ FESTIVAL』

料を収集しています。特に、同志社EVEなどの学生生活に関する資料の収集は個人の資料ということもあり、関係者の皆様のご協力が欠かせません。資料の寄贈や保管に関して相談等ございましたら当センターまでご一報ください。

※引用文献は全て同志社史資料センター所蔵。

※引用文は基本的に常用漢字にあらためた。

#### 参考文献

- ・小枝弘和「研究ノート 私学と兵役の関係に関する一考察―同志社を事例として―」『同志社談叢』第40号（同志社史資料センター、2020年）所収

- ・小枝弘和「同志社の高等教育の歴史―高等教育機関の設立を中心に」同志社ギャラリー第24回企画展『旧制から新制へ―同志社大学の挑戦―』（同志社史資料センター、2022年）所収

- ・同志社史資料センター「特別寄稿 同志社大学商学部100周年記念」写真とともに見る同志社大学商学部前史」『同志社時報』第154号、学校法人同志社、2022年10月

## 徳富蘇峰の箱



同志社大学今出川図書館は現在、2026年の開館に向けて建て替え工事中となっているが、工事に先立ち、2023年に図書館貴重室にあった資料のいくつかが社史資料センターへ移管された。その大部分は徳富蘇峰（1863―1957）に関する資料であったが、この箱は、その一つである。

徳富蘇峰は『國民新聞』を創刊したジャーナリスト、思想家で、言論界で活躍した人物である。同志社英学校を退学したが、その後、新島襄を師として慕い、同志社大学設立運動にも寄与した。

さて、箱であるが、厚紙に和紙や洋紙を貼り付け、その上に柿渋を塗っている。大きさは縦35・0cm、横56・0cm、高さ9・5cmと文箱にしては大ぶりの箱で、底（外側）に「昭和廿一 一月廿日 八十四蘇病叟病閑余業製之」（八十四歳、病気の蘇峰が閑余業にこれを作製する）との蘇峰の自筆があることから、1946年（昭和21）1月20日に蘇峰自らの手によって作製されたことがわかる。

1946年1月といえば第二次世界大戦の終戦後、間もない時期であるが、その前月に蘇峰の身には、大きな出来事があった。A級戦犯容疑者に指定されたのである。

A級戦犯とは、国際軍事裁判所憲章の「平和に対する罪」を犯したとされる戦争犯罪者を指す。1945年9月の容疑者逮捕を皮切りに11月、12月と容疑者の逮捕命令が連合国最高司令官総司令部から日本政府に発令され、蘇峰は12月1日付で発令された



逮捕命令対象者59名の内の1人であった。翌年1月2日にMP（憲兵）5人が、その頃蘇峰が居住していた晚晴草堂へやって来たが、老齢と健康上の理由により巢鴨拘置所への拘置は行われず、自宅拘禁となった。

当時徳富家の法律顧問であった早川喜代次弁護士が9月27日に蘇峰を訪れた際には、奥の洋間に「翁が自ら色紙の紙をハリつけそれに洪をぬった紙箱十数個」があったとのこと、蘇峰は、この頃多くの箱を作っていたようである。箱の蓋表や身の底の表面には、1781年（天明元）出版の木版絵図が貼りつけられ、破損箇所からは英字や手書き墨書なども見え、当時所持していた和紙や洋紙を貼っている様子がわかる。目を引くのは箱の蓋裏一面にある蘇峰の母、久子の墓誌の拓本である。久子は1919年（大正8）2月18日に亡くなっており、「徳富太孺人久子墓誌」と題されたこの墓誌には、久子の事績が記される。

蘇峰は1947年（昭和22）9月には戦犯容疑を解除されるが、解除されるまでの人生で最も厳しい時期に、この箱は作製された。この頃よく使用していた雅号「頑蘇」を使わず「蘇病叟病」と自らのことを記していること、母親の墓誌拓本を貼り付けていることなどに、当時様々な覚悟をしていたであろう蘇峰の隠された心情が現れている箱である。

蘇峰がこの箱に何を入れていたのか、今となっては知るすべもない。

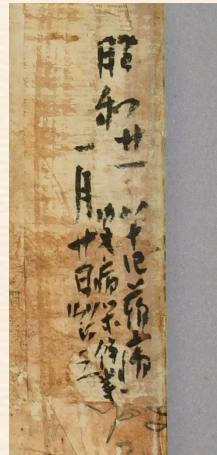
参考文献：早川喜代次『徳富蘇峰』（昭和54年 徳富蘇峰伝記編纂会）

纂会）

（同志社社史資料センター）



蓋裏の徳富蘇峰の母、久子の墓誌拓本



箱の身の底に書かれる  
蘇峰の自筆

大学

## 妻の出産と夫の働き方の柔軟性

社会学部産業関係学科教授

梶谷 真也<sup>かじた しんや</sup>

先日、研究を進めるために文献サーベイを行っていたところ、ある文献が目に残った。それは、スウェーデンの

行政データを用いて、夫の働き方が妻の産後の健康に与える因果効果を検証した論文であった<sup>1</sup>。スウェーデンでは、夫婦ともに有給の育児休暇が付与されるが、夫婦の同時取得は通常認められていなかった。この制限が2012年に緩和されて、休暇の総期間是不変であるものの、産後すぐに夫も必要に応じて休暇を取得できるようになった。この制度変更注目して分析を行った結果、制限緩和によって産後すぐに休暇を取得する夫の割合が上昇したこと、産後すぐに夫が休暇を取得することは妻の健康にプラスの波及効果があったことが示された。

この論文が明らかにした結果の本質は、夫の働き方における柔軟性の欠如がもたらす「費用」を妻が負担しているという現実にある。ここでいう「費用」とは、出産や育児に伴う妻のキャリアコスト（例えば、就業選択の制約や賃

金の減少）の増大といった直接的な負担だけではない。産後の家庭内ショックに夫が対応できないことによって生じる妻の健康コスト悪化という間接的な負担も含まれる。実際、産後1か月はその後の1か月よりも妻の健康状態に問題が生じることが多く、産後1か月は妻への追加的な支援が必要となりやすい。すなわち、この間に夫が必要に応じて休暇を取得することの潜在的価値が高まる。

このような潜在的価値の高まりは、私自身も妻の出産直後に経験した。大学教員はある程度柔軟に働くことができるため、妻の産後の様子を常に気にしながら仕事量を調整した記憶がある。日本でも、夫が妻の産後8週間以内に育児休業を柔軟に取得できるように、従前の育児休業とは別に「出生時育児休業（産後パパ育休）」が2022年10月に新しく創設された。男性の育児休業取得率の低さが指摘されて久しいが、出生時育児休業に対する需要は決して小さくないはずである。

1 Persson, P., & Rossin-Slater, M. "When Dad Can Stay Home: Fathers' Workplace Flexibility and Maternal Health". *American Economic Journal: Applied Economics*. Forthcoming.

## 女子大学

## 栄養学を通じて未来を創る

生活科学部食物栄養科学科准教授

鈴木 拓史  
すずき たくし

「栄養学」に初めて触れたのは大学生のときです。そして月日が流れ、まさか自身が、「栄養学」を教える立場になるとは、誰もが想像していなかったことです。人生の転機は、管理栄養士の国家試験を受験したことです。その勉強の過程で、なぜ人は栄養を必要とし、それらを効率的に利用できるのか？という素朴な疑問から、「栄養学」の世界に足を踏み入れました。そして、人の健康は、数々の奇跡の上に成り立っていることに気付かされる毎日を送っています。現在は、栄養素の消化・吸収を担う消化管（主に、小腸）の生理機能に着目し、消化管を介した栄養補給の重要性や、小腸の健常性が我々の健康の基盤になり得ることを証明するための独創的な研究活動に励んでいます。

さて、現在の大学教員は、研究活動と教育活動を並列でおこなうことが当たり前となっています。しかし、研究者Ⅱ（イコール）教育者、という式が果たして成立するのでしょうか？この式の成立は、自身が理想とする姿である

ことに間違いありませんが、今の自分がどの程度、理想に近づけているのか。自問自答は尽きません。

このような不安や葛藤の狭間で見出されてきたのが、独創的な教育手法です。これが大学教育のうま味であり、教員の人生観や教育観がにじみ出た教育こそ、本来の大学における高等教育の姿かもしれません。そもそも大学教員は、本質的に探究心が強く、勉強好きです。研究活動は、いうまでもなく得意分野の範疇ですが、教育活動に関しては、FD活動やさまざまな研修会、はたまた教職員同士との親睦の中で、何かしらのヒントを得て、それを実践につなげることで、「独創的な教育の創造」に取り組んでいます。

女子大学の管理栄養士養成は、開設から55年目の節目を迎えようとしています。国内だけに留まらず、活躍の場を広げている卒業生の多くが、女子大学で培った知識や経験を軸に、幅広く活躍されています。社会に出て、いきいきと活躍できるような人材を育成するためにはどうしたらよいのか？これを日々熟考し、学生の声に耳を傾けながら、この大学でしか学ぶことができない独創的な研究と、その成果を活かした教育を日々追求することが、未来の優秀な人材育成やよりよい健康社会の実現につながると信じています。

女子中学校・高等学校

同志社と出会う瞬間

体育科教諭 那須 文恵

同志社女子中学校に入學した時、まず、礼拝形式の入學式とその時の讃美歌に驚きました。毎日の礼拝、食堂や購買部があること、授業で隣の席のクラスメイトのノートの取り方が素晴らしいこと、定期試験前の勉強の仕方など、驚くことだらけでした。毎日、ある種の緊張感を持って一学期は過ごしていたな、と思い出します。日々の学校生活では、生徒が個性を發揮して伸び伸びと元気に過ごしている、それを見守っている先生方はさらに個性的で、今や言わなくなった「名物先生」がたくさんおられました。授業内容は大学推薦を前提として進度も早かったし大変な面もありましたが、「名物先生」の専門的なお話に引き込まれ、楽しかったという記憶はありません。

素晴らしい経験を与えてくれた「同志社女子」に恩返しをすること、それは、これから育っていく若い人たちに、私と同じ喜びを経験して貰うことだと思い、得意だった体育の教員免許を取るために外部に進路を決めました。四年

間は同志社から離れましたが、幸いにも体育科教員として再び「同志社女子」に導かれました。

誰しも、人との出会い、学校との出会い、経験という出会い、など様々な出会いに影響を受けて育ちます。私の場合、「同女」との出会いは本当に大きな出来事でした。神様の大きな愛に包まれて、全ての事柄は神様の計画である、本当にその通りだと心から思います。

入學した当初、聖書の「求めよ、そうすれば与えられるであろう。探せ、そうすれば見出すであろう。門をたたけ、そうすれば開かれるであろう。（マタイによる福音書7章）」という箇所が印象に残りました。神様を信じ、自分自身を向いて進むこと。そうすれば神様は必ず答えを下さる。時代が変化し、便利になる半面不便さを感じることもあります。AIの発達により人間の活躍の場が追いやられるのではないかと思うこともあります。しかし「ひと」は心を持ち、心の繋がりで豊かに生きていくことが出来ます。心は時に傷つくこともあるけれど、別の心がそれを救ってくれる。我々は「心ある人」を育てられるよう、努力を重ね、ブドウの木がさらに繁栄することを願いたいと思います。



## ジェローム・D・デイヴィス先生の 曾孫エレノア・ラネイ氏ご来校

法人事務部

ジェローム・D・デイヴィス先生は3人の同志社創立者の1人として知られ、その肖像画が今出川キャンパス同志社礼拝堂（チャペル）内の正面の左側壁に山本寛馬の肖像画と並び、右側壁の新島襄の肖像画と共に掲げられている。

そのデイヴィス先生の曾孫のエレノア・ラネイ氏が長女のマーガレット氏と共に2024年4月12日に米国カルフォルニアから同志社を訪問された。

デイヴィス先生一家4人は同志社開校の1875年に神戸から京都へ入った。長男マール・デイヴィス氏はその年の11月に自宅としていた京都御所内旧柳原家で誕生し、デ

イヴィス先生の伝記『Davis Soldier Missionary』宣教の勇者』北垣宗治訳』の著者で、東京のYMCAの主事であった。エレノア・ラネイ氏の母ヴァージニア・デイヴィス・ワトキンス（1910―1999）氏は、マール・デイヴィス氏の長女であり、1973年から1974年の間、同志社女子大学で英語を教えておられた。その後再びワトキンス先生は1980年に同志社国際高校開校の際に来日されて1984年まで同志社国際高校で日本美術史を担当し、また同志社女子大学でも英語を教えた。そして1980年には同志社女子大学のジョスリン先生と同志社礼拝堂チャペル内のデイヴィス先生肖像画前で結婚式を挙げられた事は当時の同志社の話題であった。

エレノア氏は母ヴァージニア・デイヴィス・ワトキンス・ジョスリン氏、祖父マール・デイヴィス氏、曾祖父ジェローム・D・デイヴィス氏の想い出を胸に来校され、八田英二総長・理事長と面談された。八田総長・理事長は、エレノア氏とマーガレット氏のお二人に対して、「同志社設立当初、教員は新島先生とデイヴィス先生の2名のみでした。デイヴィス先生は、同志社の草創期にご尽力いただいた大変な功労者であり、教育に懸ける信念や情熱は、現在の同志社の教職員にも脈々と受け継がれています。2025年に創立150周年を迎える同志社は、同志社に関わる全て

の方々と共に手を携え、これを契機として更なる飛躍を目指したいと考えています。」と話された。また、デイヴィス先生のお名前から命名した「デイヴィス記念館（大学京田辺校地）」で、4月には約7,700名の新入生を迎える大学の入学式が執り行われたことなど、デイヴィス家と同志社のつながりを示すお話もあった。

面談後は同志社社史資料センター第1部門研究（新島研究）のメンバー8名（伊藤彌彦氏、児玉実英氏、森一郎氏、森永長喜郎氏、大鉢忠氏、坂本清音氏、八木谷涼子氏、吉川健氏）が、同志社礼拝堂のデイヴィス先生の肖像画へ案内した。また、お二人はデイヴィス先生がアメリカから取り寄せて組み立てられたと伝えられている彰栄館の時計を外から眺められ、ハリス理化学館の常設展示室にあるデイヴィス先生の写真やデイヴィス先生が同志社と契約をされた書をご覧になった。

また、新島研究グループの有志は学内の見学後、近くデイヴィス先生の1871年から81年までのアメリカカンボドとのやりとりの手書き書簡を復刻出版する予定であることをエレノア・ラネイ氏にお伝えし、大いに盛り上がった。同志社創立150周年を前にして、同志社創立時の恩人のご息女との交流を持つことができ、とても有意義な機会となった。



理事長室にて同志社創立者新島襄夫妻肖像画と共に、左からマーガレット氏、八田英二総長・理事長、エレノア・ラネイ氏（肖像画は西陣織の最新技術により写真の複製）



曾祖父のデイヴィス先生の肖像画の前で

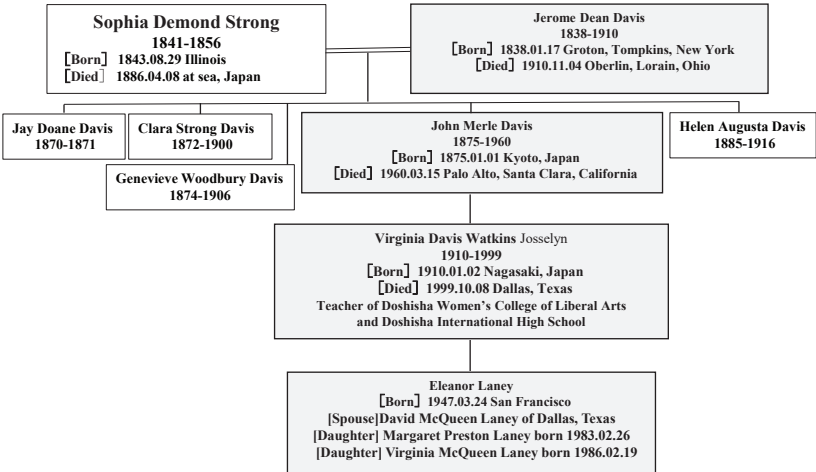


第1部門研究（新島研究）のメンバーとの記念写真



写真中央がヴァージニア・デイヴィス・ワトキンス・ジョスリン氏、  
右隣は同志社女子大学第5代学長・越智文雄氏（同志社女子大学所蔵）

家系図（ジェローム・Ｄ・デイヴィス先生～曾孫エレノア・ラネイ氏）  
Family Tree (Mr. Jerome D. Davis ~ Great-grandson Ms. Eleanor Laney)



家系図（ジェローム・Ｄ・デイヴィス先生～曾孫エレノア・ラネイ氏）





大学

## ソーシャルマーケティングで よりよい社会をつくる

商学部教授

うりゆうはら  
瓜生原

ようこ  
葉子

### 行動変容を促す価値の共創と発信

私が生涯を通して成し遂げたいと考えているのは、一人残さず誰もが幸せに暮らせる「well-being」な社会に寄与することです。個人はもちろん、家族や地域、NPOやNGO、企業、国や自治体など、この社会を構成しているさまざまな立場の人たちが「social good」な行動を自ら起こすことができるような支援をしていく…、つまり一人ひとりの行動の総和でよりよい社会を実現していくことを目指しています。

人々の行動変容を促すアプローチの一つが、「ソーシャルマーケティング」です。まず、私たちが日頃「マーケティング」と呼んでいる「コマースシャル（商業的）マーケティング」について考えてみましょう。例えば、1本500円

のペットボトルのお茶は高いかもしれませんが、もし皆さんが砂漠にいて喉が渴いていたとしたら、1万円でも欲しいと思うでしょう。私たちは商品やサービスを購入しているわけではなく、お金を支払ってそれが生み出している様々な価値を得ているのです。マーケティングはこうした交換を成立させる仕組みで、損（コスト）と得（価値）を天秤にかけたとき、得の部分のほうが大きいることが重要です。

ソーシャルマーケティングでは、商品やサービスではなく、「社会に望ましい行動」をマーケティングの対象としています。例えば、毎日帰宅後すぐに手を洗うのは面倒だと思ってもいいかもしれません。しかし、手洗いにより家族の感染症を予防できるすなわち面倒と思うコストを上回る価値に気づけば、social goodな行動が増えていきます。法律や罰則ではなく、行動科学理論とメカニズムに基づいて、一人ひとりの心に響くメ

ッセージとしてその価値を伝えることで、個人やコミュニティの自発的な行動変容につなげていきたいと考えています。

### social goodに寄与する人を創る多彩なゼミ活動

ソーシャルマーケティングにおいて、social goodを実現する（社会課題を解決する）行動を明確にすること、その行動変容にこだわるのが大切です。ゼミでは学生たちと一緒に、誰が困っているのかを基盤に対象者を決め、その人々がなぜ行動できないのか（障壁）、行動してもらう価値やきっかけなどを調査し、障壁と価値の交換が成り立つような施策を立案し、社会実装します。さらに、態度・行動の変化を測定し、その結果を分析・評価し、様々な人たちから得たフィードバックを次年度の活動に活かすというソーシャルな取り組みをしています。

2015年～2019年に取り組んだ「臓器提供の意思表示」では、397名が参加した臓器提供の理解と普及を促すための認知向上レッスンがギネス世界記録に認定されるなどユニークな活動を行いました。YesであってもNoであっても一人ひとりが意思表示を行うことで、自分の考えについて家族との対話が増えたり、それにより万が一のときに家族の負担を軽減できたり、social goodな行動に向けた価値の共創・発信ができたのではないかと思います。

2021年度には、ゼミの卒業生が立ち上げたソーシャルベンチャーと共創し、「森林保全行動の促進」に取り組みました。ゼミ生たちが中心となって小学生向けのすごろくゲームを開発。「木を植える」「伐採・製材」などそれぞれのマス目でポイントを競いながら、経済と環境のバランスのとれたゴールを目指す教育プログラムです。学生がファシリテーターとなって環境保全に関するクイズを出したりメッセージを伝えたりすることで、彼（女）ら自身が学びを深め、態度・行動変容につなげていることが鍵です。

### 限りある資源に優しい「超エコ」行動を始める！

今、医療費が高騰し、医療を受ける側・提供する側双方の負担の増加などが社会問題となっています。誰もが健康で幸せに暮らせる社会を実現していくために、一人ひとりがふせげる病気を防ぎ、本当に必要としている人に医療を届ける仕組みをつくるのが大切です。限りある医療資源に優しい行動を自ら始めようというのが、私たちが現在取り組んでいる「医療のエコ活動」です。

身近なエコ活はバランスのとれた朝食摂取です。学生に「朝食をとりましょう」と言っても、時間がない、面倒など様々な障壁があつて、なかなか実行に移せないのが実情です。1年目の取り組みとして、朝食をとる価値や自発的

な行動の動機づけを促すために、朝食を通じてワクワクを感じてもらえるような参加型イベント「世界の朝食展」を企画しました。学生が撮影した世界各国の映える朝食写真を一堂に展示したほか、14種類のレシピを紹介したカレンダーや、その人のライフスタイルに合ったレシピを提案するSNSレスポンスなど、行動障壁を軽減し、自宅においても継続的な行動につながるツールを提供しました。参加者の97%が「朝食の重要性を理解した」と答えました。

2年目は、栄養管理の専門家と連携し、商業施設で「レンチンでできる！ヘルシー朝食クッキング」を開催しました。オートミール炒飯や野菜と豆腐のキッシュなど、耐熱ボール一つと電子レンジで調理可能な朝食づくりにチャレ



レンチンでできる！ヘルシー朝食クッキング

ンジすること、自分でもできるという自己効力感（自信）を多くの人にとってもらえたと思います。

今年は11月9〜10

日にイオンモール京

都で『超ECO祭2024』

を開催しますので、ご家族で

お運びください。学生たちと

お待ちしております！

今、環境や生物多様性、医療という枠組みを超え、一人ひとりの行動が社会全体をよくする「超エコ」が求められています。ソーシャルマーケティングの手法を活用し、学生はもちろん、さまざまな人、組織、社会と共創しながら、他者への思いやりに満ちたwell-beingな社会が実現できれば素晴らしいですね。



世界の朝食展





大学

## 双方が歩み寄る社会の実現を目指して

文化情報学部助教

やまがた  
山縣めい  
芽生

### 社会心理学を通じて解明する人間心理と社会問題

人間は、一人では生きられず、常に周囲の人々と影響し合う存在です。そのおかげで、社会には思いやりや助け合いといった繋がりがあふれています。しかし、個々人は独自の世界観や文化的に異なる価値観を持つため、すれ違いや対立が生じやすく、時には他者を傷つけてしまうこともあります。さらに、差別や戦争といった大きな社会問題にまでも発展しています。私は、このような人間の相反する性質に興味を持ち、社会心理学の分野で「なぜ人は他者を傷つけるのか」「どのように人々は歩み寄るのか」という問いに向き合ってきました。実際の取り組みでは、具体的な社会問題への洞察を起点に、調査や実験を実施し、そのデータ解析を通じて心のメカニズムの解明を行ってきました。ここでは、その中から2つの研究をご紹介します。

### コロナ禍における特定集団を避ける心理を追跡した調査

新型コロナウイルス感染症が日本でも流行し始めた2020年1月、私はこの危機的な環境下で日本人が他者との関わりをどのように変えていくのかを長期的に観察するため、パネル調査を開始しました。パネル調査とは、回答者を追跡し、定期的に同じ質問を測定することで縦断的なデータを取得する手法です。調査は、2020年1月末から5類移行の適用から約1年経過した2024年3月までの4年間継続され、計30時点のデータを取得しました。

特に私は、人々が特定集団を避ける心理に注目しました。人間は、感染リスクや病気の存在を認識すると、感染予防のために手洗いやうがいなどの衛生行動や、感染リスクのある場所や人々を避ける行動を取ります。これを「行動的免



疫システム」と呼びます。特に、感染者や外国人など、感染リスクがあると認識されやすい人々が、過剰に避けられることが報告されています。

これらの理論を基にコロナ禍でのパネル調査データを解析した結果、外国人に対する忌避的な態度は、普段からの「感染を避けたい気持ち」の強さの影響を受けることが定量的に明らかになりました。さらに、2020年7月から2024年3月までのデータ解析の結果、人々のコロナ感染者に対する忌避的な態度は時系列的に4つのパターンに分類されることが判明しました。具体的には、忌避的な態度の得点が「高い水準」「中程度の水準」「低い水準」「時間とともに減少」の4グループとなりました。

このような特定集団に対する態度やその背景を理解する研究は、将来の公衆衛生上の危機において重要です。感染防止のために特定の集団を過剰に避けることは、偏見や差別を生み、感染流行の抑制を妨げるという逆効果をもたらす危険があります。人々は差別されることを予期し、感染を隠すために検査や医療機関の受診を避ける可能性があり、結果的に感染症の拡散を助長してしまうのです。

### コミュニティと新規参入者の相互作用に関する実験

コロナ禍という緊急事態に加え、私は日常生活に潜む社

会問題にも注目しています。具体的には、移住や就職の際に見られる村八分や同調圧力の問題です。近年、よりよい生活を求めて、多くの人々が積極的にコミュニティ間を移動しています。この社会の流動性の高まりは、個人のウェルビーイングに寄与するだけでなく、地域や組織での担い手を充足させ、市場を活性化させるなどのポジティブな効果をもたらすことが期待されています。しかし、新規参入者（新参者）が既存のコミュニティに加わる際には、コミュニティ側が新参者に一方的にコミュニティの規範を受け入れるか、拒否するかを迫る状況は多いでしょう。この非対称的な歩み寄り、コミュニティの健全な発展を妨げ、ムラ社会化のようなネガティブな結果を招きやすくなります。こうした問題に対し、私は、新参者と既存コミュニティとの間で共有される規範の欠如が原因であると考えました。

社会心理学において「規範」とは、ある集団で共有されている、あるいは期待されている判断基準を指します。コミュニティ内の相互作用から規範が生まれるプロセスを解明するために、多くの実験が行われてきました。例えば、シェリフの古典的な実験では、複数の参加者が光の動きを観測し、その光がどの程度動いたかを他の参加者と答え合わせをすることで、最終的に判断の傾向が類似することが示されました。さらに、この傾向は個人が自由にできる場

面でも維持されたことから、個体間で規範が形成されたと結論づけられました。この現象は「集団規範への同調」として知られています。しかし、これが社会的規範として実際に機能するのかどうか、特に新参者に対する排除を引き起こすかどうかはまだ明らかになっていません。

そこで、私は、コミュニティが新参者を受容あるいは排除する条件を調べる実験を行いました。具体的には、参加者がコンピュータ制御のボットとランダムに配置されたドットの数を推定する課題を行いました（図1）。参加者は、先に遭遇した個体とドットの数を複数回答え合わせをし、その後、新たな個体（新参者）も含めて3人で答え合わせを複数回行いました。この相互作用を通じて、参加者の推定傾向にどのような影響が及ぶのか、また、推定傾向が異なる個体に対してネガティブな印象が生じるののかわかを、先に遭遇する個体がいる条件とない条件で比較しました。

実験の結果、最初に遭遇した個体との相互作用によって推定傾向は一時的に変化しましたが、新たな個体との相互作用後にはその効果が減弱しました。また、二者間で答えの似ている度合が、相手へのポジティブな印象と関連することが確認されました。これは、共有された判断基準がなくとも、相手との類似性が参加者の判断や印象形成に重要な役割を果たすことを示しています。この知見は、新参者

が排除されることを防ぐための対策として、単にコミュニティの規範を共有するのではなく、両者の間で一致している価値観や特徴を強調することが効果的であることを示唆しています。

以上、様々な社会問題と手法から多角的に人間心理を研究してきました。人間の心は複雑であるため、人々が傷つけ合うことから脱し、双方が歩み寄る方法を見つけることは容易ではありません。しかし、その挑戦が科学的探求の醍醐味でもあります。今後、現代社会が抱える課題に焦点を当て、社会を形成する人間の行動の背後にあるメカニズムを解き明かすための研究を進めていきます。知見が人々の生活や社会的な意思決定、政策の形成に役立つよう、科学と実社会の橋渡しを意識しながら、具体的な問題解決に寄与する研究実践を目指しています。

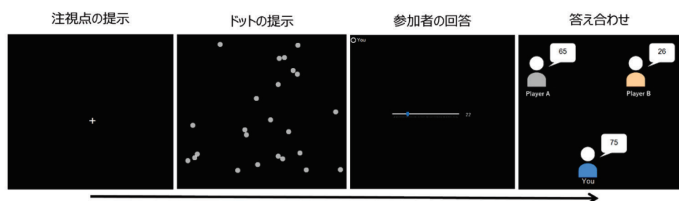


図1 実験のフロー（3人での相互作用試行）



女子大学

## スポーツの近代化とキリスト教

現代社会学部現代こども学科

うめがき  
梅垣

あけみ  
明美

### 近代スポーツを創造した人たち

現在、私たちが楽しんでいるテニス、フットボール、ラグビーなどのスポーツは、十九世紀中頃以降、イギリスで組織化されたものです。スポーツの近代化（近代スポーツの形成）は、どの国よりも早く、世界に先駆け産業革命を経験したイギリスで行われました。

それまで人々が熱狂していたスポーツは、闘鶏、熊がけ（猟犬に熊を襲わせるもの）、ピュジリズム（素手で行う拳闘）やマス・フットボールなど、流血を伴い、時には死者が出るほど野蛮で血なまぐさいものでした。今では、大谷選手の元通訳による違法賭博が大きな問題となっていますが、当時、スポーツには賭けがつきものでした。皮肉なことに賭けがスポーツ観戦の楽しみを膨らませたことも事実です。お金をかけているからこそ、勝敗の行方にハラハラ

ドキドキ、興奮するのです。また、賭けはスポーツの公平性の推進にも大きな役割を果たしました。試合条件の平等が担保されていなければ賭けは成立しないからです。一方で、勝敗の判決をめぐる、胴元、観客、パトロンなどの間で暴力沙汰になることは日常茶飯で、逮捕者が続出しました。近代スポーツが成立する以前のスポーツは、飲酒や喧騒が伴う無秩序極まりないものでした。

では、このような野蛮なスポーツは、誰の手によって、どのように、現在の姿へと変容を遂げたのでしょうか。野蛮で血なまぐさいスポーツを洗練化し、合理化した人々は、パブリック・スクールやオックスフォード、ケンブリッジ大学で学んだ熱心なキリスト者でした。マスキュラー・クリスチャンと呼ばれる人たちです。

このようにスポーツの近代化には、キリスト教の大きな影響が認められます。私が大学生だった頃、日本のスポー

ツ研究の中で、スポーツとキリスト教の關係に着目する研究は少なく、それらについては不明瞭な点が多くありました。これらの關係を明らかにしたいという思いから研究者の道を歩み始めました。

特に、十九世紀初頭は、イギリスやアメリカで信仰復興運動が起こった時代です。多くの人たちがそれまでの生活を悔い改め、神に立ち帰り、聖書に基づいた生活を送るようになりました。禁酒運動や奴隷制度の廃止、刑務所改革など、社会全体が正義と聖さに満ちた時代もありました。

この時代にスポーツの担い手となったキリスト者は、闘鶏、熊がけなどの野蛮で血なまぐさいスポーツを避けるようになります。飲酒や賭けも禁止し、神に喜ばれる生活を求めるようになったのです。フットボールやラグビーなどのスポーツでは、各チームの統括団体を組織し、ルールの統一化を図ります。ルールを守る、対戦相手や審判をリスペクトする、ベストを尽くすなどのフェアプレイ精神が醸成されたのもキリスト教の影響が大きいと考えられます。

マスキュラー・クリスチャンにとって、神に喜ばれる生き方をするのが人生の目的ですから、生活のあらゆる事柄について、神に忌み嫌われるものは排除し、むしろ神に喜ばれる文化を創造していったと考えられます。

## 日本の体育・スポーツの先陣をきった同志社

先に、スポーツの近代化をキリスト者が担ったと書きましたが、日本の体育・スポーツの先陣をきったのは、同志社大学の創設者である新島襄です。新島も熱心なキリスト者でした。

日本における最初の体育教員養成機関は、1878年に設立された体操伝習所です。のちに東京師範学校の附属となり、高等師範学校から東京教育大学、現在の筑波大学へとつながっていきます。それよりも早く、1875年に設立された同志社英学校には、運動場（体育館）が備えられ、課外の随意科目として「体育」が置かれました。日本の体育教育の始まりとされた体操伝習所よりもいち早く体育が実施されたことは、今後、世界的に体育・スポーツの有用性が増し、若者の教育に重要な役割を果たすという新島の先見の明に他なりません。



制定年 1893(明治26)年

図1 同志社徽章  
HPより転載

三つの正三角形を寄せた同志社の徽章は、知・徳・体の三位一体あるいは調和をめざす同志社の教育理念をあらわすものと解釈されています。同志社が体育をどれ程重要なものと考えていたのかを推しはかることができます。



同様に、同志社女学校でも早くから体育・スポーツが実施されていたという記録が残っています。1879年の京都府学務課による本学の視察報告書には、ぶらんこ、玉棒、投擲、ローンテニス、羽子板などの記述がみられます。同志社女子大学で長らく教鞭をとられていた秦芳江先生の研究によると、「洋式スポーツが日本の女子体育の教材に採用されたという、おそらく最初の記録ではないかと思われる」(秦、1984、21頁)と書かれています。

新島が留学したアーモスト大学は、アメリカにおける大学体育発祥の地といわれます。新島は、日本人としてアーモスト大学で体育の授業を受け、帰国後、同志社に体育を導入するのです。明治政府は、1872年に、岩倉具視使節団を欧米に送りますが、新島は、政府から委嘱を受け欧米の教育制度を視察します。特に、当時の文部大臣であった田中不二麿に随行し、アーモスト大学を案内しています。その後、明治政府は、アーモスト大学からリーランド博士を招聘し、体操伝習所を設立していくのです。

このように同志社大学の創設者である新島は、同志社大学、同志社女子大学のみならず、日本の体育・スポーツの発展に大きな役割を果たした人物であると考えられます。

## 同志社女子大学での取り組み

このような伝統ある大学で、体育・スポーツへの情熱は、今も受け継がれています。

梅垣ゼミでは、毎年、幼児から高校生までを対象とした「かけっこ教室」を開催しています。2024年度も5月に、恵真館にて「かけっこ教室」を行い、幼児から大人まで90名近い人たちが集まりました。講師として、ウサイン・ボルトやケンブリッジ飛鳥と陸上修行を経験した現役アスリートの大内恵吏也氏をお迎えしました。二時間、子どもも大人も汗をかきながら夢中になって走ることを楽しみました。

大内氏の指導は、不思議で、スポーツの指導場面でよくみかける集合やはじめなどの指示は全くありません。大内氏の周りに自然と子どもが集まり、いつの間にか運動がはじまり、いつの間にか見学している大人まで参加しているのです。保育士、幼稚園・小学校教諭を目指す学生に、子どもを夢中にさせる大内氏の指導を学

んでほしいと願っています。※文献・

秦芳江(1984)同志社女子部の正課体育と課外体育の歴史(明治篇)、同志社女子大学学術研究年報35



かけっこ教室の一場面



国際中高

## 京田辺を歩く

社会科学教諭

さとう  
佐藤ゆうすけ  
友亮

## はじめに

本校では高校3年生を対象とした選択科目の一つに「地域研究京田辺」という授業があります。授業は、社会科が担当し、週1回2時間という枠組みで実施をしています。

授業の目標の一つは「田辺の歴史的背景を学ぶことによって、歴史を今に伝えるものが身近なところになくさんあることに気づく。」ことです。この目標の下、担当者は「月1回程度の現地見学」を基本としながら授業を計画します。今回は、主にこの授業でおこなっていることを紹介し、私が「社会科」を担当しながら考えていることをお話しできればと思います。

## 出発点は知るいつ

この授業では、初回の授業で京田辺の「地図」を書いてもらっています。事前予告はなく、何かを参考にするこ

もできません。生徒はみなB4の紙を渡されるだけです。これは、これから授業で訪れる場所を地理的に認識してもらう狙いと共に、「知らない」ことを知ってもらうためにおこなっています。約9割の生徒が、最寄りの駅から学校までの道のり程度しか書けません。よくできて最寄駅から鉄道の沿線を伸ばして書ける程度です。まれに京田辺市民がおり、普段は注目されることのない知識や地理感覚が陽の目を見ます。しかし、その「知らない」が出発点になります。

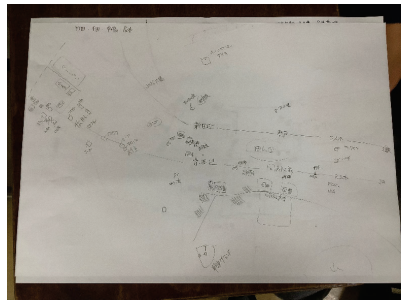
授業では、次の段階として、国土地理院の地形図を渡し京田辺市の市境をなぞります。「こんな形をしていたのか。」「この場所知ってる。」「ここはなんでこんなに家も施設も少ないの?」気づきや新たな疑問がわいてくると、比較的学習への移行がスムーズになります。授業で解決できない疑問は、長期休みの宿題やレポートのテーマとなっていくます。そうして、疑問や課題をもって現地を見に行くとい

う、この授業で1年間おこなっていく所作を学んでもらっているのです。月1回のフィールドワークでは、必ず、事前学習―現地見学―事後学習の形式をとっています。何も知らずにただ現地に行くのと、課題や疑問をもつて見に行くのでは、行く側の主体性が全く違います。「連れて行かれた」ではなく、「探しに行った」という感覚を持ってもらうことを意識しています。

### 現地に立つということ

この授業を前任の佐藤靖子先生、角谷江津子先生から引き継ぐ際に「歴史あふれる京田辺の遺跡、遺産に生徒をつれていくことを大切にしてきた授業です」ということがありました。高校3年生の選択科目ですので、他の科目は、今まで習得してきた知識を生かした大学の講義に近いような形式の授業がほとんどです。しかし、この授業はいわゆる「座学」ではなく、実際に「現地に行き感じる」という授業です。そのテーマ設定に特徴があるのです。

授業で訪れる場所は、高校の学習内容でいうと「日本史」



生徒が書いた手書きの地図

に関係するところがほとんどです。近隣の観音寺や一休寺、京田辺校地の歴史資料館、同校地内の遺跡や古墳、三山木方面にある南山義塾の碑、京田辺市内のお茶に関連する施設、など時代やジャンルは様々です。

しかし、この授業を選択した生徒が全員「日本史探究」を選択しているわけではありません。つまり、訪れる場所に関する基礎知識が、別の授業で補完されているわけではないのです。そういう状況ですから、授業内容に対するモチベーションが高い生徒が多いというわけではありませんし、事前学習を一生懸命やるか？という決してそういう生徒が多数派なわけでもありません。

それでもいざ現地に立つと、真剣に遺物や遺跡と向き合ったり、メモやスケッチをしながら周囲を見て回ったりと、各々の方法でその場所を感じる生徒が7割くらいになるという感覚を持っています。その時こそ、この授業の目的である「現地に立つ」ことの意義を感じる場面です。実際、授業をしていて一番生徒からの質問が多いのは現地見学と事後学習の時間です。



現地見学の様子（下司古墳群）

## 京田辺を楽しむこと

この授業では、毎年「夏休みの宿題」を出しています。年によって若干の差異はあるのですが、おおむね「京田辺の魅力を伝える制作をしてください」というものです。宿題は、必ず授業と同様に「事前学習―現地見学―事後学習」の形式をとるように指示を出します。夏休み明けの授業では、その制作物の鑑賞会、発表会をおこなっているのですが、毎年生徒の自由な発想と行動力に驚かされる時間になります。以下に過去の制作物の例をいくつか紹介します。

### 「歴史ある京田辺の古墳」

京田辺にある古墳全6基を自転車でめぐる

### 「京田辺と宇治茶の歴史について」

京田辺市立図書館で事前学習をおこない、本校卒業生が営むお茶屋さんを訪ね玉露について学ぶ

### 「京田辺の奥地「天王」とは」

初回授業で気になった「天王」という地域に実際に行ってみて魅力を紹介する

このほかにも、京田辺で京野菜を栽培している農家を訪ねて料理を教わってくるもの。自転車レースTOJ (Tour of Japan) のコースをロードバイクで回ってくるもの。など本当に様々です。それぞれ動画やパンフレット、ポスター作製などをおこなってきます。その多くが、アポイントを自分たちでとり、現地でインタビューをした内容などを

盛り込みます。そこには、彼らなりの発見や感じたこと、そして何より楽しみながらおこなった様子が見て取れ、本当にクオリティーの高い制作が並びます。

一昨年は、私自身も負けじと京田辺の観音寺にある国宝十一面観音にちなみ、関西にある国宝指定の十一面観音を全て見て、発表をしました。

## おわりに 調べることは

近頃は、インターネットを通じた検索が本場に一般的になり、「調べればたいいていのことはわかる」という錯覚に陥ってしまう場合が多いのではないかと思います。検索をすればするほど情報は個別最適化され、文字通り「ほしいもの」が手に入る状況になっています。実際に別の授業などで生徒にレポートを課しても、参考文献にはWebサイトのURLが並びます。それ自体を否定するつもりはありません。

しかし、そのようにして得られる一種切り抜かれた情報ではなく、現実に生身で感じる言語化できない感覚や未知との遭遇、自分なりの発見もとても必要なことなのだろうと感じています。

「社会科なんて暗記科目だ」とか「学校で（社会科で）習う知識なんて調べればたいいていのことは書いてある」なんて言われがちです。さて、本当にそうでしょうか。この授業を通して学べることは、生徒も教員もたくさんあるなあと感じています。





中学校・高等学校

生徒がつくるプロジェクト

政治家の話を聞いて模擬投票を行おう

社会科教諭

井出 教子

### 主権者教育としての「プロジェクト企画」

2022年度より、高等学校の学習指導要領が実施され、「現代社会」に代わり「公共」が公民科の新しい必修科目となりました。本校では、2年生に必修「公共」を、その発展科目として3年生選択科目に「政治・経済」を設置しています。この二つの科目で、昨年から始めた試みが「プロジェクト企画」の募集です。若者の政治参加が盛んなスウェーデンでは、学校や地域で、若者に社会参画の経験をする機会が数多く提供されており、その経験を通じて若者たちは「自分も社会を変えられる存在である」という認識を強め、主体的に社会に関わる意欲を持つようになるそうです。(1) また、シティズンシップ教育が盛んなイギリスでも、社会参画の経験は主権者教育の重要な構成要

素とされています。本校でもそのような機会を設けることができないうか、という思いからこの試みを始めました。

「プロジェクト企画」は、授業の選択課題の一つとして毎学期募集し、担当者による選考を経て実施してもらっています。その内容については「SDGsの達成に貢献するもの」と限定していますが、実施の形態は企画者がボランティアなどの形で在校生と共に社会的課題について考える機会を設けることも可としています。最初はこの試みにどれくらいの生徒が手を挙げてくれるのか不安でしたが、結果的には毎学期平均して10前後の企画が実施されており、テーマも「子ども食堂について知ろう」、「性の多様性について考えよう」、「日本の過剰包装とその解決策について考えよう」などバラエティに富んでいます。企画の内容が決定すると、



討論の様子



参加者と企画者で記念撮影

ポスターを掲示して参加者を募り、放課後または土曜日に企画が実施されます。

### 「政治家の話を聞いて模擬投票を行おう」を実施した生徒たち

今回は、2024年7月に、「政治・経済」受講生4名が実施した「政治家の話を聞いて模擬投票を行おう」というプロジェクトを紹介したいと思います。このプロジェクトは、政治家5名をゲストとしてお招きし、150名を超

える生徒が参加するという、これまでで最大規模の意欲的な取り組みでした。企画者は谷昊桢さん、櫻井侃さん、福岡夢叶さん、古府護さんです。

#### ◆企画の内容はどのようなものでしたか

谷…企画には5つの国政政党から4名の国会議員と1名の政策委員の方が参加してくださいました。(2)ここに同志社高校生の中から有志で集った高校生党を加え、「もし国家予算が(今より)10兆円増えたら何に使用しますか」という議題について各政党の意見を提示してもらいました。そのうえで、生徒と各政党代表者との質疑応答を行い、最後にそれを聞いた生徒たちに模擬投票をしてもらいました。

#### ◆なぜこの企画をやりようと思ったのですか

谷…私が物心ついたころ、母が選択的夫婦別姓訴訟の原告として闘っていたのを見て、自分の考えを主張している母の姿をカッコいいなと思いました。身近でそれを見ていて影響を受けたのか、声を上げることの大切さや、選挙は私たちの意見や不満を、政治の場で反映してもらえる大事な機会であるという認識は昔から人一

倍ありました。それだけでなく、学校の「公共」など様々な授業を通じて、選挙で私たちが声を上げること、自分の望む、より良い未来を実現するために必要不可欠な行為であるという認識がありました。

その一方で、自分達が18歳になり、選挙権をついに得られるという喜びを感じる反面、一体どの政党に投票するべきなのか全くわからないことに気づきました。自分が情報源としているテレビやインターネットでは、日々政治の不祥事の報道が大きな見出しとなるばかりで、各政党がどんなマニフェストを掲げているか等の情報を得る機会が極端に少ないと感じます。もちろん、新聞を丁寧に読めばそれらの情報を見つけることができるのかもしれませんが、しかし、現在のような情報の発信源の偏りや探しにくさが、僕のような「選挙に行きたいけれど政治に触れる機会が少なく、どこに投票すればいいのかわからない若者」を増やしてしまっていると考えました。

若者が政治に興味を持たなくなるということは、同時に若者の投票率が下がり、世代ごとの投票率の差が生む政策の偏りをさらに大きくすると懸念しています。より世代間格差の少ない日本をつくるためにも、これ

から主権者となる高校生が政治に触れる機会を作り、「政治」や「投票」に興味を持ってもらいたい。その思いで今回のプロジェクトを企画しました。

#### ◆どのように準備を進めましたか

谷：僕はプロジェクトのリーダーとして、進行状況の確認やメンバーのタスク管理など全体の統轄を行いました。国会の会期の関係で開催日や進行が当初の予定から変更になった時は、それに伴いフライヤーを大幅に修正したり、議員さんに連絡・報告したりするなどの必要なタスクをその都度考え、メンバーと共有しました。

古府：私は、議題の設定、高校生党メンバーのスカウトと政策方針決め、当日の司会進行の原稿作りを担当しました。中でも議題の設定については随分と苦心しました。特に注意を払ったのは政治に詳しくない参加者であってもわかりやすい内容にすることです。「もしも10兆円増えたら」という架空の設定にすることで、既存のしがらみに捉われない自由な議論を政治家の方々にしていただけるのではないかと考えました。

福崎：私は、主に広報活動を担当しました。「どうせやるなら会場のホールを参加者で埋め尽くしたい!」という

思いで、リーダーの谷くんから与えられたタスクに取り組みました。特に、参加者を募るポスターや当日の配布資料は企画をより一層盛り上げるために、細かいところまでデザインにこだわりながら作成しました。

櫻井…私の主な仕事は政治家の事務所の方々とメールでのやりとりを行うことでした。とても緊張しましたが、無事にやり遂げることができ達成感を感じています。最初のメールには、返信がなかなか来ず、このプロジェクト自体成り立たないのではと不安でした。後から聞いた話では、政治家の事務所の方から学校に私という生徒が本当に在籍しているかなどの確認がとられていたそうです。

# ◆企画を終えて

谷…今回の企画は、メンバー全員の協力があつたからこそ実現できました。お忙しい中この企画に協力してくださった国会議員の方々にも感謝しています。参加者へのアンケートでは、企画の満足度平均が9.24（10点満点中）という高評価をもらえました。また、「今後投票に行ってみたいか」という問いには、全員が「はい」と回答してくれました。自由記述には「自分の選

択に責任を持つ事が大切だと理解できた」等の意見が多く寄せられ、本プロジェクトの大きな目的であった「若い世代が政治に身近に触れる機会を作り、政治に興味を持ってもらう」ことが概ね達成できたと感じています。また、政治家の話を生で聞き、議論する機会を持つことで、若者が政治を身近に感じられるようになるという確証が持てました。今後の課題としては、こういった企画を単発にとどめるのではなく、定期的な様々な政治家の方に話をしてもらったり、各政治家や政党の公約と実現度の比較を生徒たちが調べたりするような機会を設けることが必要ではないかと考えています。これからも若者が「政治」や「政治家」に触れる機会を提供できる仕組みを提案していきたいです。

(1) 両角達平『若者からはじまる民主主義』、萌文社、2021年

(2) 参加者は、勝目康衆議院議員、福山哲郎参議院議員、倉林明子参議院議員、前原誠司衆議院議員、長谷川ういこ参議院政策委員の5名。





幼稚園

主体的に環境に関わり、遊びを展開する子どもを育てるために  
遊びたくなる魅力的な環境構成を目指して

### 幼稚園教育および本園の教育理念

幼児期の教育は、幼稚園教育要領第一章総則において「生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの」とされています。園生活における様々な活動や人との関わりを通して発達に必要な体験をし、生涯の基礎となる社会の一員として生きていくための力を育んでいくことが求められています。そして、この「生きる力」の基礎を育むには「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育てることも必要です。園での充実した生活により培われるこれらの資質・能力が小学校以降の生活や学習に深く関わるため、本園でも園生活や活動が資質・能力の育成に繋がっているか、環境や援助は適切であるかを確認しながら日々の教育活動を行っています。同時に、これらの力は「幼児の主体的な活動である遊び」を通して育まれるものです。資質・能力は子どもが自ら心を動かした経験（遊び）を通して育ってきます。子どもが自ら遊びを展開していく中で様々な気付きや感性、関わる力を得ていくために、本園においても「子

幼稚園教諭

たけなか  
竹中 琴恵  
ことえ

どもが自発的に関わり、遊び込むことが出来る環境構成」を目指しています。子どもの興味・関心に沿った活動や教師の働きかけ、及び環境構成とその中で見られる育ちの姿について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」も参考にしながら、今年度の四歳児一学期の遊びの事例を通して振り返りたいと思います。

### 園の自然環境への興味と友だちへの広がり ～園庭の虫探しから～（四歳児・年中組）

本園の園庭は半分が芝生や雑草の緑で覆われており、植物が多い環境です。通りを挟んで向かいに位置する京都御苑と合わせて豊かな自然に囲まれ、二〇二〇年三月末に現在の地へ移転した後から徐々に園庭で昆虫が見られるようになりました。その中で、子どもが夢中になる遊びの一つが虫探しであり、今年の年中児も毎日だんご虫を探しては玩具のバケツに集めていました。ある日、一人の男児（A君）が「てんとう虫見つけた!」と見せに来てくれました。その日はすぐに逃がしたのですが、次の日以降もA君が

次々と見つけたことから、今年は園庭のクローバーにでんとう虫が来ているようです。そこで、他の子どもにも新しく園庭にきた他の虫に関心を向けてほしいと考え、「A君がでんとう虫を見つけたみたい」と呼びかけました。すると、何人かが集まり「ぼくも見つきたい」と探し始めました。日に日に違う子どもが加わり、遠足に行った先でもでんとう虫探しをするようになりました。毎日のでんとう虫探しが子どもの楽しみになり始めた頃、さらに関心が深まるように対話の際に科学絵本を読みました。でんとう虫の生態がリアルなイラストで描かれ、孵化から成虫になる姿や主食、水玉模様の羽根の下に飛ぶための羽根（さや羽根）があることなど新たな発見が多くありました。子どもたちはじつと見入っていました。反応は薄く、内容が難しかったかと感じましたが、好きな時に見ることが出来るようにでんとう虫を始めとした春の生き物の絵本や図鑑のコーナーを作っておきました。

さらに別の日に、遊びに使うための衝立にでんとう虫をみんなで描くことにしました。日々園庭で見る姿を思い出したり絵本や図鑑を見たりして描くうちに、「草も描いて良い?」「ご飯も描くね」とでんとう虫そのものに親しむをもち始めている様子でした。翌朝、A君が一枚の絵を描いてきました。「でんとう虫達が、真ん中にあるなすを食べているところ」でした。また、別の女兒も「でんとう虫達がお庭を飛んでいるところ」の絵を渡してくれました。お母様によると、『下にある羽根で飛ぶんだよ』と話しながら描いていました」とのことでした。

一人の園児の発見によって虫探しに熱中する子ども達の

興味別の虫に広がり、形や生態に四歳児なりの興味が深まったと感じました。

### 興味・関心の深まりと様々な活動への展開 ～壁面作りと迷路作りを通して～

でんとう虫への関心が高まってきたため、壁面製作にも取り入れました。色画用紙とモールで体を作り、模様はパス、背景の草は絵の具で塗って完成です。壁面を前に「ぼくのはどこかな」「私はこれ」と自分のでんとう虫を友だちと探し合い、見つけて喜ぶ様子も見られました。園庭と保育室双方ででんとう虫を身近に感じる環境となった時、「でんとう虫のダンス」の音楽を流しました。赤いポンポンを用意しラジカセの使い方も伝え、手に付けてでんとう虫になりきって踊りを楽しみ始めました。外ではでんとう虫探しを、部屋の中ではでんとう虫ダンスを行い、でんとう虫が生活や遊びに組み込まれていきました。

季節が徐々に移り変わり、雨が降る一方で猛暑日もある中、園庭ででんとう虫が見つからない日も出てきました。これからさらに見られなくなることが予想されますが、せっかく芽生え始めたでんとう虫への興味を他の遊びに繋げたいと考えました。そこで、「お部屋の中でも、でんとう虫ともっと一緒にいたいね」と話し合ってみると、「もっと作るの?」「壁をたくさん作って迷路にすれば」との声があがり、この前作った衝立のように段ボールを繋げて「でんとう虫迷路」を作ることになりました。早速、翌日から段ボールを各家庭から集め、迷路作りが始まりました。

壁面作りに取り組んだことで、自分が作ってたんと虫への愛着が深まり、出来た壁面を見て友だちと言葉のやり取りをして感動を共有する機会となりました。また、親しみのあるてんとう虫を通して、普段は踊らない子どもも友達と一緒に踊る姿が見られました。子どもの興味に沿って環境を構成したことで遊びの幅が広がったように思っています。てんとう虫迷路は、絵の具やパス、色紙など数種の教具や素材を使って作っていました。完成が近づくにつれ期待や意欲が高まり「行き止まりも作ったら?」「ゴールをお家にしたらどう?」と次々と案が出て来る中、ついに全ての壁が仕上がりました。ホールに運び、ようやくみんなで繋がります。友だちと一緒に運び、支え合って洗濯ばさみで止め、途中の道は閉じて…。思い思いに道を繋げていきました。やっと道が出来た後は、探検ごっこや、中にブルーシートを敷いて池の生き物に変身するなど、色々な遊びに使いました。さらに他学年もお誘いすると、迷路探検やお家ごっこなど、異年齢が共に遊ぶ場となっています。

## 活動を振り返って

園庭のてんとう虫探しから始まった今回の活動では、子どもたちの資質・能力を育む様々な場面がありました。製作に向けた過程での「知識・技能」だけでなく、何をどのように作るかを考える「思考力・判断力」、形にする「表現力の基礎」を培う機会となりました。また、「一〇の姿」中での様々な育ちの姿が見られました。「③協同性⑥思考力の芽生え⑦自然との関り・生命尊重⑨言葉による伝え合

い⑩豊かな感性と表現」の姿です。また、教師による働きかけも行いました。一人の子どもの関心を他児に広めたり、すぐに手に取って調べたり遊んだり出来る場を作ったり、話し合いや豊富な教材の準備などの援助や環境構成が、子ども達の関心の持続や深まり、活動への意欲に関わっていると感じます。また、子どもから出る言葉や思いを聞き逃さずに、子ども達の興味を丁寧に取り上げる大切さも再認識しました。

幼児が日々遊ぶ中で、何を学びどのような力を育んでいくかは幼児を取り巻く環境によるものが大きいですが、その環境は教師がねらいに応じて計画的に構成することが必要だと今回の活動においても実感しました。

これからも毎日の生活において子ども達が心動かし経験ができるよう、子どもが主体的に関わり合う環境構成に力を尽くしたいと思います。



園庭でのてんとう虫探し



てんとう虫迷路作り(絵の具)



てんとう虫のダンス



てんとう虫迷路で遊びました

※著者の所属・職名は執筆時のものです。

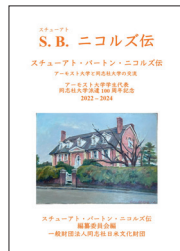
「ニコルズって誰？」その名を知るものは殆どいない。ニコルズは百年前の一九二二―一九二四年の二年間、アーモスト大学から同志社に派遣された最初の学生代表である。海老名弾正は総長になる前年に、アーモスト大学で両大学の密接な関係の必要性を呼び掛け、それに応えたアーモスト大学の学生運動となり、代表派遣が始まった。ニコルズもその講演を聴き、伝記『新島襄の生涯』を読み、アメリカン・ボード宣教師として船で日本へ向かった。

一九二二年は第一次世界大戦が終わり、専門学校令による同志社大学開校の年で、学生へのニコルズの影響は大きいものであった。しかしニコルズは帰米後、翌年に結核により二五歳の若き生涯を閉じた。母親マ―サは息子の人生を彼の幼少時代、同志社での学生たちとの密度濃い交流等を伝記一冊にまとめた。人生で大切なもの、そのキーワードはcharacter、preparationであることを伝えた。

一九三二年に学生代表が同志社学生と共に住む寮として同志社アーモスト館が、母マ―サをはじめアーモスト大学の多方面からの寄付金で贈られた。さらに、ニコルズの伝記は太平洋戦争直前の一九四一年に、アーモスト館寮生の渡邊義治（その後戦死）により出版され、今回現代語訳として復刻出版となった。

アーモスト大学は代表を送り続けており、本書は代表派遣百周年記念として両大学の交流の歴史を再確認するために出版された。本書により改めてニコルズの果たした両大学の交流の実態とアーモスト館の歴史が確認出来るよう。歴史的一次資料も含まれ、索引も丁寧に作られている。

編集委員 吉崎雅俊（一九七四年商学部卒）より



一般財団法人同志社日米文化財団出版局 寄贈  
刊行日 2024年2月

スチューアート・バートン・ニコルズ伝  
アーモスト大学と同志社の交流  
―アーモスト大学学生代表同志社大学  
派遣百周年記念―  
スチューアート・バートン・ニコルズ伝  
編集委員会編

コロナ感染拡大による規制が解けた現在、京都のまちは急速に姿を変えつつあります。大量の人びとが行き交う京都駅周辺では外資系ホテルの建設がすすんでいますし、街中や周辺部でも宿泊施設やマンション、新しい商業施設が次々につくられています。このように街がきれいになる一方で、地価が高騰して子育て世代が市外に流出したり、住民が利用していた施設や商店がなくなるなど生活の場が縮小したりすることも起きています。

誰もがなんとなく感じている、このような街の変化を指すことばとして世界中で使われているのが、本書のタイトルにある「ジェントリフィケーション」です。筆者は、この現象に関心をもち、それがいち早く観察されてきた米国ニューヨーク市のブルックリンに赴いて、5年におよぶ現地調査をおこないました。本書は、そこで得られたデータにもとづいて、なぜ、どのような仕組みで変化が起きているのか（第一部）、それは住民のくらしやまちにどのような影響を与えているのか（第二部）、さらにこのような変化に対して住民や地域社会ではどのような取り組みが行われたり、成果を上げたりしているのか（第三部）を、明らかにしていきます。

身近にある街やくらしで起きている変化の背景を理解すれば、それに対してどのような対処ができるのかや、誰もが生きやすく、安全なまちをつくるにはどうすればいいかを考えることが可能になります。そのような関心をもつ方々に、ぜひ本書を手にとっていただきたいです。

著者より



東京大学出版会  
3,520円(税込)  
刊行日 2023年11月

ブルックリン化する世界  
ジェントリフィケーションを  
問いなおす  
森千香子（大学社会学部教授）著





有斐閣

5,280円(税込)  
刊行日 2023年12月

## 核不拡散と核軍縮の国際法

あさだ  
まひこ  
浅田 正彦 (法学部教授) 著

本書は、核兵器の不拡散と核軍縮の問題を国際法の観点から解説したものである。

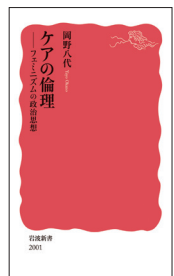
二〇二二年に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、戦争がいかに悲惨で残酷なものであるかを世界中に見せつけているが、同時にこの戦争は、ロシアによる核兵器使用の可能性を現実的な懸念として提起している。

早くも侵攻当日、プーチン大統領は、外部から介入しようとする者があれば核兵器を使用するとの威嚇を行い、その後も同様の発言を繰り返している。これは、通常兵器による戦争で不利になれば、核兵器を使うという脅しである。こうしてウクライナは、敗北が核兵器使用かという究極の選択を迫られ続けているといえる。核兵器を保有しておればその使用の威嚇をすることで、戦争に負けることはないというのであれば、どの国も核兵器を持ちたいと思うであろう。核兵器拡散の危険が現実問題として高まっているのである。

日本は唯一の戦争被爆国として、機会あるごとに核軍縮を標榜してきた。核軍縮に関しては、核兵器の不使用や核実験の禁止など、その前段階として多くの重要な未完の課題があるが、ウクライナ戦争や米口対立の再燃によってその可能性は大きく後景に追いやられた感がある。しかし、核軍縮のすべてのプロセスが止まっている時だからこそ、物事の本質を見極める思索が可能かつ重要となるのである。

核不拡散・核軍縮に関連する基本的な問題をほぼ網羅して詳細に解説した本書を手にとって、そうした思索を実践して頂ければ、著者としては望外の喜びである。

著者より



## ケアの倫理

——フェミニズムの政治思想

おかの  
やよ  
岡野 八代 (大学院グローバル  
スタディーズ研究科教授) 著

2024年に入り、長年研究してきたケアの倫理をめぐる著書を、岩波書店における新書2001点目として光栄にも公刊することができました。博士論文を含め、わたしの研究生活の半分以上をかけて研究してきたテーマだったこともあり、とても感慨深い新書となりました。また、研究を始めた当初に比べ、新型コロナ・パンデミックの影響もあり「ケア」への社会的関心も高まりました。新書とはいえ、多くの哲学者に触れる少々難解な著作にもかかわらず、研究者だけでなく、実際のケア実践に関わる方にも読んでいただいていると伺っています。

本書は、ケア、つまり、他者の手を借りなければ生きるために必要なモノや活動がままならない人のニーズを満たす実践や思考、そしてその社会的価値の在り方について、70年代以降のフェミニスト研究者たちがいかなる議論を積み上げてきたのかを、半世紀にわたるフェミニズムの政治思想として、紆余曲折をめぐる葛藤を含め詳細にしました。日本ではまだまだ、ケアの倫理をめぐる議論をするさいに重要な、フェミニストの著作が邦訳されていません。これを機に、是非とも若い研究者たちにもケアの倫理の魅力が伝わればと思っています。

新書という体裁ながら、邦訳されていない著書については、哲学的な議論に踏み込んで論じた本書は、ケアの倫理をフェミニズム思想の歴史として捉え返した、本邦初の著書となったと自負しています。

著者より

現行の民事訴訟法が施行されて四半世紀が経過した。日本学術会議委員任命拒否問題等で顕在化したように、「憲法価値」（憲法）「三条」一九条、二一条一項、七三条一号・四号、九九条等）の毀損が公然と進行する現代日本で、私たちの憲法はますます窮地に立たされている。NHKの朝ドラ『虎に翼』で主人公や多くの人々が公布されたばかりの「日本国憲法」を読んで歓喜の涙を流した時代さえ、今では忘れられつつある。本書では、民事訴訟過程という救済形式が、その価値を再認識し具体化できる「民主司法の救済形式」となることを目指した。第1編「司法権と救済形式」では、「司法権の限界」と「公法紛争と法的救済」を論じ、第2編「信義・公正と救済形式」では、「民事訴訟と信義則」、「補助参加訴訟の公正確保」や「訴訟内非訟手続」を論じ、第3編「手続的正義と救済形式」では、「争点整理手続の改善」や「手続的正義の法理」を論じ、第4編「民事訴訟のICT化」の救済形式」では、私たちが「民事裁判ICT化論の歴史的展開」（日本評論社、二〇二一年）で展開した議論を承けて、政府の民事訴訟法改正案を批判的に検討した。

地球温暖化問題に象徴されるように、私たちが現在「茹で蛙」状態にあることは、民事訴訟法学の領域においても変わりがない。今回も、多くの人々に本学教職員の方々の手厚いサポートにより開板することができた。心から感謝を申し上げるとともに、本書が民事訴訟を通じた憲法価値」の再認識への一助になればと祈念している。

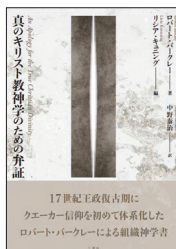
著者より



弘文堂  
7,150円(税込)  
刊行日 2023年12月

## 民主司法の救済形式 —「憲法価値」の手続実現

川嶋 四郎 (法学法学部教授) 著



三恵社  
6,050円(税込)  
刊行日 2024年3月

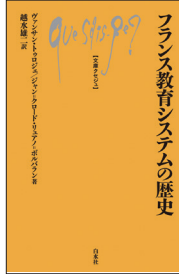
## 真のキリスト教神学のための 弁証

中野 泰治 (大学神学部准教授) 著

本書は、17世紀のクエーカーの神学者ロバート・パークレーの主著 *An Apology for the True Christian Dignity* (1678) の邦語訳である。共和政期イングランドで始まったクエーカー運動は、穏健派のリーダーであるジョージ・フォックスによってまとめられ、全国組織化されていった。そのフォックスの活動に理論的基盤を与えたのが、本書の著者パークレーであった。最初期クエーカーであるフォックスには終末意識（前千年王国説）が見られ、終末意識が後退した王政復古期に活躍したパークレーには、そうした思想が見られないという違いはあるが、初期クエーカー信仰の基本は、(1) すべての人々にはキリストの贖罪により内なる光（聖霊）が与えられている、(2) 「主の訪れの日」において光によって働きかけられるが、この働きに対して、沈黙のうちに自己を無にすることによって（あくまで神の恵みの力によって）反抗しないならば、救いが与えられる、(3) クエーカー信仰では、義認と聖化が同一のものであり、救いに与った者は、完全に正しく生きることが求められる（これが彼らの多くの社会活動の源である）、である。Apologyの内容は難解な神学的議論であり、かつ初期近代英語で書かれているため、ネイティブにとっても難しいようだが、また、20世紀以降のクエーカーによる自由主義史観から一世紀ほど正しく評価されない状況が続いてきた。ここ20年くらいパークレー神学の再評価が進んでおり、研究がさらに進むことが期待される。

著者より

## フランス教育システムの歴史



白水社  
1,540円(税込)  
刊行日 2024年3月

歴史  
フランス教育システムの

越水雄二  
おしず ぶるじ  
大学社会学部准教授  
訳

フランス教育史と言えば、何を思い浮かべるだろうか。高校の日本史教科書には近代学校制度の構築がフランスを模範に始まったと記され、世界史では中世西欧に誕生した大学の一つにパリ大学が挙げられている。それらの説明に目を留めた記憶がある方も結構おられるかもしれない。

『フランス教育システムの歴史』は、原著の初版が、定評あるクセジユ叢書の一冊として2005年に刊行された。著者たちは20世紀後半に進化したフランス社会史および教育史の研究成果に基づき、かつ、同時期の教育諸研究、とくに教育社会学の知見を活かして、学校制度を中心とする教育システムが形成された過程を、現代の教育問題を理解する上で重要な七つの側面から描き出している。全7章のテーマは次の通り。  
1「学校と権力―教会から国家へ」、2「学校の構築」、3「教育実践の進化と教授法をめぐる論争」、4「自律と集権化の狭間にある学校」、5「職業への教育―同業組合から技術教育へ」、6「学校と不平等」、7「学校における技術革新」。どの章も、テーマの源流を古代ギリシア・ローマへ遡って検討した後、フランスの古代・中世・近代へと問題の展開を辿り、現代の状況から将来を展望する考察で締め括られる。

教育はもちろん、フランスの社会や文化に多様な関心をもつ方々から本書が幅広く読んでいただければ訳者は幸いである。日本における教育の歩みと今後の課題をめぐる思索にも、フランス教育史のこのコンパクトな概説書は、比較考察に役立つ史実と視点を示してくれると思う。

訳者より



大阪大学出版会  
6,820円(税込)  
刊行日 2024年2月

## クビライと南の海域世界

向正樹  
おし まさき  
(大学グローバル地域文化学部准教授)  
著

十三・十四世紀は、モンゴル覇権のもとユーラシア世界が陸・海の交易路で結びつけられ、国際商業や技術・文化交流が進んだ、初期グローバル化の時代です。この時代はいま、グローバルヒストリーのホットな研究領域となっています。本書は、モンゴル広域国家とムスリム交易デリアスボラの結びつきに着目し、モンゴル統治下の中国(元)と南の海域世界の非対称な経済的結合の成立過程、多宗教共存の実態やその背景にある世界認識を探るものです。

十三・十四世紀には、資本主義世界システムに先行する史的システムが存在したとされますが、世界システムのアプリオリな全体性の設定には疑問もあります。そこで本書では、覇権国家や経済的結合の非対称性という世界システム論の問題関心を継承しつつ、ネットワークの視点からシステム論を脱構築します。

本書の表紙カバーや表紙に使われている仏・ベルジュロン「マルコ・ポーロ地図」や蘭・ホンデイス「アジア図」は本学グローバル地域文化学部が所蔵する貴重資料です。世界認識の変遷や古い地名を調べるのに役立っています。同じく表紙カバーの、モンゴル兵の一人一人の顔がよく見える絵画は菊池神社蔵「蒙古襲来絵詞」模本を使用しました。人のつながりという本書のテーマを表しています。

著者より



創元社  
2,970円(税込)  
刊行日 2024年3月

## 関和知の出世

政治記者からメディア議員へ

河崎吉紀 (社会学部教授) 著

本書は、戦前の衆議院議員である関和知(せき・わち)の伝記である。彼は1870(明治3)年に生まれ、1925(大正14)年に亡くなった。東京専門学校(現在の早稲田大学)を卒業後、雑誌『新総房』を創刊する。周囲の援助を得て、この雑誌は日刊新聞へと拡大した。そこでの人脈が、彼にアメリカ留学のチャンスをもたらす。プリンストン大学で学位を取り、帰国した関和知は新聞『万朝報』『東京毎日新聞』に勤め、1909年、衆議院議員としてデビューした。その後、大隈重信内閣で秘書官、副参政官を務め、憲政会という政党に参加して幹事長、総務となつて活躍した。

当時は、地主で資産のある人々が政治家になることが多かった。しかし、関和知に経済的な資本はない。苦労して大学を卒業した。そのような人物が政治家となるには、ほかにリソースを開拓する必要がある。それが、人に影響を及ぼし、人を結びつけるという機能をもつ「教育とメディア」である。早稲田で優秀な成績を修め、アメリカで学位をとって人的資本を形成する一方、先輩後輩のつながりが政治家となるための支援を生み出した。新聞社はこうした人々が集まる政治的センターとして機能し、地元の有力者を引き寄せ、社会関係資本を蓄積していった。政治家となつてからは、メディア・パフォーマンスを展開し、新聞雑誌に取り上げられることで、その有名性を政治力へと変換した。

本書は、政治とメディアの関係を、メディア出身の政治家において考察する「近代日本メディア議員列伝」の一冊である。

著者より



勁草書房  
3,740円(税込)  
刊行日 2024年3月

ジョアン・トロント著  
『ケアリング・デモクラシー』  
「市場・平等・正義」を  
監視、解説して

岡野 八代 (大学院グローバル  
スタディーズ研究科教授) 著

合衆国のフェミニスト政治理論家、ジョアン・トロント先生は、現在、ミネソタ大学、ニューヨーク市立大学の名誉教授であり、国際的にケアをめぐる議論をけん引し、多くの国際的なネットワークを構築するのに貢献してきた。わたしが最も影響を受けたフェミニスト研究者です。本書は、政治学者として民主主義の定義をフェミニストの立場から、とくにケアをめぐる歴史、社会状況、世界的位置について、大きく転換することを迫る、トロント先生の主著の一冊です(なお、最初の単著である『モラル・バウンダリー』も今年翻訳されました)。

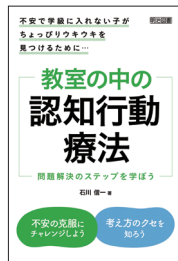
トロント先生は、この二冊の主著によって、それまで主に哲学の分野で論じられてきたケアの倫理を、政治理論へと大きく展開させたお一人ですが、とくに1993年公開の『モラル・バウンダリー』は、その学術的な影響力の大きさを認められ、昨年アメリカ政治学会により、ペンジャミン・リビンコット賞を授与されました。

『ケアリング・デモクラシー』は2013年に合衆国で公開されたという意味で、決して新しい本ではありませんが、2020年末から世界を襲った新型コロナウイルス・パンデミック以降、世界的に注目されるようになったケア不足に、わたしたち一人ひとりがどう対処するか、またケア不足を解消するためにいかなる政治的取り組みが必要なのかを考えたために、本書を是非とも日本で紹介しなければならぬという思いで翻訳にとりかかりました。

本書の邦訳によって、政治(学)こそが、ケアという営みを最も蔑んできたのではないか、つまり、ケアを担われてきた女性の地位の低さは、人類の政治像が歪んできたためではないか、と根本から政治を見直す機会となれば幸いです。

著者より





明治図書出版  
2,200円(税込)  
刊行日 2023年10月

## 教室の中の認知行動療法

石川 信一 (いしかわ しんいち)  
(大学心理学部教授) 著

2022年度、小中学校における不登校児童生徒数は、ついに30万人に迫ることとなりました(299,048人)。このことは、中学校では17人に1人が不登校状態にあることを意味しています。このような事態を受け、全ての児童生徒に学びの場を確保するべく、学内外での多様な学びの形の提供が求められています。しかし、ふと立ち止まって考えてみると、ある疑問が思い浮かびます。

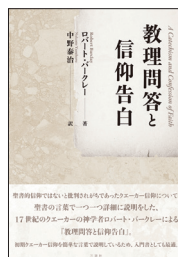
「どのようなときに、オンライン学習を勧めるべきなのか?」「サポートルームへの通学が効果的なのはどんなときか?」「教室へ入るように促した方がよいと判断するために必要な情報は何だろうか?」

児童生徒を支援するための環境整備は確かに重要ではありますが、適切に運用するための知恵や技術がなければ、効果を発揮することはできないと思います。

このような疑問に応えるべく本書は執筆されました。認知行動療法は、子どもたちの心理的問題に広く効果が証明された心理療法であることが知られています。そこで本書は認知行動療法のアイデアを、教育場面で応用する際にポイントとなる点をまとめました。

さらに、「誰一人取り残されない」社会を実現するためには、適応に困難を抱えている人だけではなく、その周囲にも学びの機会を提供することが大切です。そのため、本書では、個別支援のみならず、教室の中で担任教師が実施できる授業形式の認知行動療法の技法も紹介しています。本書が子どもたちの支援にかかわる人たちの一助となり、そのことで救われる子どもが一人でもいれば大変うれしく存じます。

著者より



三恵社  
1,540円(税込)  
刊行日 2024年4月

## 教理問答と信仰告白

中野 泰治 (なかの やすはる)  
(大学神学部准教授) 著

本書は、17世紀のクエーカーの神学者ロバート・バークレーによる『Catechism and Confession of Faith』(1673)の邦語訳である。クエーカーは「文字は生命を殺す」と考えていたことから、信仰の「ドグマ化」を避けてきた。しかし、周囲からの厳しい迫害もあって、自分たちの信仰を守るために数多くの護教的なパンフレットや書籍を出版してきた。特に誤解を与えがちだった教えは、内なる光(聖霊の働き)が真理の第一の基盤であり、聖書は光の働きによって書かれたものであるから第二次的であるというものであった(ただし、光による啓示の内容は、聖書や教父の著作、他の信徒の言葉といった複数の証によって検証される)。当時の主流派であったカルヴァン派は、神の啓示は既に終わっており、聖書が神の御言葉そのものであるとの立場を採っていたため、クエーカーは聖書を軽視・否定しているとしつこく攻撃されていた。そうした聖書否定・軽視という批判に対して、バークレーは本書『教理問答と信仰告白』において、すべて聖書の言葉を用いて、クエーカー信仰の全体像を示したのである。後に彼は、神学者からの反論に答えるために『真のキリスト教神学のための弁証』というより本格的な神学書を著すことになるが、この『教理問答と信仰告白』は聖書的ではないという外部からの批判に真正面から答え、対内的には若者にクエーカー信仰を聖書の言葉を用いて教える入門書でもあるため、現代の読者におすすめである。

著者より

『ピーターラビットのおはなし』シリーズの著者ビアトリクス・ポターは、湖水地方の自然をこよなく愛した。彼女の絵本の世界に描かれた野の花々は、イギリス湖水地方の豊かな水、古森、そして溪谷に守られてきた。ナショナル・トラストなど一九世紀から続く自然保護活動により再生した野の花、木々、そして果実などを、湖水地方を含むカンブリア州やランカシャーの各地において、現在でも観察することができるのである。

私自身が在外研究でランカスター大学に滞在していた一年間、週末になると湖水地方とその周辺に点在する自然保護地区を中心に、溪谷を歩くフェルウォーキングをしていた。その時に野の花々と出会ったことから、この本が生まれた。地図を片手にフットパスを歩き、牧草地を横切ったり、森林を抜けたりするたびに野の花や木々を観察して、写真を撮り続け、イギリスの植物書を紐解いては調べた。自然のなかでたくましく生きる小さな花々の存在に力づけられ、また花々にまつわる民間伝承を知ることにより、その存在意義を確認することができた。

本書は、「春の訪れとともに」、「初夏への扉」、「夏の光のもとで」、「秋の憂いの囁き」、「冬に守られる命」と題した五つの章のもとに、三九種の花々を紹介している。植物学的見地からではなく、植物の文化的意味―特に神話や伝説、民間療法や食用採集など―に焦点をあてて、それぞれの植物を紹介した。そして、私自身の花への思いを込めて記した。

著者より



春風社  
2,200円(税込)  
刊行日 2023年9月

## イギリス湖水地方 ピーターラビットの 野の花めぐり

白井 雅美 (うすい まさみ)  
(大妻文学部教授) 著



溪水社  
11,550円(税込)  
刊行日 2024年3月

## 西尾実国語教育論の 生成と展開

松崎 正治 (まつざき まさはる)  
(女子大学特任教授) 著

江戸時代、藩によって異なる言葉が使われていました。ところが、明治維新後に近代的な国民国家を目指した日本には、全国共通の国語が必要とされました。日本は、ドイツに学んで標準語を作り、学校教育を通して普及しようとした。そうして標準語を教える国語科という教科が成立したのは、日清戦争と日露戦争の間の1900(明治33)年でした。国語科に関わる当時の人々にとっては、何をどのような教材と方法で教えるかは、深刻な課題でした。現代の観点からは信じられないことですが、明治初期の作文の教科書には、借金の証文や離縁願いなどが掲載されていました。将来の実用に備えてということで、これらの模範文を模倣させることが教室で行われていました。

この本で取り上げた西尾実「にしてお・みのる 1889(明治22) - 1979(昭和54)年」は、長野県で小学校・師範学校の教育を受け、小学校教師を経験した後に、東京帝国大学選科で学びました。その後、1920年代から1960年代まで、女学校や中学校の教師、東京女子大学や法政大学の教授、国立国語研究所初代所長を務め、現在の国語教育の原型を作りました。この本では、大正期から昭和戦後期までの大きな戦争をはさむ激動の時代に、西尾実がどのように国語教育の内容や教材、方法を創り上げていったのかを明らかにしました。

こういう歴史的な思考は、現在、そして未来の国語教育を考えるために必要な基礎作業だと考えて、私は取り組みました。

著者より

## 安中市・学校法人同志社連携協定事業 安中・同志社新島講演会

### 法人部

### 法人事務部

2024年6月22日、群馬県安中市の新島学園中学校・高等学校礼拝堂において、安中・同志社新島講演会を安中市と共催した。「安中市・学校法人同志社連携協定事業」として実施したものである。

開会に際して、同学園の聖歌隊によるミニコンサートが行われ、合唱とハンドベルの音色が来場者を魅了した。そ



新島学園聖歌隊



八田総長・理事長

の後開会の挨拶に立った八田英二同志社総長・理事長は、新島襄と安中市との関係、新島襄の志が新島学園に息づいていることなどに言及した。

講演会は第1部・第2部からなる。第1部として登壇した百合野正博大学名誉教授は、「新島襄が私学同志社を設立した重要な意味、グレイス教会で頭の中を駆け巡ったこと」と題して講演した。

監査論を主な研究テーマとし、研究、教育に加え、多くのクラブ活動の部長・顧問などに従事し、学生部長として



百合野大学名誉教授

活動した経験を持つ。百合野氏にとって、大きな転機となったのが2年間のイギリス留学だった。自由、真の



民主主義、アカウンタビリティ、パブリック（公）みんななどの概念を深く考える時間となった。こうした経験から帰国後、百合野氏は、新島襄の生き方や思想について考えるようになっていった。

2000年のホームカミングデーでは、新島襄がラットランドのグレイス教会で5000ドルを集めたことを会計学の視点から論じる講演を行った。同志社の創立130周年では、学生部長としてグレイス教会とアーモスト大学間の130kmを歩くメモリアルウォークを開催した。

百合野氏を知るに至った新島襄の強い思い。「自治自立の人を養成するのが私立大学の特性であり、一国の良心ともいふべき人物を養成したい。国立大の卒業生は国のため

に働くよう育成されるが、私立大学の卒業生は国民のために働く。新島にとって国民が国よりも大事なのだ」と百合野氏は語る。さらに「新島の遺言に『個儼不羈（てきとうふき）』という言葉が出てくるんですね。優れた才能を持ち、独立性が高く自由に行動

できる気骨のある人物という意味。新島はこうした学生の個性を認めて、大きな人物として育成しなさい、と考えたのです」とも言う。

最後に「新島先生が望んだような民主主義社会が、今後、日本に到来するという期待を持ちたい」と締めた。

次に登壇した本井康博元大学神学部教授は、「安中と同志社へ交流150年のその先へ」との演題で講演した。150年の起点を、新島がアメリカから帰国後、両親の暮らす安中の地を初めて訪れた1874年11月28日としている。そして、同志社と安中における交流のつなぎ役3本柱として有田屋（湯浅家）、安中教会、新島学園を挙げつつ、そこに関わった主要人物について取り上げた。

「新島を迎えた有田屋の3代目当主・湯浅治郎は、功績が大にもかわらず名前が知られていないのが残念」という本井氏。「湯浅治郎（※1）は、表舞台に立ったり、人前で自慢したりしない。縁の下で力持ち



本井元大学神学部教授



に徹した。「上毛かるた」にも登場しない。私は「縁の下  
湯浅治郎は力持ち」という読み札を入れたい」とも語っ  
た。

新島のごく初期の教え子の一人、高崎出身・松本亦太郎  
（※2）のエピソードは興味深い。湯浅治郎の長男一郎と  
ともに同志社に入学した亦太郎は、アーモスト大学卒業で  
新島の後輩に当たる神田乃武が帰国後、官立学校の教授に  
なったことに新島が不平をもらした消息を、著書の中で披  
露しているという。新島があくまでも「独立、自治」「無  
位無官」に徹した人だったことを裏付ける逸話だ。

同じく高崎出身の住谷悦治（※3）は、東大出身で同志  
社総長を務めた。東大紛争の頃、住谷は「この機会に東大  
など潰れたほうがよい」と語ったという。新島の在野精神  
や反骨心を受け継いだようなエピソードである。

本井氏は、最後に今後の展開として安中市や新島学園に  
対して姉妹都市提携、姉妹校提携などの提案を行った。ア  
ーモストやラットランド市、アンドーヴァーなどアメリカ  
の自治体に加え、新島脱国時に協力した備中松山藩主・板  
倉勝静にちなむ岡山県高梁市との交流を提案した。

講演後、共催者として新島学園の湯浅康毅理事長が「1  
50年という時間軸の中で、過去から現在、そして未来へ

とつながる中で、本校で講演会を開催できたことは大きな  
喜び」と挨拶。

主催した安中市の岩井均市長は「2025年は同志社創  
立150周年、そして安中市は合併20周年。うまく連携し  
つつ新たな展開を図りたい」と締めくくった。

※1 1850～1932。安中教会発足時に受洗。実業家と  
して頭角を現すとともに、衆議院議員となる。新島の死

去後、京都に移住、約20年間同志社の経営に奔走した。

※2 1865～1943。同志社英学校を経て。旧制一高、  
東大哲学科卒。心理学者。京都帝大教授、東京帝大教授

を歴任。日本心理学会を創設した。

※3 1895～1987。東京帝大法学部卒。吉野作造門下。  
経済学者。戦後、同志社大経済学部教授を経て。63年か

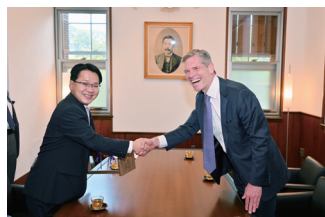
ら75年まで総長を務めた。

# 18年ぶりとなるアーモスト大学学長の表敬訪問

大学

国際課

6月5日（水）から2日間にわたり、第20代アーモスト大学学長のマイケル・アーサー・エリオット（Michael A. Elliott）教授が本学を表敬訪問されました。2021年にアーモスト大学は創立200周年を迎え、2025年には本学が創立150周年を迎えます。2022年にアーモスト大学で学長就任式が行われた際、本学からも代表者がお祝いに駆けつけました。2023年には、両大学のリベラルアーツ教育が国境を越えて交わることを願い、セメスターごとの教員交換制度の協定が締結されました。また来年秋には両大学の歴史資料交換展示も企画されています。18年ぶりとなるこのたびのアーモスト大学学長のご来訪は、両大学の緊密な連携を象徴するとともに、本学の「『国際主義』の深化に向



握手を交わすElliott学長と小原学長

けた「人を植ゆる」の事業」のひとつとして挙行了したものであります。

5日10時、まずは彰栄館にて小原学長がエリオット学長ご一行を迎え入れられ、Chief Advancement OfficerのElizabeth Cannon Smith氏、Dean of Admission and Financial AidのMatthew L. McGann氏、Adviser to the President for Amherst-Doshisha RelationsのSamuel C. Morse教授も同席のもと、両学長の初顔合わせの場がもたれました。本学からは、木原副学長、小田田国際センター所



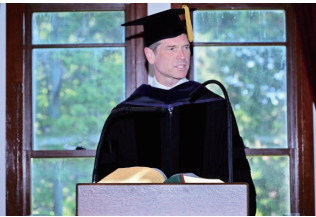
彰栄館前での記念撮影



キャンパスツアーの様子

長、東アーモスト代表らも同席しました。

その後はキャンパスツアーを経て、八田総長も有終館にて学長ご一行を迎え入れられました。また、15時半からはクラーク・チャペルにおいてエリオット学長の名譽学位贈呈式が執り行われました。



名譽学位贈呈式でご挨拶をされる  
Elliott学長



左からMorse教授、Cannon Smith氏、  
Elliott学長、McGann氏



登壇者との記念撮影



八田総長とのご挨拶の様子

6日17時からは、アーモスト大学主催によるレセプションがアーモスト館ゲストハウスにて行われ、関係の教職員がエリオット学長らと直接に親交を深める機会となりました。

なおエリオット学長のご来訪時には、Chair of MusicのDarryl Harper教授も、Amherst-Doshisha short-term exchange professorとして本学に滞在されており、6月下旬からは、Chair of EconomicsのCaroline B. Theoharides准教授が、同様の交流枠で本学にご滞在されました。またAmherst-Doshisha Fellowも、1958年よりほぼ途切れることなく派遣されており、現在のEdmund Kennedy氏が63代目となります。7月1日からは、長く両大学の交流にも尽力されたCatherine A. Epstein教授に代わり、Martha M. Umphrey教授が、アーモスト大学のProvost兼Dean of the Facultyに就任されました。本学の創立150周年を間近に控え、このたびの学長ご来訪が、本学からの教員派遣にも、さらなる弾みをつけるきっかけとなれば望外の喜びです。



女性アクティベーションセンター

## 生涯にわたる女性のキャリア形成を支援

女子大学では、創立以来、「キリスト教主義」「国際主義」「リベラル・アーツ」という3つの教育理念を掲げ、多様化する現代女性のニーズに応える教育・研究、地域連携活動等を実践してきました。2015年4月には、主に在学生や卒業生を対象として、女性が生涯にわたって社会的役

# 「女性アクティベーションセンター」の取組について

## 女子大学

センター長／看護学部看護学科教授

光木 みつぎ

幸子 さちこ

割を担い、能力を発揮できる支援と提言を行うことを目的に「女性アクティベーションセンター」を開設しました。女性のキャリア形成に向けたセミナーの企画や講演会を開催し、他大学や自治体、地域の人たちとの協働による支援プログラムなどに取り組んでいます。

## 現代女性の多様なニーズに応えるプログラム

2023年12月には、「パラレルワールドの女性起業家たちーまったく新しい世界観でグローバルなビジネスを構想するー」というテーマで、女性のための起業家セミナーを開催しました。第一線で活躍する二人の女性起業家と交え、起業の実体験に触れる講演会を行ったほか、参加者がそれぞれのグループに分かれてビジネスアイデアを作成・発表する機会を提供するなど、実際の起業を視野に入れた実践的なカリキュラムが好評でした。私が専門とする



看護の分野でも、培ってきた知識や技術を活かし、新たな社会価値へとつながるソーシャルビジネスを立ち上げる女性も少なくありません。女子大学創立150周年を視野に策定された将来構想『Vision150』にあるように、本センタールの取組が「自分自身を生涯にわたってデザインできる女性の育成」に向けたきっかけづくりにつながることを期待しています。

少子化時代を迎えた今、改めて大学が果たすべき使命に目を向け、その価値や魅力を社会に広く発信していくことが求められています。2023年11月に開催した子育て支援プログラムでは、京田辺市の地域子育て支援センターと連携し、「親子のぐっすり〜知って得する睡眠の疑問〜」をテーマに、子育て世代のお母さんを対象とした睡眠に関



する講習会を実施しました。女子大学の看護学科の教員が講師を務め、講義だけに留まらず、子どもの寝かしつけなどお母さんの困り事や悩み事について相談を受け付ける時間を設けるなど、大学の知見や研究成果を広く還元することで地域社会に開かれた大学を目指していきたいと考えています。

そのほかにも、京都の3女子大学が中心となりたちあげ、全国の女子大学とともに様々な連携活動や情報交換に取り組む「女子大学連携ネットワーク」など多彩な取組を行っていますので、ぜひ本センターのホームページをご覧ください。

## 学部・学科の枠組みを超えた学びで 自分自身の未来をデザイン！

2024年度4月から新たに「女性アクティベーションプログラム」がスタートしました。『Vision150』を実現するための具体的なアクションの一つとして開講したプログラムで、学修を通して国際的視点に立って歴史や事象を客観的に俯瞰することで、①幅広い視点を持ち、物事を客観的にみる力、②自分が社会に何を求められているのかを考え、自らの意思をもって行動する力、③ゆたかな世界づ

くりにクリエイティブに寄与するために必要な基礎的能力を身につけてもらうことを目的としています。履修対象者は、2024年度以降入学生（全学部・学科）。プログラムでは4年間を通して、同志社やキリスト教、グローバル、キャリアなどのコア科目群（8単位以上）に加え、学部・学科の枠組みを超えて、学生自身が興味と関心のある学科提供科目（4単位以上）を自由に選択して学べるのが大きな特徴です。意図的に履修してほしいという思いから履修了については自己申告制度を採用しており、修了者には「女性アクティベーションプログラム修了証」を発行する予定です。

私が担当する学科提供科目「家族関係論」（※3年次生以上の履修）では、将来、自分たちが結婚して新たな家族を作り、出産して母親になったとき、誰かが病気で仕事や家事などの役割ができなくなったとき、あるいは両親の介護が必要となったときに、家族の在り方や関わり方はどうのように変化していくのかを学修します。女性の生涯にわたる家族の成長発達について幅広く理解します。このように多彩な学部・学科を有する総合大学としての強みを活かし、女性のアクティベーションにつながるような学びの機会を提供することで、学生一人ひとりが自分の未来をデザイン

する力を養ってほしいと思っています。

女性のエンパワメントの実現とジェンダー平等に向けた取組が世界的に進められる中、力強いリーダーシップをもって社会で活躍できる女性が求められています。本センターにおいても、女子大学が目指す教育理念の実現につながるような魅力的なプログラムを企画・提供していきたいと考えています。

## Interview to Foreign Tourists!!

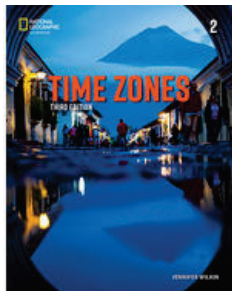
中学校・高等学校

英語科教諭

みなかわ 祥吾  
しやうご

### はじめに

英語 4 技能育成教材「Time Zones」（出版：National Geographic Learning）を同志社中学校英語科の授業に取り入れてから、2023年3月で6年が経過する。この教材を使い始めた理由としては、本校が基本的な英文法や語彙習得のために使用している教科書 New Crown（出版：三省堂）だけでは、生徒たちの英語学習意欲が高まらないと感じたからである。New Crown 内の英文は割と分かりやすく簡単であるため、基本的な英語のルールなどを教えるためには有効であるが、その反面、英文内容自体の面白さに欠けている。英語が日常的に使われていない日本とい



Time Zones  
(National Geographic Learning)

を教えるためには有効であるが、その反面、英文内容自体の面白さに欠けている。英語が日常的に使われていない日本とい

## 2023年度中2「英語B」授業実践

う国の英語学習において「学習モチベーション」はとても大切だ。学習モチベーションを高く保ちながら、自分の力で学習していかなければ英語力は培われない。Time Zones は英語 4 技能育成を目的にしているため、Unit ごとに多少の文法学習項目もある。しかし、最大の特徴は、各 Unit が National Geographic が収集している最新の情報や選りすぐられた内容を元に、生徒の好奇心を掻き立てる Topic ベースに構成されている点だ。生徒たちはその面白い英文内容を読みながら内容に引き込まれていき、その Topic に関わる語彙をまとめて学習したり、その Topic に関わる文のルールを学習したりできるようになっている。同志社中学校英語科のモットーである「Think Act Learn in English（自分で考え、行動し、英語「で」学ぶ）」を体现するのに現状相応しい教材である。

2023年度中2で担当した「英語B」授業でも Time Zones を採用した。Time Zones の Topic ベースの授業

を組み立てながら英語学習モチベーションを高めてもらい、各学期に用意したProjectで生徒たちに「リアルな社会での英語使用」を体験して英語使用の自信をつけてもらうためである。当たり前のことであるが、生徒たちが将来「使える」英語4技能育成のために、生徒たちのファシリテーターとして「英語B」授業実践をした。

## Interview to Foreign Tourists Project (2学期) にて

2023年度2学期に中2「英語B」授業で行ったProjectは「外国人観光客へのインタビュー」である。本学期は「比較級」や「最上級」の単元を重点的に学習内容として取り入れていたため、生徒たちには“Which do you like better?”の質問を各自用意してもらい、インタビューに行ってもらった。具体的には“Which do you like better, sea or mountain?”や“Which do you like better, Japan or your country?”など、生徒たちの興味に沿った質問が多岐に渡ってなされた。スケジュールは右表のように行った。インタビューは基本的に複数名グループで実施してもらい、1名以上の外国人観光客にインタビューをするよう促した。また、生徒たちのこのインタビュー

### ～ Interview to Foreign Tourists Project のスケジュール～

9月中旬：“Which do you like better?”の質問を考える

9月下旬：インタビュー練習を個人やペアで行う

10月上旬：外国人観光客にインタビュー

※インタビューは生徒複数グループで行動してもらい、  
筆者も一部観光地に引率を行った。

10月中旬：インタビュー結果まとめ（発表原稿作成→添削）

11月上旬：オンライン英会話時に発表

に対する「不安」をできる限り取り除くため、筆者が錦市場や四条河原町駅周辺など一部観光地にて生徒引率をした。このProjectの目的は主に2つであった。1つ目は、生徒たちに“Which do you like better?”の質問を実際に



外国人観光客インタビュー時に撮影した写真（@錦市場）



後も実施していきたい。

## おわりに

これまで2023年度中2に実施してきた授業、特に“Interview to Foreign Tourists Project”を中心に授業内容をまとめ、その振り返りをしてきた。授業分析は正確な統計分析によるものではないので一概には言えないが、生徒たちの日頃のコメント、3学期期末テストへの感想、実用英語技能検定の取得状況を総合的に見ると、今年度の「英語B」授業は生徒たちにとって有意義なものとなっており、少なからず彼らの英語学習モチベーションを上げ、彼らの英語力向上につながったようだ。日本における英語学習環境の中では、英語学習を学習者が自立心を持って主体的に学ばない限り、ある一定の英語力を習得することは難しい。英語教諭として、生徒たちがある一定の英語力習得目標を持ち、目的や興味を持って英語学習に取り組むことができるよう、授業や日々の声掛けで今後も働きかけていきたい。また、本校中3生徒には英検準2級取得を目標として伝えているので、2024年度の中3授業についても来年度まとめて今後の自身の学びにしていきたい。

してもらうことで、この疑問文の使い方を実体験してもらい、実用可能な英語表現として習得してもらうことである。2つ目は前述の「英語表現習得」のようなものではなく、実際に外国の方に英語で話をすることで、自分の英語が通じる体験をもらい、英語使用に対する「自信」を深めてもらうことである。日本という国にいる以上、英語という外国語を日常的に使う場面は限られ、英語を使う相手も教員や塾の先生など限られる生徒が多い。そんな中で見知らぬ人に英語を使うことで、実際に自分の英語が伝わっている体験をもらい、英語使用の自信を深め、今後の英語学習モチベーション向上につながって欲しいと考えた。

このProjectは最終的にオンライン英会話講師に対して調査発表を英語で行うことから、特別な事情がある生徒を除き、ほぼ全ての生徒が実施した。特にインタビュアーについては、友達同士のグループで行ったり、ご家族で実施したり、筆者引率についてきて行ったり、各々の形で頑張っ

て実施していた。生徒たちの統計的な満足度は測っていないが、この1年間の「英語B」全学習内容の中で、彼らの中で最も印象に残ったプログラムの1つだったということがテスト後のアンケートで分かった。京都は外国人観光客が多いという利点があるため、可能なら1年間に1度は今

同志社クローズ・アップ

# 寝屋川市駅から本校までの直行便バスの運行―バスロータリーの新設―

香里中学校・高等学校

香里中学校・高等学校

徳元 とくもと

篤志 あつし

## 長年の課題であった通学路に関する問題

香里中高は、寝屋川市にある京阪香里園駅から、徒歩で約20分の場所にあります。近年、香里園駅周辺では、急速に都市化が進み、多くのマンションが建設されました。生徒たちは、多くの周辺住民が通勤・通学等で駅に向かう流れに逆らう形で登校しています。また、駅周辺は都市化しているとはいえ、通学路には昔ながらの生活道も含まれており、決して広くはない道を、中高合わせ約1500人の生徒が通ることになります。道中ですれ違う、多くの地域住民の方から、苦情を寄せられているのが現状でした。

その問題に加えて、2024年6月より、京阪香里園駅高架化工事の影響で、通学路の道が更に狭くなり、新たな課題が浮上しました。当初の計画では、約5年間の大規模な工事となり、生徒たちが安全に通学することが困難な状

況となりました。

## 京阪バスの運行を開始

香里園駅からの通学は徒歩のほか、路線バスを利用することも可能です。しかし、この路線バスは迂回するため、学校までの所要時間は約20分となります。徒歩とバス利用の所要時間が変わらないため、利用者は少数に留まっていました。また、隣接の寝屋川市駅からも本校を通る路線バスがあります。こちらの所要時間は約12分と短く利便性は高かったものの、1時間に1本と運行本数が少ないため、利用できる生徒はわずかでした。

長年抱えてきた通学路の課題に加えて、京阪香里園駅の大規模工事による影響を踏まえると、香里園駅の利用者を極力減らすことに着手すべきであると考えました。そこで、寝屋川市駅から運行している路線バスに加え、朝の8時台

のみ7便に増便し、本校までの直行便を設けるように計画しました。

更に、本校正門前に、直行便の到着用のロータリーを設置し、より便利で快適で、そして安全な通学環境を整備することになりました。

## 2024年度からの通学の変化と今後の課題

直行便を含むバスの増便が始まり約3カ月が経過し、その効果が、徐々に現れてきました。寝屋川市駅からのバス利用者が通学だけでなく、香里園駅の利用者を減らすことで、香里園駅を利用している生徒や、通勤・通学の地域住民の方々の安全確保にもつながりました。

現在、毎朝約230名の生徒が寝屋川市駅からの直行バスを利用して登校しています。約1学年分の人数が分散されていることになりますので、一定の効果があると実感しています。バスを利用している生徒の反応はとても良好で、特に雨天や猛暑日などは乗車率が高まります。中高生にとって、重いリュックサックを持ちながら、徒歩で登校することは、やはり負担が大きかったのだと思っています。

しかしながら、課題も残っています。香里園駅の利用者が減った反面、中学校と高等学校が同じ敷地にある本校に

としては、約5学年分の生徒が未だに香里園駅から徒歩で通学していますので、根本的な通学路での問題は解決していません。寝屋川市駅からのバスの利用者をさらに増やすことで、より良い通学環境の整備ができると考えています。加えて、現在、増便されているのは、朝の登校時のみで、下校時の増便はありません。利用者が増え、下校時も増便されると、利便性が高まると考えております。



本校正門前に整備したロータリーを利用し、生徒が登校している様子

今後、寝屋川市駅からバスを利用する生徒と、香里園駅から歩く生徒を含めたすべての生徒が、より快適で安全な通学ができるよう、努めて進めてまいります。

# 英語オンラインスピーキングの取り組み

女子中学校・高等学校

英語科教諭

伊藤 芽衣

## はじめに

「はあー終わったー疲れたー!」

オンラインスピーキングレッスン直後、教室のあちこちからこのような声が聞こえてくるのは、生徒たちが集中して頑張った証です。女子中学校・高等学校では、2020年から少しずつオンラインスピーキングを授業に取り入れ、今では①中学3学年のWR（ワイルド・ローヴァー）コース、②中学2・3年生、③高校2・3年生がオンラインスピーキングに取り組んでいます。

## 学年・コースに適した内容とレッスンスタイル

①中学3学年のWRコースでは、マンツーマンレッスンを、各学年年間16回程度行っています。授業で学んだ文法を活用して実際に会話することができるようになることを目標に、中学文法を中心としたレッスンに取り組んでいます。レッスン時にはよく使える表現を提示したり、レッス

ン後には新しく習得した表現を交流し全員で共有したりするなど、生きた知識や技能を高める工夫をしています。初めて海外の先生とマンツーマンで話すという生徒も多いため、非常に緊張することもあるようです。しかし、その分毎回発見や学びも多くあり、生徒は充実した時間を過ごしており、学習後にフリートークの時間があり、そこで積極的に話そうと、興味がある話題に関する英単語を家で調べて、準備をしている生徒もいます。

②中学2・3年生では、グループレッスンを、各学年年間3～5回程度取り組んでいます。例えば、写真の授業では、事前に生徒がオリジナルのアイスクリームを考案し、それをレッスンで先生とグループのメンバーにプレゼンテーションしています。ネイティブの先生は、すぐ本題に入るのではなく、最初にその時のテーマに関連した面白い質問や話題を、イラストや写真を用いて投げかけてくださるので、生徒はリラックスして取り組むことができます。グループレッスンということで、普段日本語で会話してい

るクラスメイトが英語で話している様子を見て聞けることも、良い刺激になっているようです。

③高校2・3年生では、マンツーマンレッスンを、各学年年間10回程度取り組んでいます。教材を用いながら、テーマごとに自分の意見（賛成・反対）を決めて論理的に話していきます。ディスカッションでよく使うフレーズを事前に学習し、教材の流れに従って文を作成。それらを参考にしながら、オンラインで先生と意見を交わし合います。異なる見解ではどのようなものがあるかを予想し、「〃のような考えもあるだろうが、私はこうだと思う」と、他の考えにも心を配りながら自分の主張をすることで、建設的な議論をする力を養っています。



中学3年生のオンラインレッスンの様子

## オンラインレッスンを通して伸ばしたい力

本校ではこのようにほとんどの学年でオンラインレッスンに取り組んでおり、非常に有意義なものになっています。グローバル化する社会の中で、自分の意見をしっかりと持って話し行動することが求められる時代です。高校卒業までのレッスンを通して、英語によるコミュニケーション能力と主体性を伸ばしていくことが目標です。段階ごとにできるようになることの見通しを生徒と共有し、常に高いモチベーションで取り組んでいけるよう導いていきたいと思っています。



高校3年生のオンラインレッスンの様子



# 歌は喜び―熱い想いを唇にのせて―

国際中学校・高等学校

音楽科教諭

コーラス部／キリエコーラス顧問

阿部 望 あべ のぞみ

「新しい歌を主に向かってうたい

美しい調べと共に喜びの叫びをあげよ。」

詩編 33 : 3

私たちの活動の中心には、讃美があります。

キリエコーラスとしては、毎朝の礼拝での讃美奉仕をはじめ、卒業式やオープンキャンパス、学校説明会などでも奉仕に当たらせていただき、そのたびに「歌うことは大きな喜び」という部員の純粋な気持ちが強く伝わってきます。顧問としてはそれが嬉しく、活動を部員とともに行えることに誇りを持っています。

この8年間、キリエコーラスのためにアレンジした新しい作品を多く取り入れ、礼拝で歌ってきました。かつて在籍していた部員たちが一丸となって英語の歌詞を叙情的に和訳した送別の歌「An Irish Blessing」は、現在も卒業

式で歌い継がれている大切な歌です。

どんな作品にも真摯に向き合い、ただただ歌うこと、美しいハーモニーを作ることを心から楽しんでいる生徒が集う生徒主体のコーラス部ですが、その雰囲気壊さないように、また、彼らの持っている力があらゆる場面で十分に発揮できるように、部員とともに考えながら部を作っていくことを心がけています。コンクールなど、競い合うものには参加しません。これは顧問である私のこだわりではありませんが、コンクール等で入賞することが本部活動の本意ではなく、作り出す「私たちの」歌声をどこかの誰かと比較し、上下を決めることに重きを置くことを趣意としていないからです。聴いている人が「一緒に歌いたい！」と思える部活動を目指しています。

## コロナ禍で

2020年の新型感染症拡大の影響は大きく、礼拝で歌うことはおろか部活動もできず、共に歌えない時期が続きました。休校期間が延長された際には、幹部を中心に部員全員で活動方針を考え、各々で取り組むべき自主練習課題を考え実行に移しました。



休校が解かれ、放送礼拝が行われることになった際、私たちは「できることからやろう!」と、レスポンスの録音を積極的に行いました。十分な距離を取り、できるだけ広い場所で換気をしながら、更にマスクもして、息も絶え絶えに。制限も多く苦しい時期でしたが、歌える喜びに勝るものはなく、屈しない想いで過ごした日々は、貴重な経験となっています。

## 活動の場が広がっていく

激動のこの数年、常に手探りで、その時々で部員と共に考え一つずつ乗り越え活動が続けてきましたが、制限が次第に解除される一方で、発表の場がごとごとく奪われたのも事実でした。文化祭ではマスクを着用し息苦しい中で発

表できたものの、同志社キヤンドルライトサービス（CLS）やチャリティコンサートは開催されず、礼拝も録音、卒業式も録音となりました。発表の場がないのであれば、日々の努力と成果をどこかで発表できないだろうか。そう考えた私たちは、2022年12月に中京区にある遠藤剛熙美術館をお借りし、リサイクルを開催することを決めました。観客の人数制限がある中、美しく力強い絵画に囲まれ、緊張しながらも楽しく発表できたことは大きな励みとなり良い経験になりました。この年から、日本基督教団伏見教会の燭火礼拝で讃美奉仕をさせていただいています。教会での奉仕は皆さんに大変喜んでいただき、幅広い年代の方々との豊かな交流は思い出深いものとなりました。

2023年8月。第19回軽井沢国際合唱フェスティバルに参加し、音響の素晴らしいホールで堂々と演奏することができました。音楽関係者からも称賛を受け、次のステップの自信へと繋がりました。また、国内外の他団体の素晴



遠藤剛熙美術館にて



軽井沢国際合唱フェスティバル



2023年CLSにて



普段の練習の様子

に信頼して  
いることが  
よく分かり  
ます。欠け  
ているパー

ものすごいエネルギーと豊かな才能で下級生を引っ張ってくれていた高校3年生の部員達が卒業し、人数だけでなく声量も少なくなった在校生たちは、不安な気持ちを抱えたまま4月を迎えました。しかし、新たに7名の仲間が加わり、現在は更ににぎやかでやる気にあふれた雰囲気になりました。4月当初は、技術面では「ふりだしに戻る」感じでしたが、この数か月で躍進しており、一人ひとりの持つ個性的な声が調和し始め、互いに信頼して

## これからのいつ

らしい合唱を聴く機会も得、大きな影響を受けたようでした。新しい挑戦ではありませんでしたが、非常に意義のある経験となりました。

12月には、3年ぶりにCLSが行われ、コロナ禍で出演できなかったOBOGも加わり、喜びが爆発したような渾身の力で臨むことができました。



『主の道をいこう』発表  
2023年1月賛美礼拝に於いて



練習風景 (2016年)

トがある一方で、豊かに満たされたパートもあり、与えられていることに感謝しながら、日々の練習に励んでいきたく考えています。

「部活が楽しい！」と本当に心から楽しそうに宣言する部員たち。卒業しても、コーラス部に愛情を持ち、手伝いにしてくれる卒業生たち。コーラス部の結束力は強く、互いに慕い合う姿には学ぶことができます。

11月に同志社創立150周年を記念して行われる「全同志社合唱祭」にOBOGとともに出演を予定しています。

# IB・PYPプログラムと連動した宿泊学習

国際学院

初等部教頭 風間 寛  
かざま ひろし

## UNIT 2

「生き物は、環境に合わせて、変化する。」

IB（国際バカロレア）PYP認定校である同志社国際学院（DIA）の宿泊学習や校外学習は、必ずPYPのカリキュラムと連動して進められています。二年生は、六月六・七日の一泊二日で京都市動物園と滋賀県・琵琶湖方面へ宿泊学習に出かけました。

一日目は京都市動物園、琵琶湖オーパルでの活動でした。京都市動物園は、実は一年生でも校外学習で見学した場所です。今回はUNIT 2のセ



ントラルアイデアである「環境に合わせた変化」を念頭に、グループ単位で様々な動物を観察しました。お昼からはいよいよ琵琶湖へ。自然学習体験施設のオーパルにて、カヌー体験、プランクトンの観察、LEDランプの制作を行いました。特にカヌー体験は初めての児童が





多く、はじめはパドルの操作に苦勞する場面もありましたが、次第に思い通りの方向に進めるようになり、観察ポイントのヨシ帯までたどり着くことができました。決して長い時間はありませんでしたが、子どもたちの習得の速さには驚かされました。

夜は同志社びわこリトリートセンターにておいしい夕ご飯をいただいた後は、キャンプファイアー場でマシユマロ焼きを楽しみました。

二日目は、草津市立水生植物園と滋賀県立琵琶湖博物館にての探究活動です。一日目の京都市動物園と同様に、子どもたちは「動物の環境と変化」を念頭に、グループで様々な動物を観察しました。中にはワークシートにびっしりとメモを取る児童もあり、探究学習への動機づけとなったのだ



けでなく、そこから疑問や課題を見出して探究していく姿が見られたことでしょう。

暑過ぎず、寒過ぎず、天候にも恵まれて充実した一泊二日の旅となりました。





# 同志社小学校におけるハーモニーウィークの取り組み

## 小学校

副校長

石川 いしかわ

博三 ひろみ

同志社小学校では、6月3日（月）から6月7日（金）の1週間、ハーモニーウィークの取り組みを行いました。

「ハーモニーウィーク」とは、全同志社人が同志社教育の原点である「良心」に立ち返って、「隣人に何ができるのか」を考える「良心探求ウィーク」における同志社小学校での取り組みです。本校では、良心探求ウィークについて、春季を「ハーモニーウィーク」、秋季を「ピースウィーク」とよび、例年さまざまな取り組みを進めています。

今年度は、まず6月3日（月）にキリスト教行事である花の日礼拝を本校アリーナで行いました。子どもたちが自宅からそれぞれ持ってきた花を捧げ、アリーナ前方の献花台は華やかに彩られました。讃美歌を歌い、私からの話に続き全校児童でお祈りをしました。そして、休み時間や放課後に、日頃お世話になっている方々に感謝の気持ちとともに花束とメッセージカードをお届けしました。受け取っ

た方々からは笑みがこぼれ、みんなが温かい気持ちになった素敵な花の日となりました。

また、毎朝の礼拝において、本校宗教科教員が「ハーモニー」をテーマに話しました。「一人一人は大切なり」と新島先生がおっしゃったように、神様は一人一人を大切な存在としてつくられました。人と異なる部分は神様が与えてくれた大切な『個性』であり、それらを認め合い、補い合い、支え合うことで、人と人は結ばれる（ハーモニー）ということを学びました。

これと合わせて、学年や学級での活動、教科の学習においても、読み聞かせや集会、話し合い等を通して、ともにハーモニーを創り出すことについて考えるとともに、図書委員児童や教員が「ハーモニー」をテーマに選んだおすすめの本を、手に取って読むことができるよう、図書室に掲示をするなど様々な取り組みを行いました。これらの取り

組みを通して、ハーモニーについて考えた子どもたちが、次はそれぞれの場でハーモニーをつくり出す担い手となることを期待しています。



## 年長組の校祖墓参

### 幼稚園

幼稚園では、6月5日に年長組が若王子山頂の同志社墓地に行つて、新島襄先生のお墓の前で礼拝を行いました。コロナ禍で中止せざるをえない年もありますが、毎年行っている行事です。

### 幼稚園に集合してバスで移動

当日はまず、子ども達はいつものように幼稚園に登園します。ただし、この日は山登りをして新島襄先生のお墓に参るだけなので、持ち物は、水筒（紐付き）、ハンカチ、ティッシュ、帽子のみで、いつも持ってきているシール帳や荷物を入れる鞆はなしです。幼稚園に集合して準備が出来れば、最寄りの河原町今出川のバス停に行き、市バスに乗って東天王町のバス停まで移動します。あらかじめ市バスの営業所に乗る予定のバスを連絡して運転手さんに伝えていただき、子ども達全員と付き添いの教員が1台のバス

に乗れました。園バスがない本園では、遠足などでもできるだけ公共交通機関を使います。公共交通機関内でのマナーの練習にもなります。

東天王町のバス停からまずは若王子神社まで歩きます。一口の水分補給をしてここからはいよいよ山登り

です。同志社墓地へ行くのは初めての子どもがほとんどです。前日および当日は天候が良く、山道も比較的に乾いていましたが、それでも所々濡れている箇所もあり、また、子どもの足では急な登り坂や石の階段が続いています。転ばないように慎重に登りました。虫除けのリストバンドを



校祖墓参山登り①

したり、熊や毒ヘビが出てきたらどうしよう、というような不安を口にしたりする子どももいました。

## 墓前礼拝

墓地に到着すると、水分補給をして、まず落ち葉などを拾う掃除を行いました。子ども達はお掃除などのお手伝いをするのが大好きです。拾った落ち葉などを先生が用意していたゴミ袋に入れて周りをきれいにしました。そして、新島襄先生のお墓に献花をして、墓前で礼拝を行いました。賛美歌を歌い、お祈りをし、園長から新島先生や同志社創立の話聞いて、同志社を創って下さったありがとうございます、いつまでも私たちをお守り下さい、とお祈りをしました。また、奥様の新島八重さんや八重さんの兄で同志社創立者の一人である山本覺馬さんのお墓にもお参りをしました。



校祖墓参山登り②

## 下山して解散

山登りは下山の方が危険です。水分補給をして下山しますが、濡れている落ち葉を踏んで滑ったり、小石を踏んで足下がぐらついたります。降りるのが怖いと言って、先生に手をつないでもらって降りる子どももいました。再び若王子神社で水分補給を行った後、また東天王町のバス停まで歩きます。そして、バス停まで迎えに来てもらった保護者の方々に子どもをおかえしして解散です。水曜日は午前保育のみなので、お弁当の必要がない行事は水曜日に行っています。保護者の方々は日々の送り迎えとともに、このような行事では迎えの場所が変更になりますが、協力していただいています。

今年もケガや事故なく校祖墓参を行うことが出来ました。創立百五十周年事業の一貫として同志社墓地への山道の整備と福島の桜の植樹が計画されています。来年度は整備さ



同志社墓地の掃除



れて登りやすくなった山道を通って校祖墓参が出来ることを期待しています。

## 良心探究ウィーク

アメリカでは6月の第2日曜日が子どもの日とも言われる花の日です。幼稚園は6月3日～7日までが良心探究ウィークで、前日の4日に行った花の日礼拝とともに、神様に守られて子ども達が成長したことに感謝したいと思います。そして、子ども達が日頃、直接には接したことがない新島先生をはじめとする様々な人々が何らかの形で自分達の成長にかかわって下さった、あるいはかわってくださっていることに思いをいたし、感謝する心が子ども達に芽生えてくれることを願っています。



新島襄先生の墓前でお祈り



新島襄先生の墓前で礼拝





出演者に  
中田賀之氏（同志社大学グローバル・コミュニケーション学部教授）、  
Devin Rooney JIMINK 氏（同志社国際中高英語科教諭）、  
振本ありさ氏（同志社小学校英語専科教諭）を迎え、  
ファシリテーターを反田任氏（元同志社中学校英語科教諭・現瀬戸SOLAN学園初等部教諭）にお願いしました。

## 同志社の 一貫教育

hitohito-Li

### 同志社一貫教育における 英語教育

同志社一貫教育探求センター

所長 おおくば まさし  
大久保 雅史

一貫教育探求センターでは対談動画第三弾として、「同志社一貫教育における英語教育」にスポットを当て、一貫教育ならではの英語教育のメリットについて対談していただきました。

対談内容は

- ① 各校における英語教育の特色や取り組みについて
- ② 一貫校での英語教育におけるメリットと英語能力について

③ これからの同志社における英語教育の展望

の流れで、反田先生の進行によってそれぞれの先生方から、以下のとおり、各々の意見、学校での実践報告がなされ、小学校、中学校、高等学校、大学といった世代の違う児童、生徒、学生の英語教育について語られました。

振本教諭

小学校における一貫校の事業を活用した取り組みとして、同志社大学の留学生との交流など体験学習を通じて、生徒が直接肌で感じ、言葉と人が繋がる英語教育を展開しています。通常の授業は、外国人教員と日本人教員が担当し、低学年は、英語に慣れ親しむ学習を意図し、高学年は基礎学力をつける学習を実施しています。

校祖である新島襄先生を引用した英語教育は、児童にも非常に大きな影響があります。

児童には外国の人に自分の思いを伝えることが、本来言葉覚えることとの目的であると教育しており、また、私達も児童達を見ていて再認識させられます。

一貫校の児童、生徒が集って開催する「同志社英語大会

・立石杯・Recitation & Speech Contest」には、小学校からは4・5・6年生に出場する機会があり、出場を希望する児童たちは、卒業生を見て英語が話せるようになりたいと憧れています。

デジタル教科書の利用、iPadやコンピューターで情報を交換し合うなど、発信も早く、知る情報も範囲が非常に広がってきたように、ICTを活用した授業をおこなう時代が来たと思っています。これからの子供たちには授業の中で学びたいことを自分で掘んで探求できる教育環境があります。この環境下で成長した児童を中学、高校、大学、大学院へと送っていきたいと思っています。とお話がありました。

#### JIMMINK 教諭

国際中学校・高等学校は帰国子女の生徒も多いことから「英語を教える」のではなく、「英語で学ぶ教育の環境づくり」を意識し、習熟度別授業の展開、生徒に合った快適に勉強できる環境の構築を進めています。英語を通して豊かな想像力、思考力を養い、クリティカルシンキング、ディスカッションを通して新たな発見を導き出す教育を目指しています。

社会問題や世界情勢をみて、厳しい状況におかれている方々との共感、自分がその立場にいたらどう思うか、どう

感じるかなど感情移入ができる生徒を育て、自分の意思を表現する力を身につけてもらいたいと、いつも意識しています。

同志社小学校、同志社国際学院初等部で行われている英語教育の継続を意識し、英語の授業で社会問題やサイエンスを題材にし、英語で知識を得ることを継続しています。

生徒達には、「同志社英語大会・立石杯・Recitation & Speech Contest」「同志社英語プレゼンテーション大会・立石杯・Presentation Contest」では英語が話せるだけでは優秀な成績が取れないということを実感する貴重な経験になっています。また他学内校の中学生、高校生との交流の場にもなり、他の学校の良いところを学ぶ機会になっています。

法人内学校全体で行っているヌエバスクールへの短期留学プログラムでは、現地でホームステイを行い、また、ヌエバスクール生徒が来日した際はホストファミリーになってくださる生徒ご家族もたくさんおり、これも貴重な英語を使う経験になっています。

英語の授業で動画作り、単語、文法の習得をゲーム化クイズ形式にするなど、ICTの取り入れで教員の負担を軽減し、よりきめ細かく個性豊かな教育ができていると思います。とお話がありました。

中田教授

同志社大学には様々な学部があり、それぞれの学部で育成したい英語力および人材像にも違いがあり、必然的に各学部で求められる英語能力も異なってきます。敢えて言うならば、入学時までに必要な目安としては、TOEIC600点、英語検定2級レベルの能力があることが望まれます。

同志社の英語教育を考えるうえで、同志社の教育理念に基づいて育てたい人材像を考えていくことが大切です。また、ICTの重要性が叫ばれている今日ではありますが、学生の感性を大事にした授業を心掛け、世界に通じるような英語運用能力の向上を目的に実践的な英語教育を進めています。

同志社全体として教育理念があることはとても大事なことであり、その理念に基づいて学校ごとの、そして中高の一貫校6年間を通して育てたい人材を考えることができます。同志社としての共有する部分と各学校の独自性を出す部分の両面を打ち出すことができることは大きなメリットとなります。目に見えるスキルだけでは無く、相手への思いやりとか、異文化理解であったり、自身の内省ができた、社会に貢献しようとする態度の涵養などが含まれるかと思っています。長期的な人材育成ができるという点において、

目の前の受験に注力しなければならない受験の英語教育とは異なってきます。

「同志社英語大会・立石杯・Recitation & Speech Contest」では、小学生は「聴衆に伝わること」、中学生は「聴衆とコミュニケーションが取れること」、高校生は「自身のメッセージを聴衆に理解してもらう、そして考えてもらうこと」とそれぞれの学年で目指すべき目標が、共有できたとされます。そういう意味で貴重な体系的な学びの機会であり、大学や社会人になってからの目標もそれによって考えやすくなるのではないかと思います。

私自身は英語教育を専門とした研究者ではありますが、生成AIを利用するという認識は英語教育分野でも結構広まってきております。十分な議論無しに闇雲に利用を禁止するというよりも、むしろ英語教育でどのように生成AIを活用することが実際に使える英語力の涵養につながるのかを考える段階に既に入っていると言えます。これからは実社会に出ると、多かれ少なかれ、それらのツールを使って仕事をすることになるかと思っています。しかしながら一定の英語力を保持していないとそれらを十分に活用することはできないことも事実です。この両方を押さえた教育が必要だろうと私は考えています。とのお話がありました。

## 反田教諭

同志社の英語教育の特徴として各中高には複数名のネイティブ教員が在籍しており、コミュニケーション力、英語力の向上を目的に授業をされています。また、新島襄先生の理念が各学校の英語教育の中にも生かされています。

先生方の話を伺って、単語の数や文法をどれだけ知っているかということもさることながら、自分自身をどういう風に表現して相手と関わっていくかというところをそれぞれの学校で大事にされていることが感じられました。

同志社がこの10数年取り組んできました「同志社英語大会・立石杯・Recitation & Speech Contest」、同志社英語プレゼンテーション大会・立石杯・Presentation Contest」が、先輩の姿を見て更に英語をもっと話したい、うまくなりたいというモチベーションに繋がっているということを非常に嬉しく思います。

ICTを活用して、「SNSで情報発信していく」、「ゲームフィクションで学びを深めていく」とJIMMINK教諭から報告がありました。中学で担当している英語の授業ではゲームフィクションという点では発音をAIでチェックするアプリを使用しています。ここでは英語の発音についてどの発音がよくなかったということを音素ごとにチェックしてフィードバックしてくれます。子供たちの英

語の発話力を向上させるという手立てがICTの可能性としてあるのではないかと思っています。さらにこのアプリではこれらがスコアとして記録されていきます。また、一人一人の生徒にフィードバックされますので、修正していくポイントや、改善点が生徒にも明確に伝わっていきます。フリーライティングでテーマに沿って書いた英語の文章を発音練習する際に、先ほどの発音チェックアプリで自分の発音をチェックします。さらにそれを実践につなげるためにオンライン英会話で自分の作成した文章にもとづいてオンラインの先生と一対一でディスカッションしていきます。こういったことがICTの活用により授業で実現しています。

個別最適化、そして多様な学びということで同志社の英語教育もこういった最先端のテクノロジーを取り入れながら実践していけたらよいと考えています。

同志社の英語教育を新島襄先生の生き方、考え方、教育理念を加味しながら実践されていることが大変よく伝わりました。ありがとうございます。とのお話がありました。

一貫教育探求センターWEBサイト

<https://www.doshisha-ikkan.info/>



2025年8月実施 あたらしい自由の風を、世界へ、未来へ。



## 学校法人同志社創立150周年記念事業 新島襄の足跡を辿るアメリカツアー ーアーモスト大学での記念集会ほかー

同志社の源流を探るためにアーモスト（アーモスト大学）、ラットランド（グレイス教会）、アンドーヴァー（フィリップス・アカデミー）、ボストンをめぐるツアー（4泊6日）を実施いたします。ツアーガイドは、本井康博元同志社大学神学部教授です。

ツアーのメインは、新島襄を「輝かしいアーモストの息子」と称えるアーモスト大学、それも彼の肖像画を正面に飾るジョンソンチャペルでの記念集会です。同志社内4中学校・高等学校の8人の生徒もスピーチをいたしますので、ご家族の参加も歓迎いたします。終了後は、アーモスト大学関係者とのレセプションも予定しています。

このツアーを通して、同志社の原点を振り返りながら大いに交流を深めたいと思っています。この記念すべきイベントに多くの皆様のご参加をお待ちしています。

\*8人の生徒の旅行代金等の半額を一般財団法人同志社日米文化財団様から補助をいただいております（一般財団法人同志社日米文化財団については右に記載の2次元バーコードをご覧ください）。



### 《募集要項》

**日程** 2025年8月22日（金）～ 27日（水） 4泊6日

**経路** マサチューセッツ州 アーモスト → ヴァーモント州 ラットランド → マサチューセッツ州 アンドーヴァー → マサチューセッツ州 ボストン

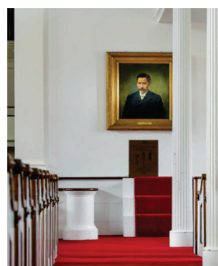
**人数** 40名

**旅行代金** 概算595,800円  
※2024年11月頃に再度ご案内いたします。

**申込** 下記QRコードより  
※2025年2月末日締め切り



アーモスト大学  
ジョンソンチャペル



ジョンソンチャペル  
礼拝堂に飾られている  
新島襄の肖像画

お問い合わせ先：学校法人同志社創立150周年記念事業事務局  
TEL：075-251-2710 E-mail：ji-150th@mail.doshisha.ac.jp

# ハリス理化学館同志社ギャラリー展示ご案内

ハリス理化学館同志社ギャラリーは、創立者新島襄の志と同志社の歴史等を資料で紹介する展示施設です。ハリス理化学館は、J.N.ハリスの寄附をもとに1890（明治23）年に竣工し、永らく同志社における理化学教育の拠点となった建物です。現在、国の重要文化財に指定されています。

## 【企画展】

ハリス理化学館同志社ギャラリー第32回企画展

同志社創立150周年記念

合唱の同志社—One Purpose DOSHISHA 合唱が紡ぐ150年 現在～過去～未来—

期 間：2024年9月24日（火）～11月17日（日）

場 所：2階 企画展示室

主 催：学校法人同志社、創立150周年記念全同志社合唱祭実行委員会

内 容：同志社創立150周年を目前に控えた本年、創立150周年記念事業の1つとして、11月9日、全同志社合唱祭が開催されます。在学生やOB・OGのみならず、保護者らが組織し、運営してきた20団体以上のコーラス・合唱団が一堂に会して実施される、同志社では125周年に引き続き開催される、伝統の合唱祭です。

本展はこの合唱祭に合わせて企画されました。この合唱祭の参加者には共通する想いがあります。それは、同志社の歴史と共に歩んできたコーラス・合唱に関する歴史を残したいという願い、そして、新型コロナウイルスによる未曾有の災害を経験してもなお、未来を向いて活動する自分たちの姿を示したいという想いです。その想いのままに、協力を得られた20団体が、多くの方々に見ていただきたいと選出した250点余りの資料を展示いたします。100年近くの歴史を有する団体から、創立後数年という団体まで様々な歴史的背景を有する各団体が、自らの歩みを形で示そうとする試みを是非ご覧ください。



ペナント「第一回東西四大学OB合唱連盟演奏会」  
1977年 1点 同志社グリークラブOB会所蔵



レコード「混声合唱とピアノ・打楽器のための合唱組曲 宇宙戦艦ヤマト」日本コロムビア株式会社  
1979年11月 1枚 中村正平氏所蔵

【入 場 料】 無料

【開館時間】 10：00～17：00（最終入館 16：30まで）

【閉 館 日】 日曜日（企画展開催中を除く）・月曜日・祝日・GW・夏期休暇中の一定期間・年末年始

【場 所】 同志社大学 今出川キャンパス

※駐車場、駐輪場はありません。公共交通機関をご利用ください。



## 【お問合せ先】

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務局

HP：<https://harris.doshisha.ac.jp/>

E-mail：[ji-harjm@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-harjm@mail.doshisha.ac.jp)

TEL：075-251-2716 FAX：075-251-2736



## 新島旧邸公開のお知らせ

新島旧邸の敷地には、幕末まで京都大工頭中井家の屋敷があり、明治初年には中井屋敷を堂上華族の高松保実が所有していました。1875（明治8）年11月29日、新島襄は、この高松邸の半分を賃借して仮校舎とし、生徒8名で同志社英学校を開校しました。翌年、英学校は薩摩藩邸跡地の専用校舎に移りますが、その後、新島は高松邸を購入し、自宅を1878（明治11）年に建築しました。これが、現在の新島旧邸です。同志社発祥の地に建つ新島旧邸を、同志社の建学の理念を体感する場として公開しています。

【公開期間】 4～7月、9～11月、3月

①通常公開 毎週火・木・土曜日  
（祝日は除く、2024年4月28日～5月6日は閉館）

②特別公開 春の特別公開（2024年度分は終了）  
オープンキャンパス（2024年度分は終了）  
秋の特別公開 10月1～5日  
ホームカミングデー 11月10日  
創立記念日 11月29日  
大学卒業式 2025年3月20～22日

※公開日の詳細はHPをご覧ください。

<https://archives.doshisha.ac.jp/archives/>

【公開時間】 10：00～16：00（入館受付は15：30まで）

【見学対象】 ①通常公開

旧邸周囲から建物内部を見学（建物内部には入場できません）。

②特別公開

旧邸周囲および建物内部（母屋1階と付属屋）に入場できます。

※旧邸建物内に一度に入れる人数は20名程度とします。

【入 場 料】 無料

【場 所】 京都市上京区寺町通丸太町上ル松蔭町

※駐車場、駐輪場はありません。公共交通機関を利用してお越しください。

【団体見学申込】 10名以上の団体は、予約が必要です。団体予約は、見学日の1週間前までに電話・FAX・E-mailにて下記にお申し込みください（電話受付は10：00～16：30）。



お問合せ先

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務室

HP：<https://harris.doshisha.ac.jp/>

E-mail：[ji-harjm@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-harjm@mail.doshisha.ac.jp)

TEL：075-251-2716 FAX：075-251-2736



## 同志社女子大学史料センター 第28回企画展 同志社女子大学の新たな挑戦：21世紀の広報戦略

同志社女子大学は、2000年以降4学部6学科（英語英文学科と日本語日本文学科は学芸学部から表象文化学部に移設）を新設しました。そうした学部学科の新設に際して、本学は様々な広報活動を展開してきました。さらには、我が国において長い歴史を有する女子教育機関としての伝統を踏まえつつも、新たな時代の社会変化に対応する戦略を試行錯誤してきました。今回の企画展では、本学が21世紀における女子教育のあり方を、どのように志向し社会に発信してきたか、2000年以降の広報活動関連の資料を基に振り返る機会にしたいと考えています。

期 間：2024年11月22日(金)～2025年7月31日(木)

時 間：10：00～16：00

閉室日：土・日・祝日および2024年11月29日、12月25日、12月30日～2025年1月3日、  
5月1日～2日

(ただし、2024年11月23日～24日、2025年4月29日、7月21日は開室しております。)

場 所：同志社女子大学史料センター

(今出川キャンパスジェームズ館1階展示室)

主 催：同志社女子大学

### ★公開講演会★

日 時：2025年2月1日（土）14：00～15：00

講演者：川田隆雄教授（本学学芸学部メディア創造学科所属）

会 場：今出川キャンパス内

※詳細は決まり次第、同志社女子大学HPやチラシなどでお知らせいたします。



お問い合わせ：同志社女子大学史料センター

〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入

TEL：075-251-4200 FAX：075-251-4201

E-mail：shiryo-i@dwc.doshisha.ac.jp

## 同志社校友会からのお知らせ



同志社設立10年後の1885年に「アルム二会」として発足したのが、同志社校友会の始まりです。主な目的は、卒業生の親睦と大学との連携を通じた学生の支援です。現在、約37万人の会員となり、国内はもとより、各国に支部があります。

2020年春からコロナ禍で、経済的に困窮している学生支援のため、同志社大学と連携して2020年5月から6月にかけて商店街やスーパーで利用できる食生活応援クーポンを配布し一人暮らしの食生活サポートを行う事ができました。

その後も、コロナ禍において「同志社校友会ランチプロジェクト」として学内の食堂において、200円の補助をすることで、学生の経済的な負担を軽減し、2022年12月には累積で約33万人の支援ができました。

2023年度になり大学の授業等がコロナ前の状態に戻ることに対応し、学内の食堂で副食として小鉢の提供をしました。栄養バランスの取れた食事を通じて学生が健全な生活ができるよう支援をしました。また、小鉢の提供とともに「学生の食生活に関する意識調査」を実施しました。結果は、一人暮らしの学生は1日2食の生活をしている比率が高く、規則正しい食生活が送れていないことが推察されました。

2024年度は意識調査の結果を踏まえて、学生への支援を継続し、充実した学生生活を送ってもらえるよう対応してまいります。

### 活動の概要

#### ①卒業生と繋がる同志社校友会

2024年7月現在、国内に48の支部、海外に36の支部が存在し卒業生に対して、現地の校友会がサポートをしています。

連絡先は、QRコードまたは、[同志社校友会](#) で検索してください。



#### ②大学と繋がる同志社校友会

同志社大学が掲げるリーダー育成、グローバル化への支援、「同志社大学2025 ALL DOSHISHA募金」の推進など大学と連携した活動を行っています。

#### ③学生を支える同志社校友会

「同志社校友会奨学金」、「同志社スポーツ奨学金」、海外留学生支援として「グローバル人材育成奨学金」など各種給付型の奨学金制度を通じて教育と学生生活の充実がはかれるサポートを行っています。

同志社校友会本部事務局

TEL 075-251-4393

E-mail [info00@doshisha-alumni.org](mailto:info00@doshisha-alumni.org)



## 同志社同窓会の歩みと年間行事・事業



### <同志社同窓会とは>

同志社同窓会は1893年に同志社女学校の同窓会として設立されました。それは1876年の女学校創立より17年後のことで、96名の母校愛あふれる卒業生と有志らによるものでした。制定された規約の第1条には「会員たるものは相互の交誼を密にし且同志社女学校の益を図るを目的とする」とあります。

創設131年となる同志社同窓会は、女子大学、大学院、女子高校および中学、旧制女専、高女の卒業生・修了生によって構成されており、62支部（国内59支部、海外3支部）に95,000名を超える会員を有しています。同志社女子大学《Vineの会》と同志社女子中高同窓会「同志社ゆかり会」もふくめ、同志社女子部全体の同窓会です。

### <同志社同窓会の歩み>

母校で「地の塩・世の光」（マタイ5：13）となるようにと教えられ育まれた卒業生たちは卒業後も良き姉妹として年に1度「母校に帰る日」を決めて集まり、礼拝をもって総会を持ち、年会（大同窓会）を開いたとの記録が残っています。それは今も引き継がれています。また、現在の「同志社同窓会報」の前身である「同志社女学校期報」が同窓会の創設事業として発行されました。そして同志社を愛し、女学校と生徒・卒業生らを愛し、同志社栄光館を建てるためにも尽力されたM.F.デントン先生から多大な感化を受け、その教えを守って様々な活動を続けています。母校への寄付金を集めるためにと教えてくださったバザーは同志社同窓会の大切な行事の一つになっています。

#### 年間活動と行事・事業

春（5月）と秋（9月）の幹事会

7月 同志社同窓会総会

3年に1度は総会の前日に支部長会開催

10月 バザー開催

11月 全同志社リユニオン（法人同志社、同志社大学、校友会と共催）

同窓会ルームで催物

12月 ミス・デントン永眠記念墓前礼拝（相国寺 長得院の墓前での礼拝）

2月 新島襄生誕記念会（学校法人同志社、同志社校友会と共催）

3月 女子高、女子大学卒業生対象入会式

その他、奨学金贈呈や会報の発行、同窓会館の運営（紫苑会講習としてヨガ、華道、茶道、料理教室を開講）、貸室、女子中高購買・食堂の運営

\* ホームページ <https://www.dojo-doso.org>

\* E-Mail [dojodoso@juno.ocn.ne.jp](mailto:dojodoso@juno.ocn.ne.jp)

本号ではSTEAM教育座談会を特集として掲載しております。座談会の中ですでに話されているように、STEAM教育は、Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Mathematics (数学)の四つを柱とする理系的なSTEM教育にArtsを組み入れて、いっそう統合的な学びを推進していく教育的活動を指しています。Artsは、「リベラルアーツや芸術分野」に関連しています。

「同志社だからこそSTEAM教育をリードしたい」という座談会の提題から見て取れるように、これまで、同志社は、STEAM教育をさまざまな形で展開してきました。同志社大学には、プロジェ

クト科目があり、それに加えて、ローム記念館プロジェクトがあります。こうした活動では、いろいろな背景を持つ学生たちが集まりさまざまな分野の知識を駆使しながら企画を練り上げ成果を発信していきます。座談会では、同志社中学校の取り組みを紹介していた「アジアSTEAM教育キャンプ」とか「宇宙探求プロジェクト」とかといった先進的な活動が多方面で走っています。同志社小学校も、「F1カー大研究」と「岩倉川生き物多様性プロジェクト」を始めとして、多様な授業を取り入れています。とくに、同志社小学校は、子どもたちの感覚を研ぎ澄ますと

ころに学びの照準を定めています。同志社小学校が注力している「道草教育」とSTEAM教育との親和性が高いこと。同志社中学校でも「道草研究」の精神が自由研究の中に实际的に息づいていること。座談会に参加された各先生の発言から、校祖新島襄が私学の使命として掲げた教育の理念が現代的な装いを纏いながらも同志社を貫いている、この真実を改めて発見できるのではないのでしょうか。座談会の記事にあるように、STEAM教育は、文理融合の視点を内蔵していると思います。STEAM教育は、字面では、S、T、E、A、Mという仕方です五つの領域を並列的に配置しています。し

かし、Artsを「技芸」と捉えれば、科学、技術、工学、数学のそれぞれば、技芸の一端に過ぎないので、リベラルアーツも含め、わたしたちの探究のあり方を包括的に理解できるようななるはず。このような融合は、まさに「人類の叡智」としての、「文化」であり、それを支えるのは、多様性、すなわち、ダイバーシティでなければならぬのではないのでしょうか。ご多用の中、本号にご寄稿いただいた諸氏には、この場を借りまして篤くお礼を申し上げます。煩瑣な編集の作業にご尽力いただいた広報課の首藤右紀氏と末廣明日香氏にも深甚の感謝を申し上げます。(新)

●同志社広報委員会小委員会委員

○印委員長

- |                       |         |     |
|-----------------------|---------|-----|
| ○大学文学部教授              | 新 宅 威之仁 | 茂之  |
| 大学神学部教授               | 三 梶 真也  | 新 宅 |
| 大学社会学部教授              | 望 月 詩史  | 茂之  |
| 大学法学部教授               | 原 田 慎行  | 三 梶 |
| 大学経済学部准教授             | 高 橋 広実  | 望 月 |
| 大学商学部教授               | 多 星 英仁  | 原 田 |
| 大学政策学部教授              | 近 藤 弘一  | 高 橋 |
| 大学文化情報学部准教授           | 高 柳 真司  | 多 星 |
| 大学理工学部教授              | 石 井 好二郎 | 近 藤 |
| 大学生命医科学部准教授           | 神 山 貴弥  | 高 柳 |
| 大学スポーツ健康科学部教授         | 内 宮 尚克  | 石 井 |
| 大学心理学部教授              | 牛 渡 克之  | 神 山 |
| 大学グローバル・コミュニケーション学部教授 | 竹 井 史   | 内 宮 |
| 大学グローバル地域文化学部助教       | 根 本 美和  | 牛 渡 |
| 女子大学学芸学部教授            | 三 橋 直人  | 竹 井 |
| 女子大学現代社会学部教授          | 米 田 祐子  | 根 本 |
| 女子大学薬学部教授             | 鎌 田 伸一  | 三 橋 |
| 女子大学看護学部教授            | 池 上 信行  | 米 田 |
| 女子大学表象文化学部准教授         | 磯 田 浩久  | 鎌 田 |
| 女子大学生活科学部准教授          | 川 嶋 佳利  | 池 上 |
| 中学校・高等学校事務長           | 堀 岡 恵望  | 磯 田 |
| 香里中学校・高等学校事務長         | 竹 中 柳井  | 川 嶋 |
| 女子中学校・高等学校事務長         | 木 下 裕一  | 堀 岡 |
| 国際中学校・高等学校事務長         | 田 中 裕一  | 竹 中 |
| 小学校事務長                | 中 原 伸夫  | 木 下 |
| 国際学院事務長               | 前 野 健   | 田 中 |
| 幼稚園教諭                 |         | 中 原 |
| 法人事務部長                |         | 前 野 |
| 大学広報部長                |         |     |
| 法人事務部校友同窓課長           |         |     |
| 大学広報部広報課長             |         |     |
| 女子大学広報部広報室広報課長        |         |     |

※職名は同志社広報委員会小委員会発足時のものです。

●編集協力 アルカダッシュ

●同志社時報の申し込み

・送料 (ゆうメール着払い: 1冊249円) のみのご負担で  
ご購読いただけます。

・お申し込みは、綴じ込みハガキをご利用ください。

・宛先 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入  
同志社大学広報課

同志社時報 第158号

編集人 新 茂之

発行人 八田英二

発行 学校法人同志社

同志社大学広報課

電話 (075) 251-3120

印刷所 株式会社あおぞら印刷

2024年10月1日発行